東照宮寶塔

The Mausoleum of Tōshōgū.

坂下門より奥の院參道を登り盡せば東照廟に達す、入口の唐銅鳥居の額は、後水尾院の宸翰なり。拜殿は前面五間、横三間奥に唐銅の鑄拔門あり、左右より玉垣を廻らし、中に唐銅の寶塔一基を安置す。玉垣の外は、高く石垣を廻らし、老松古杉鬱蒼として、枝を交へ、永へに英靈を吊ふ所、神威寂に峻嚴なり。因に家康は元和二年四月十七日駿府に薨ず、行年七十三、遺骸を駿州久能山に葬りしが、天海僧正への遺命により、翌三年三月十五日晃山に改葬す、是より先正一位大政大臣を贈られ、勅して東照東權現と云ふ。

は桐に鳳凰を畫き、紫檀、黑檀等の寄木細工は絢爛實に目を驚す、是舊將軍の御坐の間なり。西は舊法親王の休息所にして、羽目には、鷲に松柏の彫工を凝らせり。

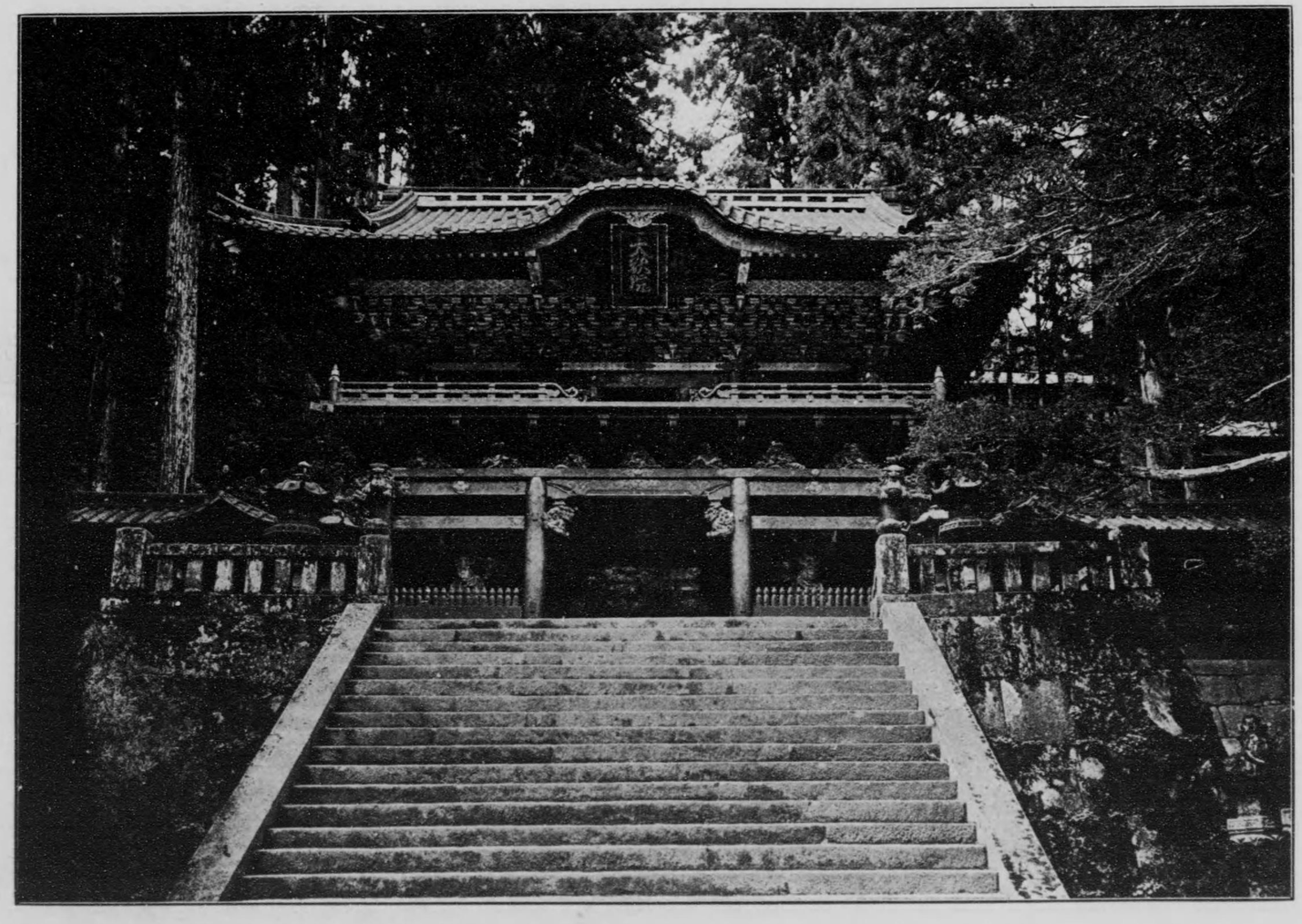
大獻院仁王門

大獻院（ダイユウ）は三代將軍家光の廟墓なり、方俗東照宮を御宮といふに對し、御靈屋といひ、今に輪王寺僧徒の供奉する所とす。東照宮の西凡そ六町、慶安四年、遺命に依り、靈柩を當山に據う。仁王門は即ち其表門なり、前の腰間に阿吽の金剛王を安置し、後にも同形の二體を安す、左右は銅葺に朱塗の塀垣を折廻はし、東の方は裏門迄に至り、西の方は相輪塔の邊に至る。門内は角石を敷詰め、廣庭には諸侯の寄進に係る石燈籠數百基あり、社殿を繞る十餘株の古杉は往古より此に蟠踞せしものなりといふ。

The Niō-mon (Gate), Dai-yū-in.

大獻廟第二の門なり、前後の破風下には、北壯の狹を彫り、前には後光明院の宸幹なる、大獻院の額を掲ぐ、上段は極彩色にして

大猷院仁天門

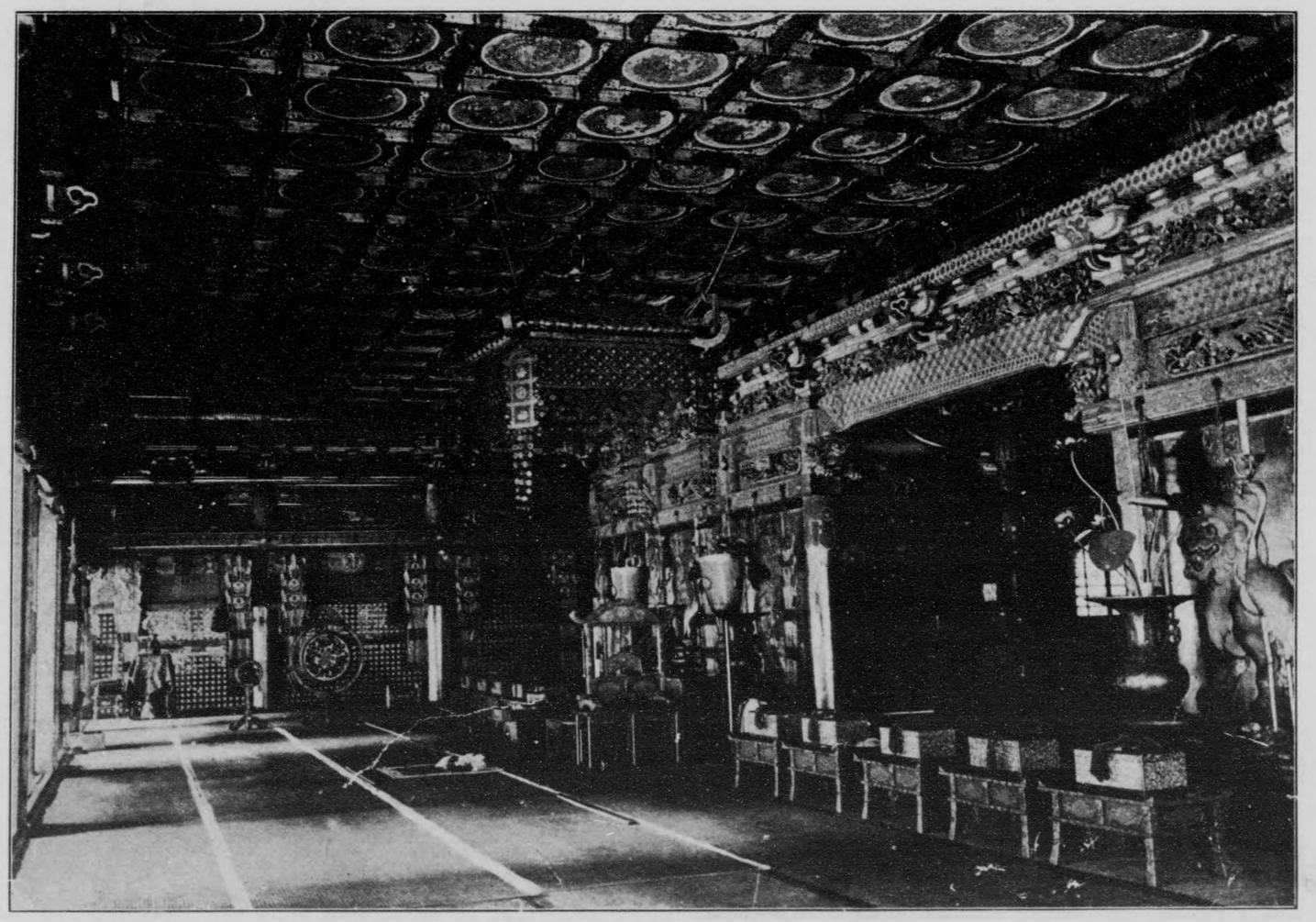


大猷廟第二の門なり、前後の破風下には、壯壯の獏を彫り、前には後光明院の宸幹なる、大猷院の篇額を掲ぐ、上段は極彩色にして下段は黑塗なり、前の腰間には、廣目天、持國天、後には、雷神、風神を安置す。金碧を鏤め、五彩を粧ひ、彫琢緻密の善美を盡せり。

The Niten-mon (Gate), Dai-yū-in.

二體を安ず、左右は銅葺に朱塗の塀垣を折廻はし、東の方は裏門迄に至り、西の方は相輪塔の邊に至る。門内は角石を敷詰め、廣庭には諸侯の寄進に係る石燈籠數百基あり、社殿を繞る十餘株の古杉は往古より此に蟠踞せしものなりといふ。

大猷院拜殿之内陣



The Hall of Worship, Dai-yu-in

殿内は疊數六十三、中央に金梨地の高机を据ゑ、上に鍍金の天蓋を吊る、其左には朝鮮より獻ぜし、珉瑁の釣燈籠及樂器等を陳列す、奥の羽目板なる獅子の畫は、狩野安信の筆なりといふ、小殿の内外は悉く金の押箔にして、金碧燦然人目を奪ふ。因に東照宮といひ、大猷廟といひ、其精巧雄麗なる建築は、只に俗眼を驚かすに過ぎずと看做すべからず、建築物の位置、及び性質等に應じ巧みに其裝飾を適合せしめたるは、周く具眼者の首肯する所なり。

大猷院の拜殿の右側潜門を入れば、皇嘉門なり、即ち奥の院の入口にして、樓腹は白堊を以て築き、天井に天女を畫く、朝廷より賜りたるものなりといふ。別稱龍宮とも稱ふ。因に大猷公の臣に梶左兵衛督定良といふ者あり。無二の忠臣にて、薨去後、日光に移り、

皇　嘉　門

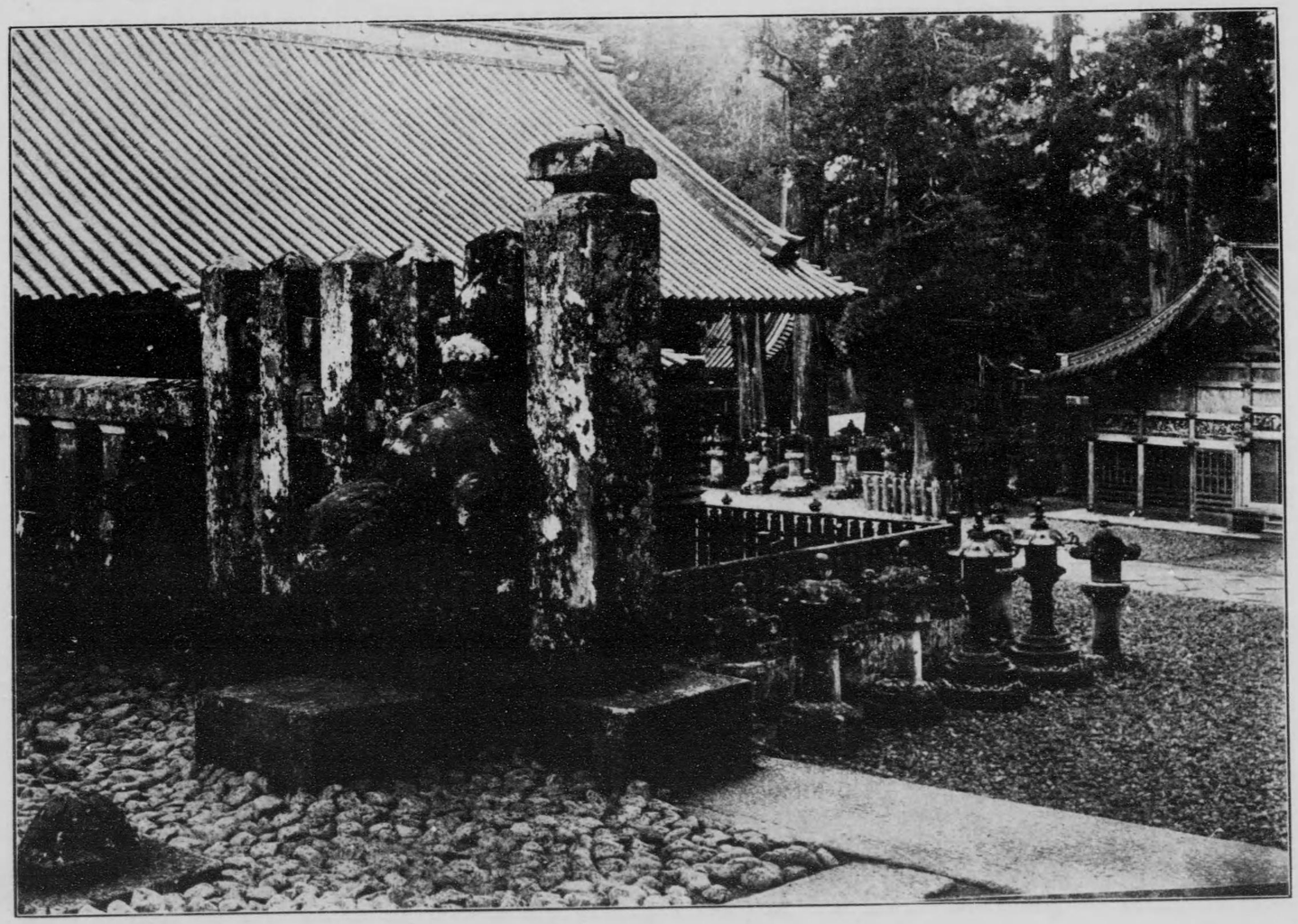
The Kōka-mon (Gate.)

大猷廟といひ、其精巧雄麗なる建築は、只に俗眼を驚かすに過ぎずと看做すべからず、建築物の位置、及び性質等に應じ巧みに其裝飾を適合せしめたるは、周く具眼者の首肯する所なり。

大猷院の拜殿の右側潛門を入れば、皇嘉門なり、即ち奥の院の入口にして、樓腹は白堊を以て築き、天井に天女を畫く、朝廷より賜りたるものなりといふ。別稱龍宮とも稱ふ。因に大猷公の臣に梶左兵衛督定良といふ者あり。無二の忠臣にて、薨去後、日光に移り、朝夕自ら炊事をなし供物を備へ、君前に仕ふるが如くす。水戸西山公嘗て褒辭を下し、今に其遺骸を奥院寶塔の傍らに葬りて、其精忠を旌せり。

飛越獅子

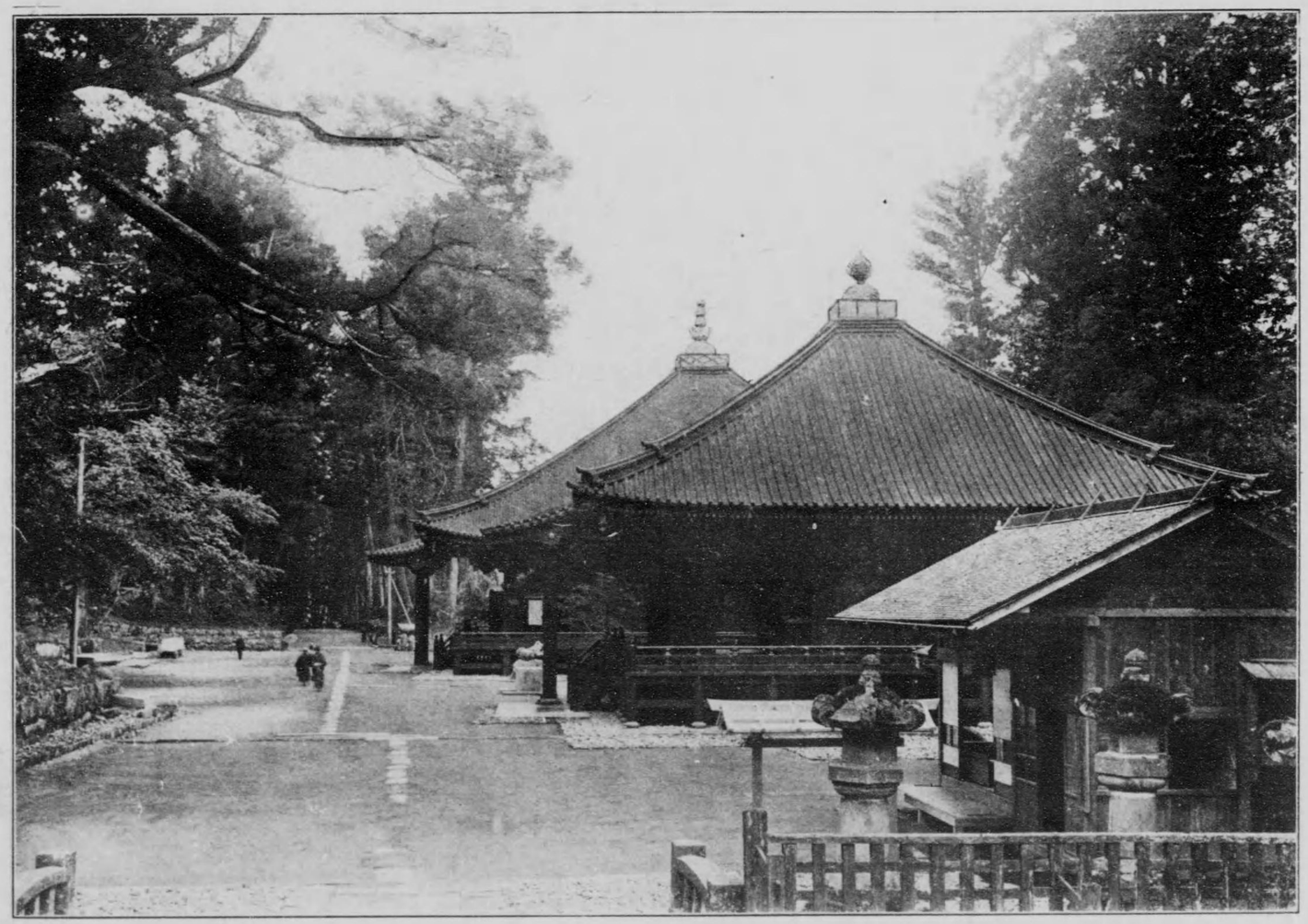
東照宮陽明門の石段を登れば、左右の石欄へ、造り作けたる一雙の唐獅子あり、世に飛越の獅子といふ。實に蒼鬱たる、萬古の巨林より躍り出でたるが如く、尖鋭脈動せる爪牙、光潤潤澤なる皮毛、炯々たる眼光、觀者を睥睨して、自ら慓然たらしむるものあり、活躍の狀、眞を寫して、其名空しからず。將軍家光特に其妙技を感嘗せしとて、又、恐悦の獅子の名あり。



The Stone-statue of Jumping Lion.

五重大塔の西にして、二荒新宮の南に當り、舊は金堂と相對せり。東なるを常行堂といひ、銅聳、二重垂木、赤壁、欄間彫刻色、十間に五間、本尊は寶冠の阿彌陀、左右に四菩薩、また後方に摩多羅神を安ず。此堂は、嘉祥年中、慈覺大師登山し、叡山に模して、

二つ堂



The Futatsu-dō.

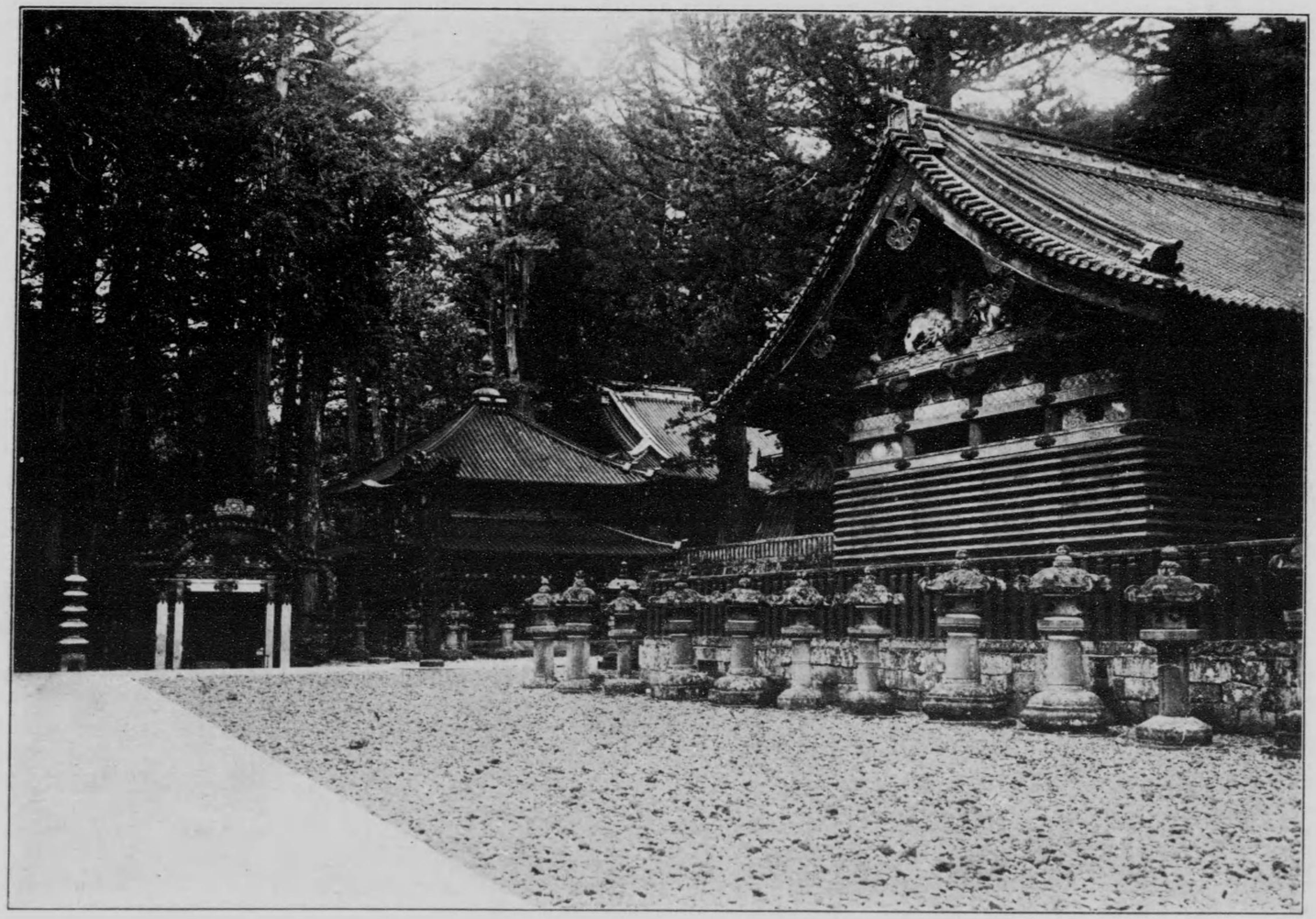
五重大塔の西にして、二荒新宮の南に當り、舊は金堂と相對せり。東なるを常行堂といひ、副聳、二重垂木、赤壁、欄間彫刻色、十間に五間、本尊は寶冠の阿彌陀、左右に四菩薩、また後方に摩多羅神を安す。此堂は、嘉祥年中、慈覺大師登山し、叡山に模して、佛岩谷に剏建したるもの、此時より天台一派を興し、顯密繁盛となる。其後源頼朝、燈油料として、寒河郡に十五町の地を寄進したるにより、俗に頼朝堂ともいふ。之に並ぶ法華堂は。其構前者と大同小異にして、五間に四間、本尊には普賢菩薩を安置す。

活躍の狀、眞を穿して、其名空しからず。將軍家光特に其妙技を感賞せしとて、又、恐悦の獅子の名あり。

三神庫

三神庫は三棟亞(アヒ)脊造り、二王門を入りて右方に相双ぶ、第一第二の神庫は祭典の諸道具を藏し、第三の神庫は、甲冑、武器等を納む、共に銅葺總朱塗なり、金物には全部鍍金を施し、彫刻は花鳥草木の極彩色、柱上は金欄巻、一庫毎に三扉あり、前に椽及階を設く、第一の神庫外長押上は破風、下に鼠色と白色との大象を彩色に圖せり、大さ五尺許、探幽の下繪なりと傳ふ。御水屋(ミタラシ・ヤ)は三神庫より左方に

御水屋



The On-chōdzu-ya (Sacred Cistern).

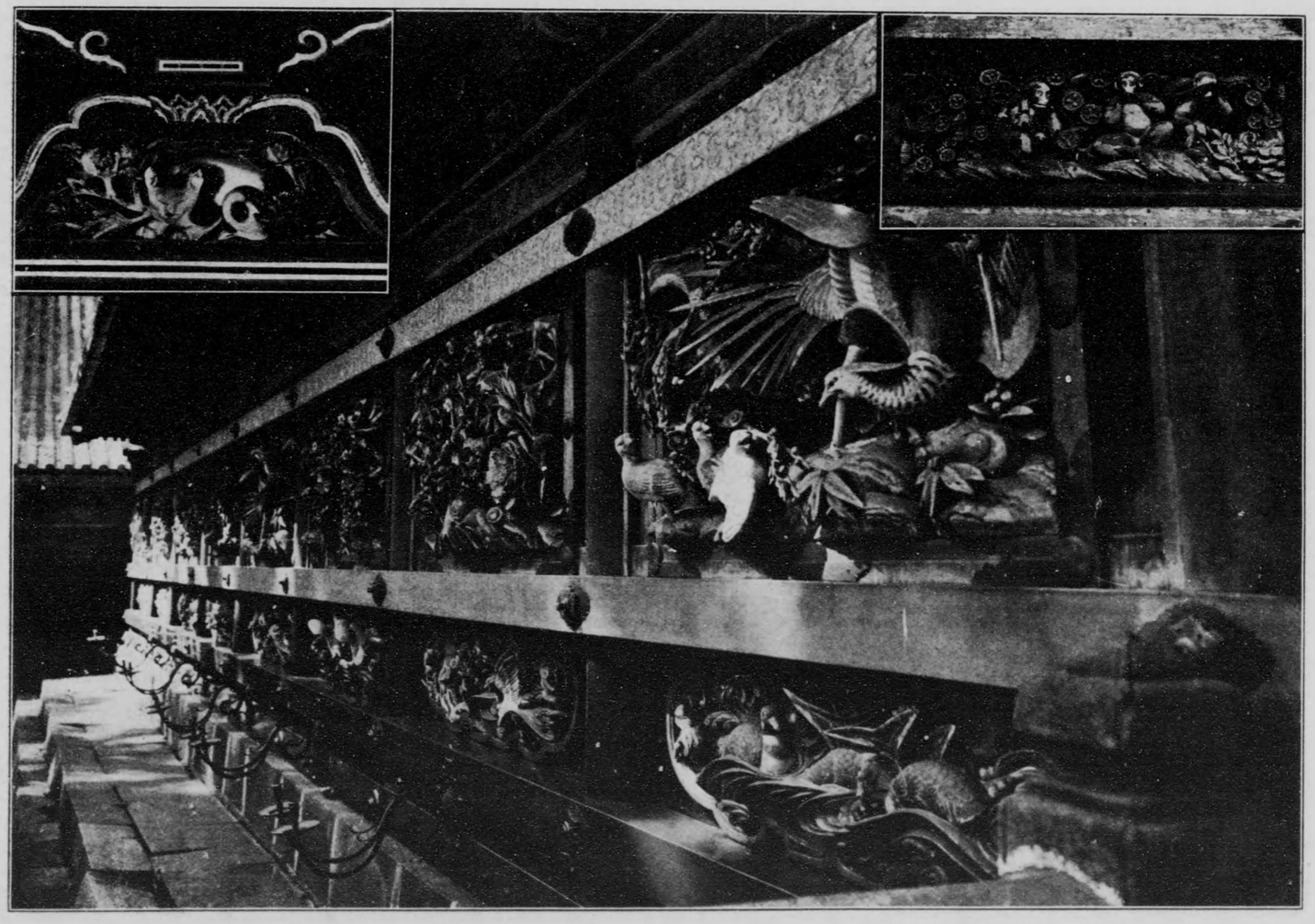
The Three Sacred Warehouses.

あり、覆屋は石柱に金具を打ち、天井の巨龍は、狩野安信の畫く所、水盤は花崗石にして、長八尺三寸、幅四尺、高三尺五寸、清泉常に滾々として溢る。

大圖は東照宮の廻廊にして、陽明門に連り左右二間は黑塗、それより先は朱塗なり、總銅葺にして、東の廻廊十五六間目より、大樂院廻廊に連る、全長百間に餘り、外面には、松竹梅、鳳凰等の大彫刻あり、金玉瞳を射、奇工魂を鎖す。右圖は廐舍外長押上の猿、

精巧妙技

三國の猿　陽明門廻廊の彫鏤　眠り猫



大圖は東照宮の廻廊にして、陽明門に連り左右二間は黑塗、それより先は朱塗なり、總浦葺にして、東の廻廊十五六間目より、大樂院廻廊に連る、全長百間に餘り、外面には、松竹梅、鳳凰等の大彫刻あり、金玉瞳を射、奇工魂を鎖す。右圖は廐舍外長押上の猿、

所謂、見ザル、聞ザル、言ザルは即ち是、飛驒の匠左甚五郎が作にして、丹亞の彩已に褪せたりと雖も、妙技神に迫れり。左圖は奥の院入口坂下門の廻廊の潛門なる眠猫にして、之亦甚五郎が熱血の作、三尺の童子も知れる名高き彫刻なりとす。

The Sleeping Cat.　The Exterior Carvings of the Corridor.　The Three Monkeys.

あり、覆屋は石柱に金具を打ち、天井の巨龍は、狩野安信の畫く所、水盤は花崗石にして、長八尺三寸、幅四尺、高三尺五寸、清泉常に滾々として溢る。

奥の院道

The Stone Steps up to the Mausoleum.

三佛堂と雙輪塔

The Sambutsu-dō and Sōrin-tō

坂下門を入れば、奥の院に至る石階あり、階は一級毎に一枚石にして、坂の石柵は悉く彫拔きなり、兩側は老杉蒼鬱、天を掩ふて、晝尙暗く、嵐風颯々梢を拂ひ、地苔しめりやかに、嚴を閉し、幽邃の狀掬するに堪えたり。三佛堂は當山第一の瓦殿にして、慶安元年、之を日光新宮の東に建てらる。明治十四年移轉、今の地に置かる、十八間に十五間、銅葺朱塗、阿彌陀千手觀音を安置す、又堂の一隅には、開基勝道上人の木像あり。雙輪塔は護法堂の西に在り、唐銅の鑄物にして、高四丈四尺、廻九尺五寸、上部に金の環塔二十七連と二十四個の金鈴とを懸く、下に六十四句の願文を銘記せり、天海僧正の建立なりといふ。

日光遊覽案内圖

の一隅には、開基勝道上人の木像あり、雙輪塔は護法堂の西に在り、唐銅の鑄物にして、高四丈四尺、廻九尺五寸、上部に金の瓔珞二十七連と二十四個の金鈴とを懸く、下に六十四句の願文を銘記せり、天海僧正の建立なりといふ。

日光遊覽案内圖

神橋ヨリ里程

東照宮十五丁 中宮祠四里八丁
尤倉山御料地十五丁 龍頭瀧五里
外山二十五丁 中岩橋三里十三丁
霧降瀧一里七丁 湯瀧六里六丁
含滿淵十六丁 湯本七里五丁
大日堂二十二丁 若子七瀧一里
瀧尾社二十三丁 方等瀧三里
清瀧一里十四丁 般若瀧三里
馬返し二里 志津二里八丁
裏見瀧一里十五丁 慈觀瀧三里
中ノ茶屋一里十八丁 細尾二里
華嚴瀧四里 足尾町七里二丁

男体山
太郎山
湯本温泉
湯のうみ
湯瀧
こがや一口水
りうづの瀧
ちごく釜や
養魚所
戦場原
方等瀧
般若瀧
中茶屋
中宮祠
中禪寺湖
上の島
大尻
歌濱
華嚴瀧
足尾町
馬返し
風穴
大日堂
れんげ石町
含まん
はげちざうろ
うら見瀧
くじらはら
たも澤
慈ゑん瀧
寂光たき
ふづ
二荒神社
ぼけどうろ
三代將軍廟
大師堂
護國殿
法華堂
常行堂
御死墓
釋迦堂
ホテル
公園
朝やろ丸
五重塔

人間一生涯事有限有之者
世をゆめゝゝしく無之
江戸自国元常と相の人ハ家老
之ハ不絶相続国家之
時と思ひ出之へし他国之事
長久社寺いろハ敵と相の人勝事
ハ不可有之事
家業ハ不絶事ハ
世之所為ハ迷ふ事ハ
事

元和六年正月吉日

家康

五　重　塔

東照宮表門外、石鳥居と二王門との間にありて、西方に當れり。塔内は三間四方、本尊、五智如來、並に須彌の四天及其他の諸尊を安置す。慶安三年　若狹小濱の侍從、酒井忠勝の寄進に係る。總高十七間二尺、桂金欄卷、二手先總彩色、外承塵（外長押）の上通りに十二支の彫刻あり、生氣脉々たり。二重垂木銅葺四方墨塗にして、扉に葵の紋あり。外通りは朱塗、約八間四方、繞らすに鉾石の玉垣を以てせり。因に石大華居は、總高二丈七尺六寸五分、桂石の直徑三尺五寸、元和四年、筑前守黑田長政の獻ぜしもの、後水尾院の勅額を掲ぐ。

The Go-jū-no-tō (Pagoda).

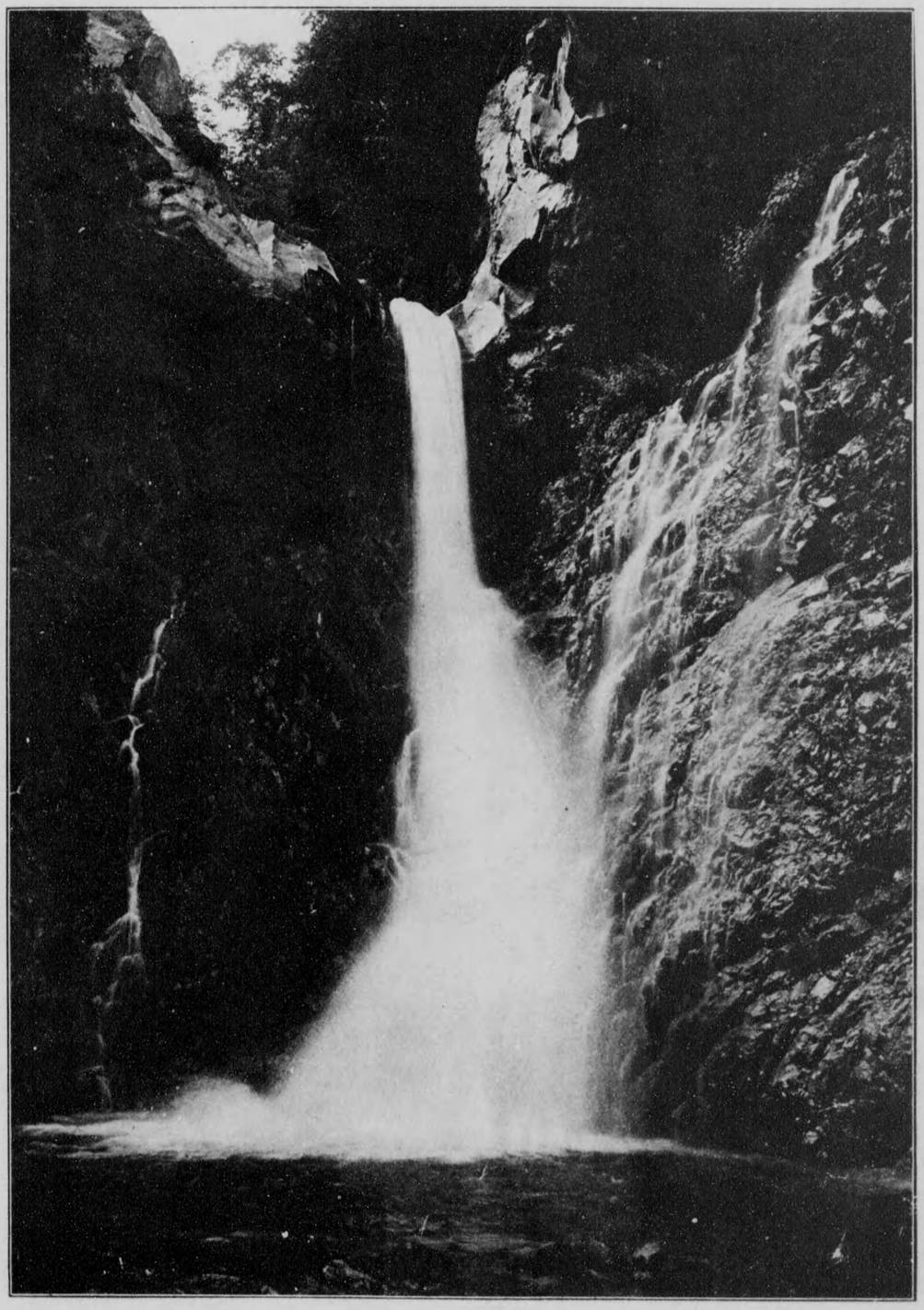
華　　嚴　　瀑

華嚴瀑は晃山七十二瀑の魁に推され、聲名廣く世に聞ゆ。不動坂より、中禪寺、大平に至る路邊より南にあり、即ち大谷川の源にして、中禪寺湖の水、懸崖を瀉下する七十餘丈、幅八間に餘る。水聲轟轟、耳を聾し、水煙迸りて、咫尺を辨ぜざらしむ。然れども、蟋むらくは、古來僅に之を俯視して、半面を窺ふに止りしに、近時古稀の一老爺十年一日の苦心に依て一徑を作り、客を延く即ち五郎平茶屋是也。此處より瀑を仰げば、全瀑呈露、雄壯偉大、實に言語に絶するを見る。若夫れ紅葉彩錦の候、瀑流凍結の季に至りては、其美絶壯絶、鬼工の妙趣、玆に全く盡きたるを疑はしむ。

Kégon-no-taki (W.F.)

裏　　見　　瀧

神橋の西北、一里五丁にして、裏見瀧あり。一に、阿含瀧、又荒澤瀧といふ。盤岩凡一間餘差出でたる上より、瀑水激流して、輕落飛降すること十餘丈、白糸、相左の二瀑ありて、之を挾み、翠松頭上に聳り、蟠根巖を掴み、巨龍白雲に駕して、天上するの慨あり、瀧口恰も笈の如く、巖石を纍ぢて、其下に至れば、即ち瀧の背面より、其絶勝を探るを得べく、洵に裏見の名に背かず。因に最近の出水にて、瀧稍舊型を革むるに至れり。



Urami-no-taki (W.F.)

華厳瀧壺に通ずる小徑を下れば、白雲の瀧あり、高約三十仞幅之に應じ、瀧の中腹に架せる𪜈鵠(カササギ)の橋といふ。飛沫橋欄を霑し怒濤橋脚を震ふ、眞に壯觀なり。霧降瀧は鉢石町の北、大約一里半にあり、石壁疊出せる巔を逆り、數萬の銀縷紛然亂下する事十餘仞、一段を爲し、騰々更に千二三仞、垂流半より二派に分れ、濛々として、宛然霧の如く、衣袖爲に濕ふ、霧降の名蓋し此より出づ。蓼太句あり「くだけては三千尺や瀧の月」

白雲瀧

Shirakumo-no-taki (W.F.)

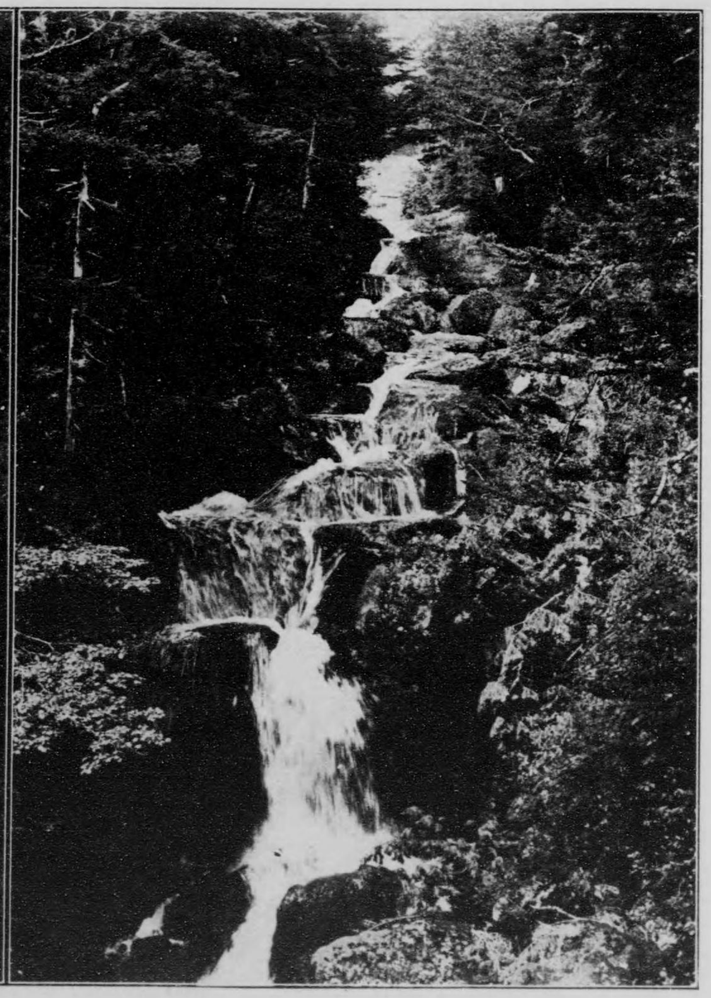
霧降瀧

Kirifuri-no-taki (W.F.)

龍頭瀧は中禪寺湖の西岸に當り、湯瀧の末、兩山挺峙して、澗石層々羅列する所、瀑奔其隙に注ぎ、分れて數十道となり、雪を噴き、霧を吐き、復、合して一となり、蜿蜒龍蟠の勢を作りて飛流す。久しく林奔に沒せしが、天保中、樫宇林、一觀之を激賞してより、其名始て顯れたり。

龍頭瀧

龍頭瀧は中禪寺湖の西岸に當り、湯瀧の末、兩山挺峙して、澗石層々羅列する所、瀑奔其隙に注ぎ、分れて數十道となり、雪か噴き霧を吐き、復、合して一となり、蜿蜒龍蟠の勢を作りて飛流す。久しく林奔に沒せしが、天保中、檉宇林、一觀之を激賞してより、其名始て顯れたり。



Ryudzu-no-taki (W.F.)

湯瀧

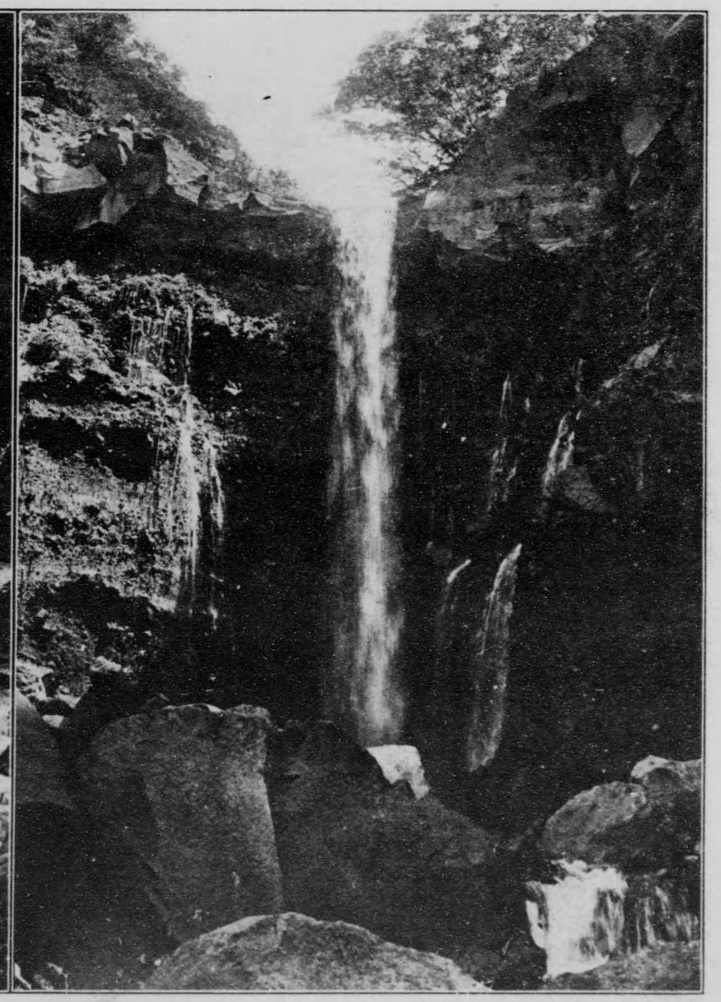
湯瀧は高四十五丈、幅十丈、其水一大斷崖より傾瀉し、盤旋して下る。股々淋々、千萬の白蛇飛躍相拏攫する如く、草木震盪し、山鳴り壑撼ぎ、眞に瑰偉、絶特の觀なり。其麗は霧降に似、其大は華嚴の雄有り。然れども榛莽荆棘の中に隱れたるを以て、近く漸く其名を知らるゝに至れり。

Yu-taki (W.F.)

段を爲し、瀧々更に十二三仞、垂流半より二派に分れ、潺々として、宛然霧の如く、衣袖爲に濕ふ、霧降の名蓋し此より出づ。蓼太句あり「くだけては三千尺や瀧の月」

般若瀧

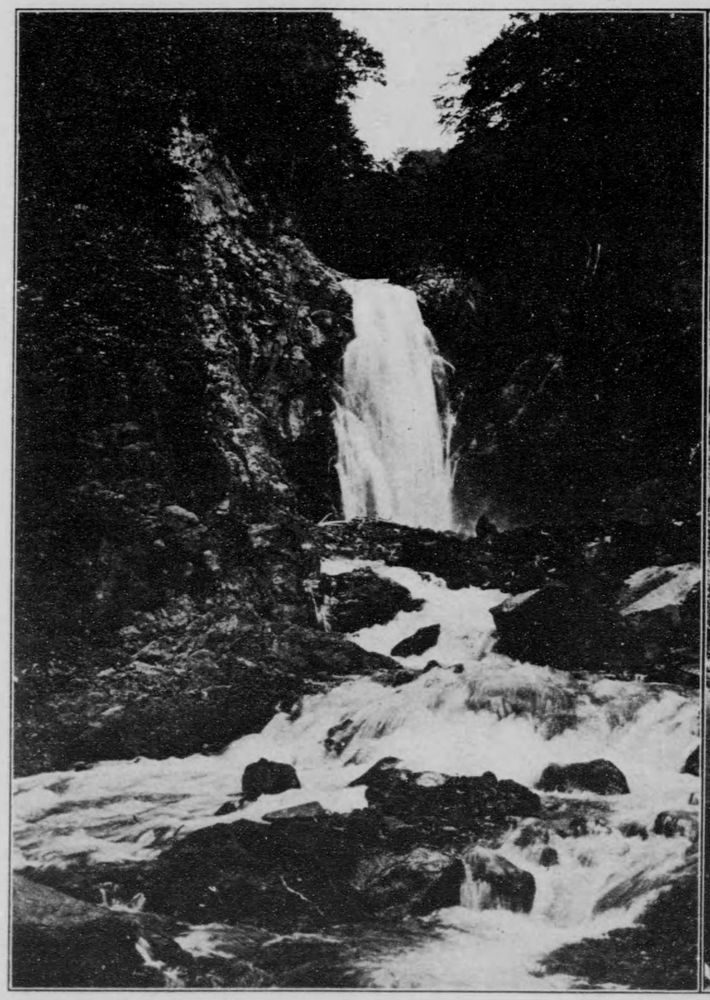
馬返の北西里許、谿崖の險を攀ぢ、棧道の危ふきを越た、深澤（ミサハ）の茶屋に、粗茶を認め、右手に前二荒の奇峰を稱し、左手に觀ヶ峰の峻巖を眺め、雲を排し、霧を衝いて進ぼ、峻山萬重、ならび聳えたる北方深溪より、飛流する一瀑を望むべし、是方等の瀧なり。崖坂險にして攀づべからず、奇草徑を閉ざして往來すべからず、之を遠望すれば、幅三尺許、高四五丈にも餘るべし。辭して般若の瀧



Hannya-taki (W.F.)

方等瀧

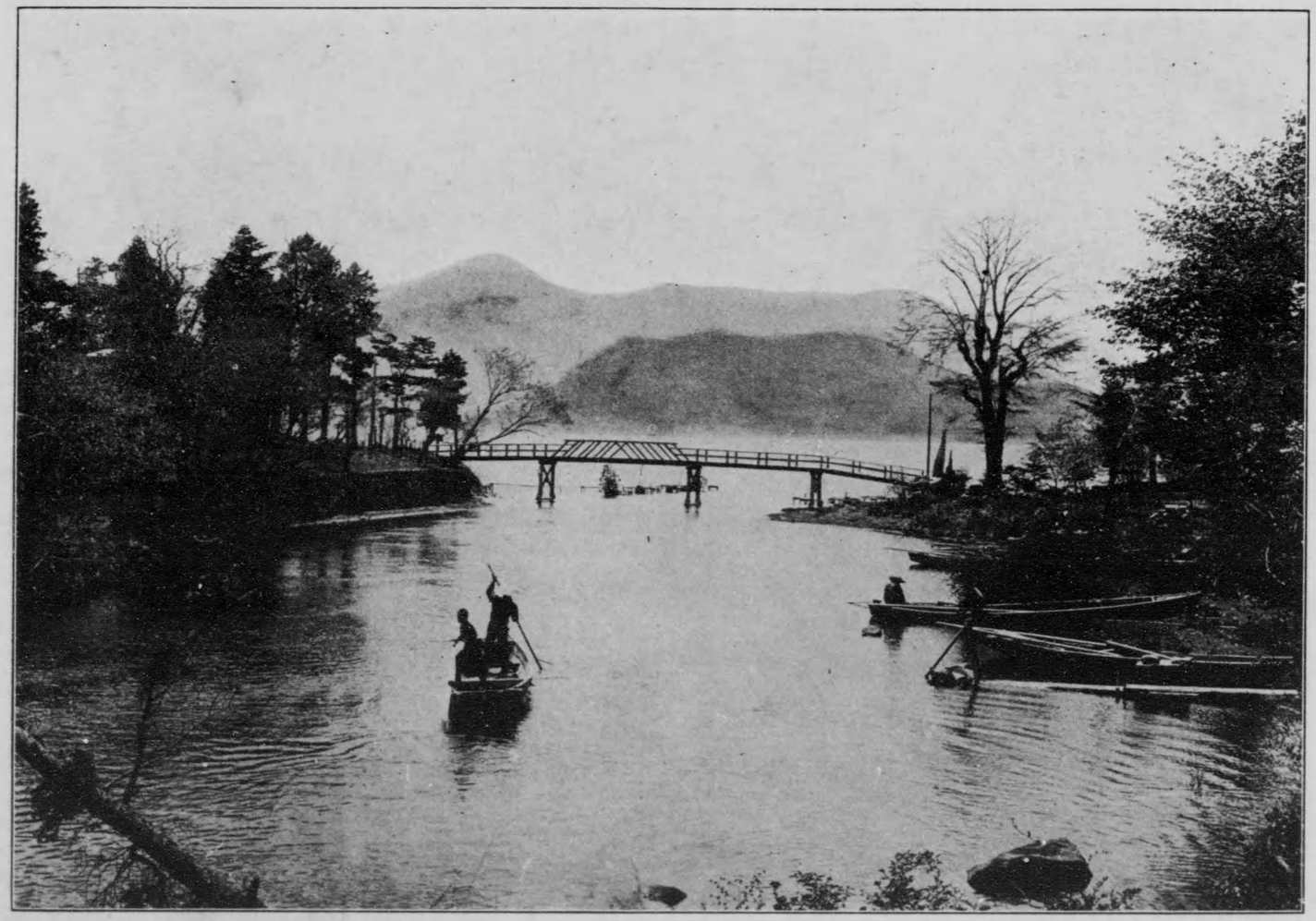
を遙かに眺むれば、西南の山谷より落來る瀧幅八九尺、高三四丈許、水勢更に優れて、輕鋭深山を搖らぎ、萬古の巨森を鳴動して、轉た現世の塵外に、低迷するの思あらしむ。



Hō ō-no-taki (W.F.)

中禪寺湖は、日光より約四里、恰も男體峯の南麓に當り、海潮面山凡そ一千三百十米突、俥の便あり。往く〳〵、老樹頭上を蓋ひ、森々として枝を雜へ、閑雅幽邃なる所、夏日猶杜鵑聲裡に、鶯の妙音を味ひ、左に華嚴の輕鋭たる水聲を聞き、小野湖山が華嚴の碑

大尻橋



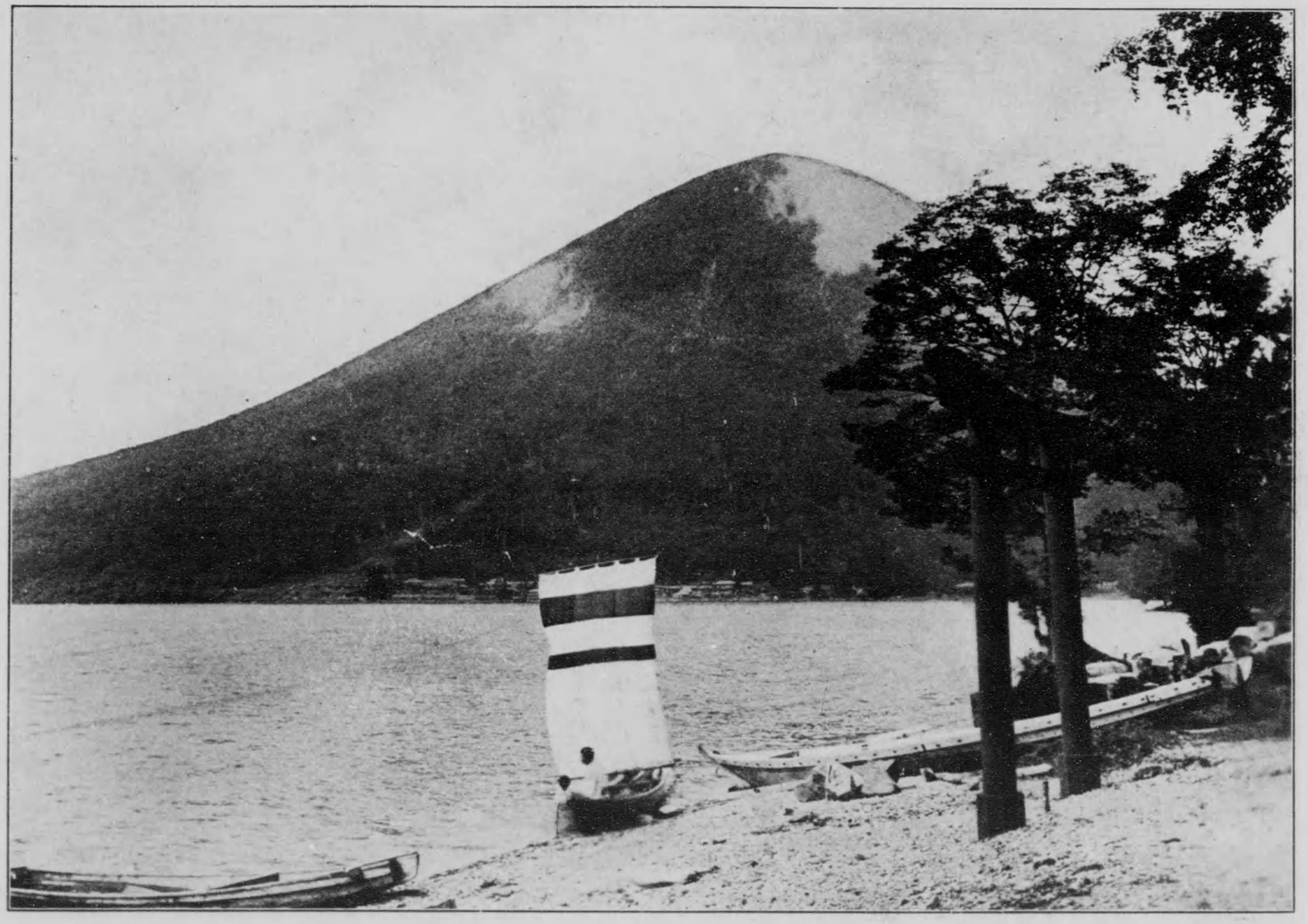
The Ōshiri-hashi (Bridge), Chūzenji.

中禪寺湖は、日光より約四里、恰も男體峯の南麓に當り、海潮面山見そ一千三百十米突、俸の便あり。往く〳〵、老樹頭上を蓋ひ、森々として枝を雜へ、閑雅幽邃なる所、夏日猶杜鵑聲裡に、莺の妙音を味ひ、左に華嚴の瀧落たる水聲を聞き、小野湖山が華嚴の碑下を過ぐれば、即ち湖に達すべし。東西三里、南北一里、湖面澄みて、明鏡の如く、翠巒四方を環りて、衣影纔々洗洋として畫も及ばず、靜に大尻橋の邊より、偏舟を行れば、涼風徐ろに至り、杯に嬉娥を浮べて、潑溂たる銀鱗を味へば、其佳其妙亦比すべきものなし。

など遙かに眺むれば、西南の山谷より落來る瀧幅八九尺、高三四丈許、水勢更に優れて、轟轟深山を搖らぎ、萬古の巨森を鳴動して、轉た現世の塵外に、低迷するの思あらしむ。

歌ケ濱

『敷島のうたの濱べに舟よせて、紅葉をかざし、月を見る哉』とかの回國雜記に見ゆるは即ち是、中禪寺湖の東岸なれども、三所本社に對向すれば、南涯ともいふべし。勝道上人、延曆中此邊に伽藍を建て、寓止したることあり。碧波山影を嚥して、緣樹湖邊を繞り、或は晨に、或は夕に、風に西に、湖上湖畔の眺望、四季常に新なり、法香峰を遶り、靈氣霧に罩むる、晃山輪奐の華に眼を炫耀せしめたるものは、須く此に景を索めて、心氣の浩然を期すべきの勝區なりとす。



Uta-ga-hama (Snore), Chuzénji.

上野島（カウヅケ）は、歌濱、日輪寺迹の西北にあたり、周圍百間許、突兀として、湖面に浮ぶ、靈草異木、綠紅交も四季の衣を綴り、奇巖重疊香靄彩霞を帶し、波靜かなる深碧に倒映して、人間を超絕す。島上には勝道上人の遺骨を納めし碑石あり、其後ろなる一基の塔は慈

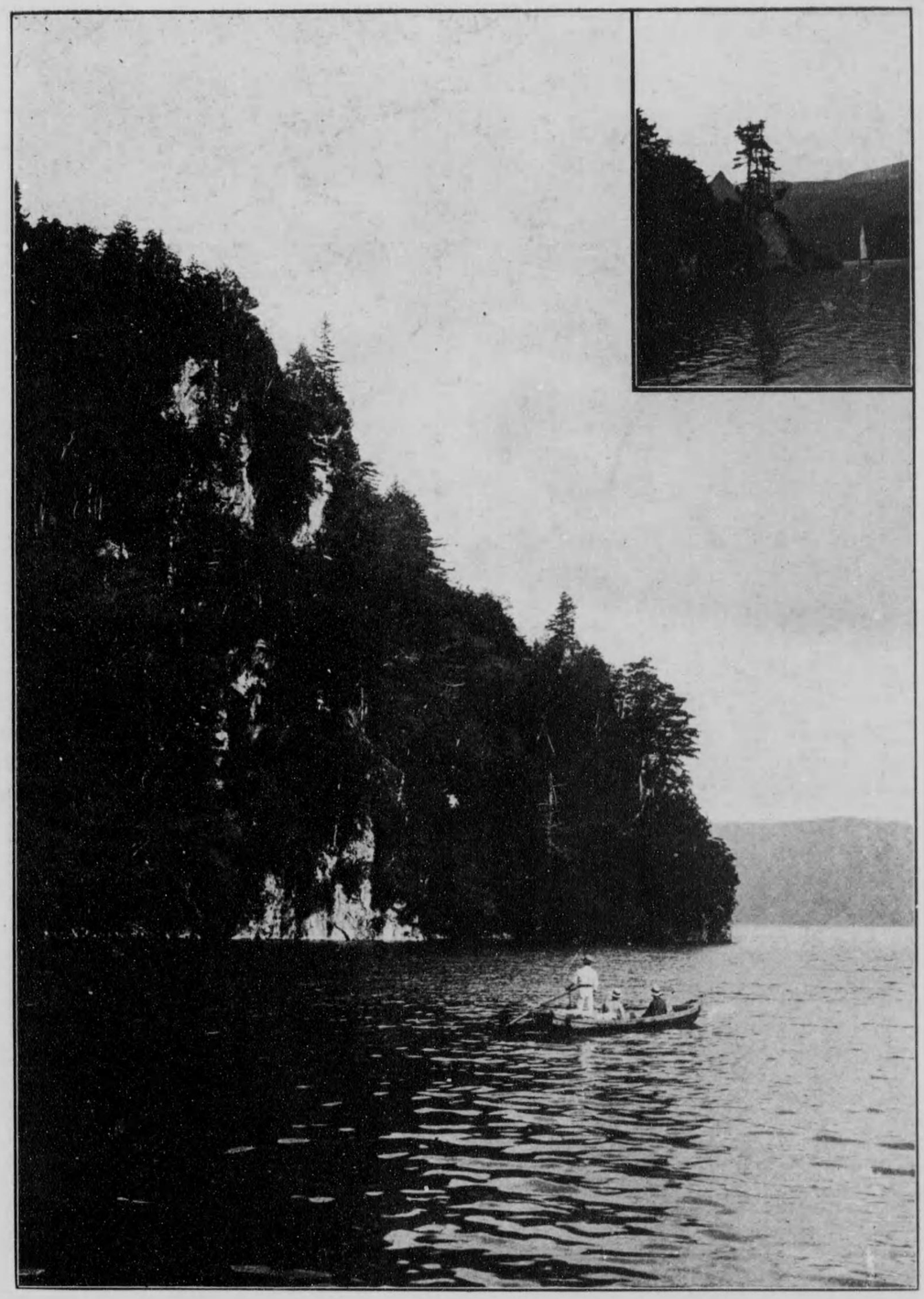
或は晨に、或は夕に、風に西に、湖上湖畔の眺望、四季常に新なり、法香峰を遶り、靈氣谿に罩むる、晃山輪奐の華に眼を炫耀せしめたるものは、須く此に景を索めて、心氣の浩然を期すべきの勝區なりとす。

上野島

Kōdzuké-shima (Island), Chūzenji.

上野島（カウヅケ）は、歌濱、日輪寺迹の西北にあたり、周圍百間許、突兀として、湖面に浮ぶ、靈草異木、綠紅交も四季の衣を綴り、奇巖重疊香靄彩霞を帶し、波靜かなる深碧に倒映して、人圖を超絕す。島上には勝道上人の遺骨を納めし碑石あり、其後ろなる一基の塔は慈眼大師の遺骨塔なり。因に、上野島の名は、上人嘗て此に住し、念佛三昧、道を修せる時しも、叡聞に達し、詔されて、上野國講師に任ぜられし故を以てなりといふ。

白巖　赤巖



自根の峻峯長く其麓を連れ、懸崖となつて、南湖の北西岸に峙つ所、赤巖の奇勝をなす。赭岩疊々、萊裳を纏ひ、清冽波靜なる深碧に浮映する樣、神氣清爽、眞に一幅の活畫を展ぜるに異ならず。若夫蜘繰山麓を縫取るの候、或は郡門三伏の夏日、蒸暑を此に避れ、舟行垂釣の樂を盡さんか、塵俗の凡慮、自ら釋然たるべし。小圖は是に對峙する白巖の勝を示す。

"Red Rock"　　"White Rock"

The Lake of Chūjenji.

東照宮の西に聳り、宮神日光新宮と云ひ、滝頭樣現とも呼ばれたり。明治維新、國幣中社に列せしめられ、二荒山神社と改稱す。並び建築式に倣ひ、國史に見ゆる祠にあらざるも、勝道上人の山中開創にあたり、二荒山神及び其屬類を祭祀し、後其新宮を此に奉

日光二荒神社

東照宮の西に隣り、舊稱日光新宮と云ひ、滿願樓現とも呼ばれたり。明治維新、國幣中社に列せしめられ、二荒山神社と改號す。蓋し延喜式に載せ、國史に見ゆる舊祠にあらざるも、勝道上人の山中開創にあたり、二荒山神及び其屬類を奉祀し、後其新宮を此に營造す。社は八棟造にて、前に拜殿あり、往昔祭禮は毎歳三月二日にて、二月二十八日より、新宮、本宮、瀧尾三社の神輿を、彼拜殿に安置し、入町、鉢石町より練物を出し、舞狂言などありしといふ。

The Futara Shrine, Nikkō.

"Red Rock"

The Lake of Chūjenji.

"White Rock"

日光杉並木

俗に杉並木と呼ぶは、日光と今市との間の街道にして、二百餘年前、川越城主の植栽寄進したるもの、二萬餘株の老杉、蟲々兩側に、鬱然として雲た凌ぎ、晝尚日光を見ず、實に天下の偉觀にして世界無比と稱せらる。汽車將に、日光停車場に着かんとする時、右側に見ゆるもの即ち是なり。因に神橋畔に、杉並木獻木の碑あり。

The Avenue to Nikkō.

戰場ヶ原は、東は男體山（所謂男體山）の麓に沿ひ、西は湯瀧の下流を限り、廣袤約一里、中に瀦溜あり、四組上人開闢の水を汲み、花時數百種の草花一時に開き、爛漫として、花莖を連ねたるが如し、植物採集の樂を有する

謂れを以て、後開闢沼原等ともいへり。

戰場ヶ原

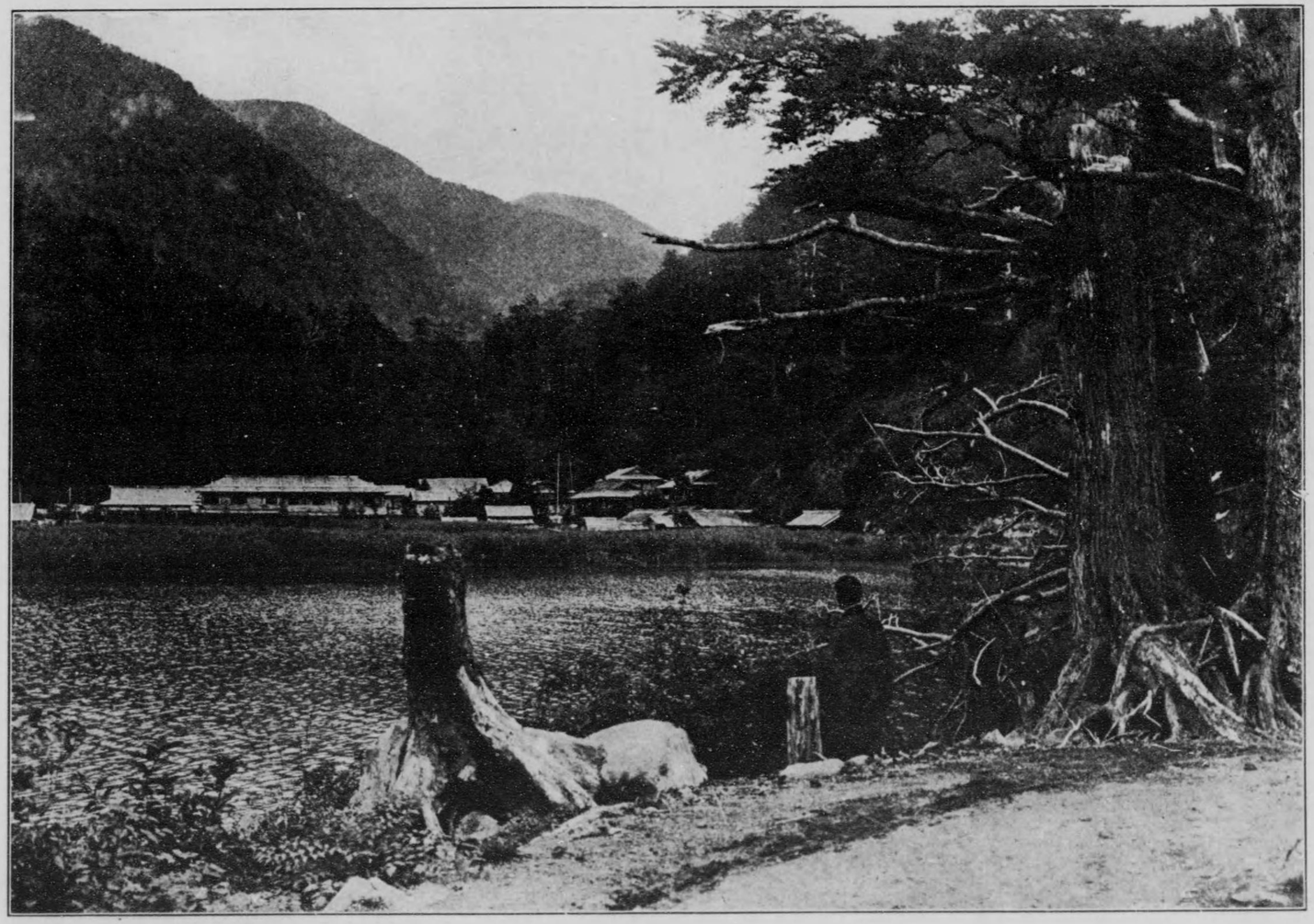
戰場ヶ原は、東は黑髮山（所謂男體山）の麓に沿ひ、西は湯瀧の下流を限り、廣袤約一里、中に濕澤あり、開祖上人閼伽の水を汲みし謂にて以て、後閼伽沼原等ともいへり。花時數百種の草花一時に開き、爛熳として、花蕋を連ねたるが如し、植物採集の樂を有する人の必ず往いて、珍奇なる高山植物を索むべき勝地なり。因に鎌倉大草紙に、小山、小田の家臣等が男體山に楯籠り此に苦戰力めたりと云ふは、蓋し常陸國宍戸庄男體山の誤なり。

Senjō-ga-hara (Vallay).

The Avenue to Nikkō.

湯本

所謂日光溫泉にして、中禪寺湖の西北三里許、戰場原を經て此に達す。大嶽四周し、中に窪谷あり、潴澤となりて、湯湖と稱へらる。湖の北岸(湯の平)に十餘戸の屋舍あり、陰曆四月八日を以て登山し、九月八日に屋舍を閉づ　霜雪の候には、人民住止せず、狩獵の山民、僅に廬居冬間を涉るあるのみ。溫泉は、硫黃性に屬し、湧出頗盛なり、數源あれど、昔岩罅より迸出す。地幽靜にして絕えて、紅塵の揚るなく、山態水容自ら奇にして、眞に暑を避け、病を養ふに足る。



Yumoto hot-spring.

日本名勝

熱海山民、俗に蓋居冬間を渉るあるのみ。温泉に、硫黄性に富し、湧出頗盛なり、數源あれど、皆岩礁より迸出す。地幽靜にして絶えて、紅塵の揚るなく、山嵐水容自ら奇にして、夏に暑を避け、病を養ふに足る。

大沼公園

渡島國茅部郡軍川村に在り、函樣線の沿道にして、夏秋の候大沼公園驛を開始し、特に雅客遊士の使に供ふ、園は村の西端に位し、沼は南方の小沼と水道相通じ、周圍八里餘、其形瓢の如く、地頸を『セバット』と稱し、茲に鐵橋を架して汽車を通ず中に百四十有餘の島嶼、三十二の灣あり、東北には駒ケ嶽の雄峰を望むべく、天然の景に加ふるに人工の妙を以てし、風光明媚彼の神居古潭と共に、北海三大名勝と稱せらる、園内には大山東郷兩元帥の銅像ありて一段の光彩を添ゆ。今や秋老けて園内の眺望は紅葉の天下と化し、一舟に棹して、浮繪の如く水面に點在する紅葉島を廻遊する時、大自然の妙、吾れを空しふせしむべし、因に此邊内地の楓少く、いたやと稱する樹木の黄紅交ぜて錦織りなし、而も其葉雄大にして周圍の風物を大ならしむ。小圖は探勝舟遊の光景を示す。

The Ōnuma Park, Hokkaido.

復帶の奇勝

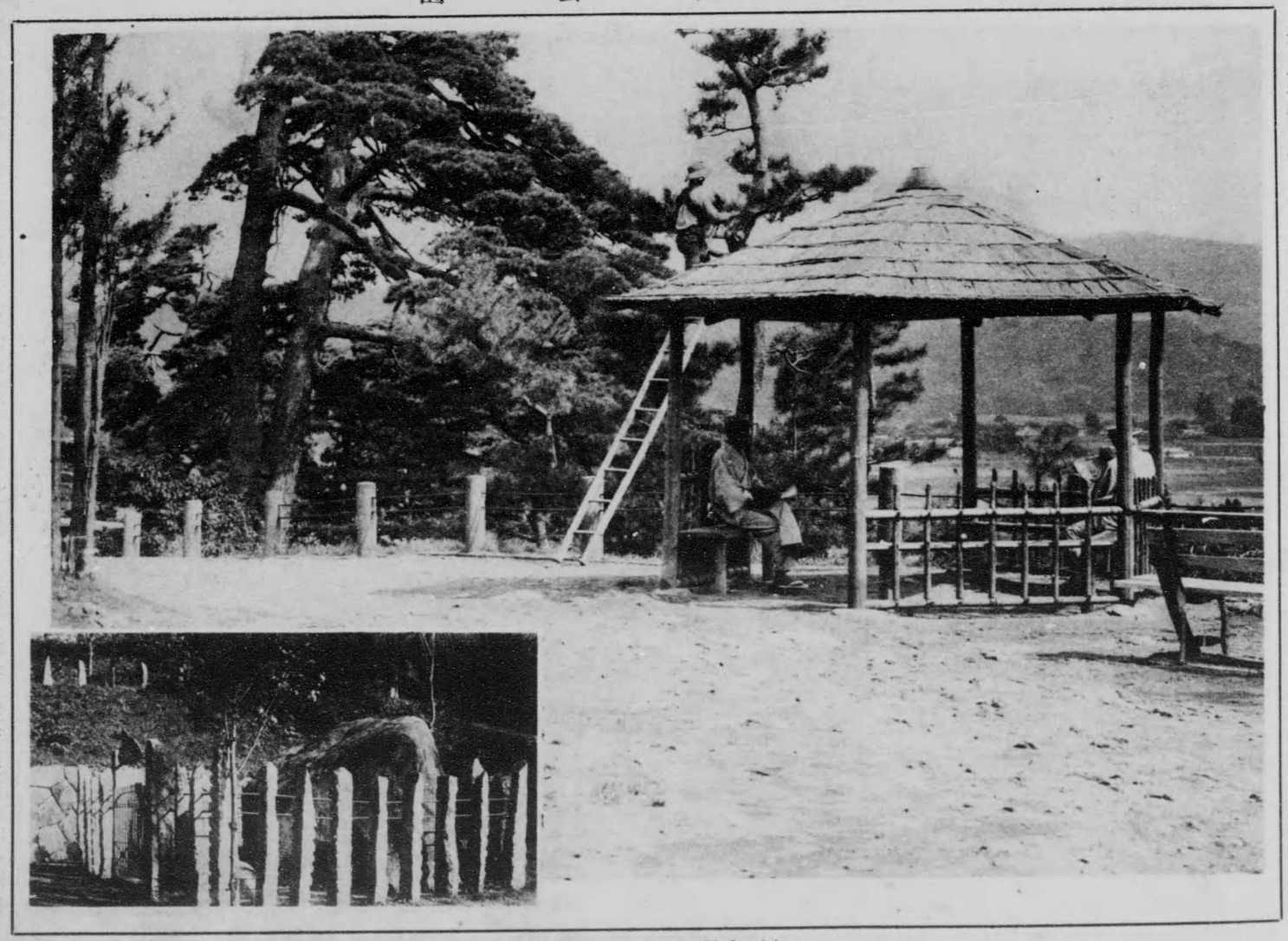
復帶（ハラタイ）は岩手縣下閉伊郡茂市村に屬し、閉伊川の奇勝に沿へる一部落にして、昔は「フクタイ」と云ひしとか、盛岡市よりは東海岸に向つて約二十四里の地點、景は總て自然の妙を發揮し、毫も人工を加へず、近頃此地を見輝ひたる某外人の實に耶馬溪以上なりと賞せるを見ても、其峻嶮奇景の程を想像しなん、附近には有名なる早池峰の峻嶺を頂き、又三里餘にして、東海岸宮古鍬ヶ崎に達す、今や秋老けて滿山錦を織り、清流怪石を嚙んで奔る處繪も及ばざる仙境なり、因に交通は比較的不便なれども、昨年來盛岡宮古間に自動車の運轉を開始したれば、之を利用して達するの便宜あり。

The Wonders of Haratai, Iwate.

東北本線福島驛より東北十五町許の處に信夫山在り、即ち市外北半里の平野に隆起する小山にして、緑深く松茂り、山高からざれども、古來著名の勝地にして、今は公園となり域内に早沼神社及招魂社あり、松の間櫻を點綴し、四季の風光明媚なるを以て、古へ詠歌の例も少なからず、雅客遊士の締を曳く者常に絶えず、山上の平地に旗亭茶店等ありて、縣下有數の名所たり、

信夫公園

東北本線福島驛より東北十五町許の處に信夫山在り、即ち市外北千里の平野に隆起する小山にして、鬱然たる松茂り、山高からざれども、古來著名の勝地にして、今は公園となり域内に早沼神社及招魂社あり、松の間樓を點綴し、四季の風光明媚なるを以て、古へ詠歌の例も少なからず、雅客遊士の節を曳く者常に絶えず、山上の平地に旅亭茶店等ありて、縣下有數の名所たり、

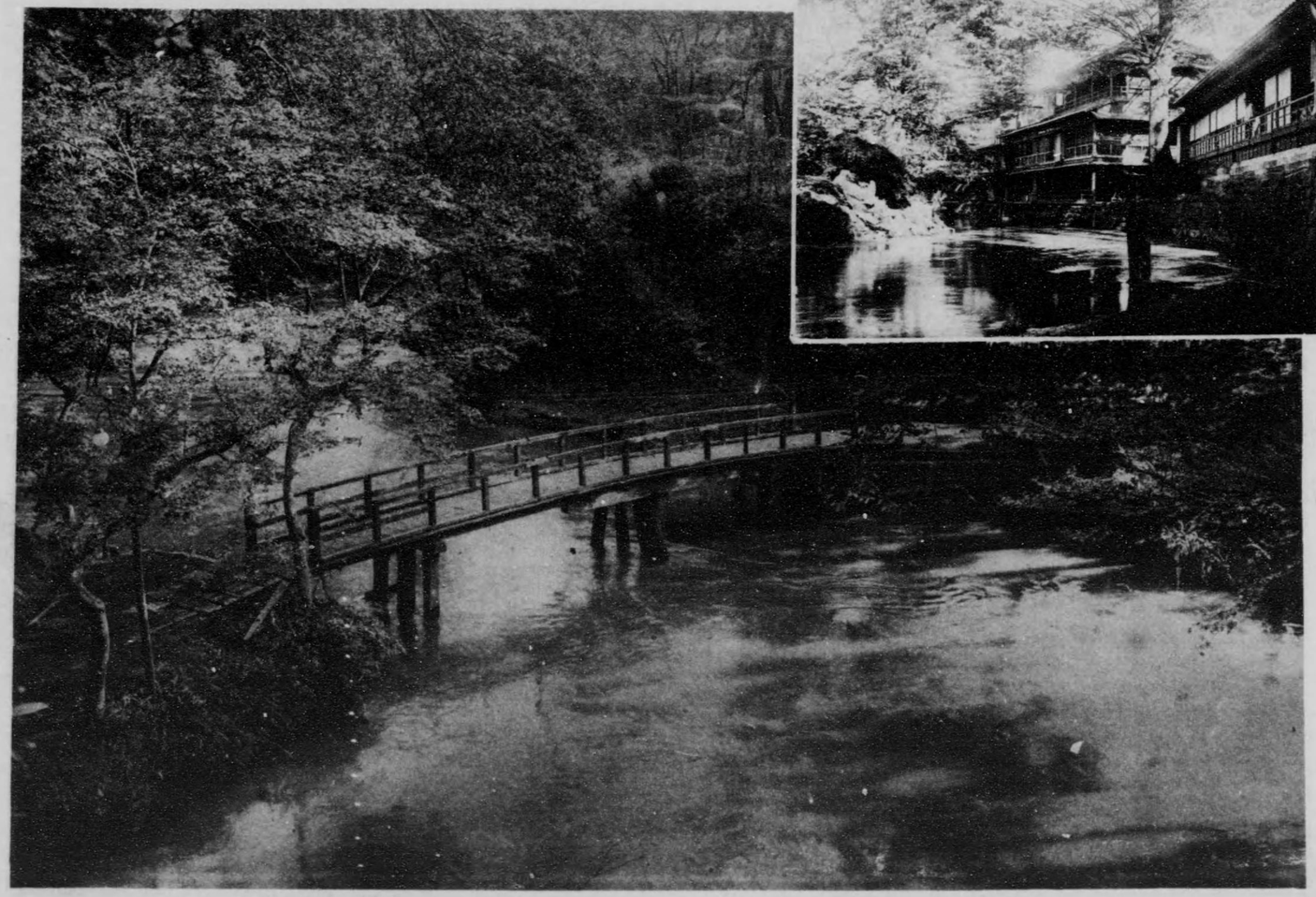


在原業平朝臣の歌に『信夫山しのひて通ふ道もかな、人の心の奥も見るへく』大圖は園中最も展望佳き位置を示し、小圖は彼の百人一首にて誰れも知る『道の奥の信夫文字摺誰れゆゑに、みたれ染めにし我れならなくに』の古歌を以て有名なる文字摺石の實寫なり。

The Shinobu Park, Fukushima.

岸宮古鍬ケ崎に達す、今や秋老けて滿山錦を織り、清流怪石を嚙んで奔る處繪も及ばざる仙境なり、因に交通は比較的不便なれども、昨年來盛岡宮古間に自動車の運轉を開始したれば、之を利用して逆するの便宜あり。

瀧の川の紅葉

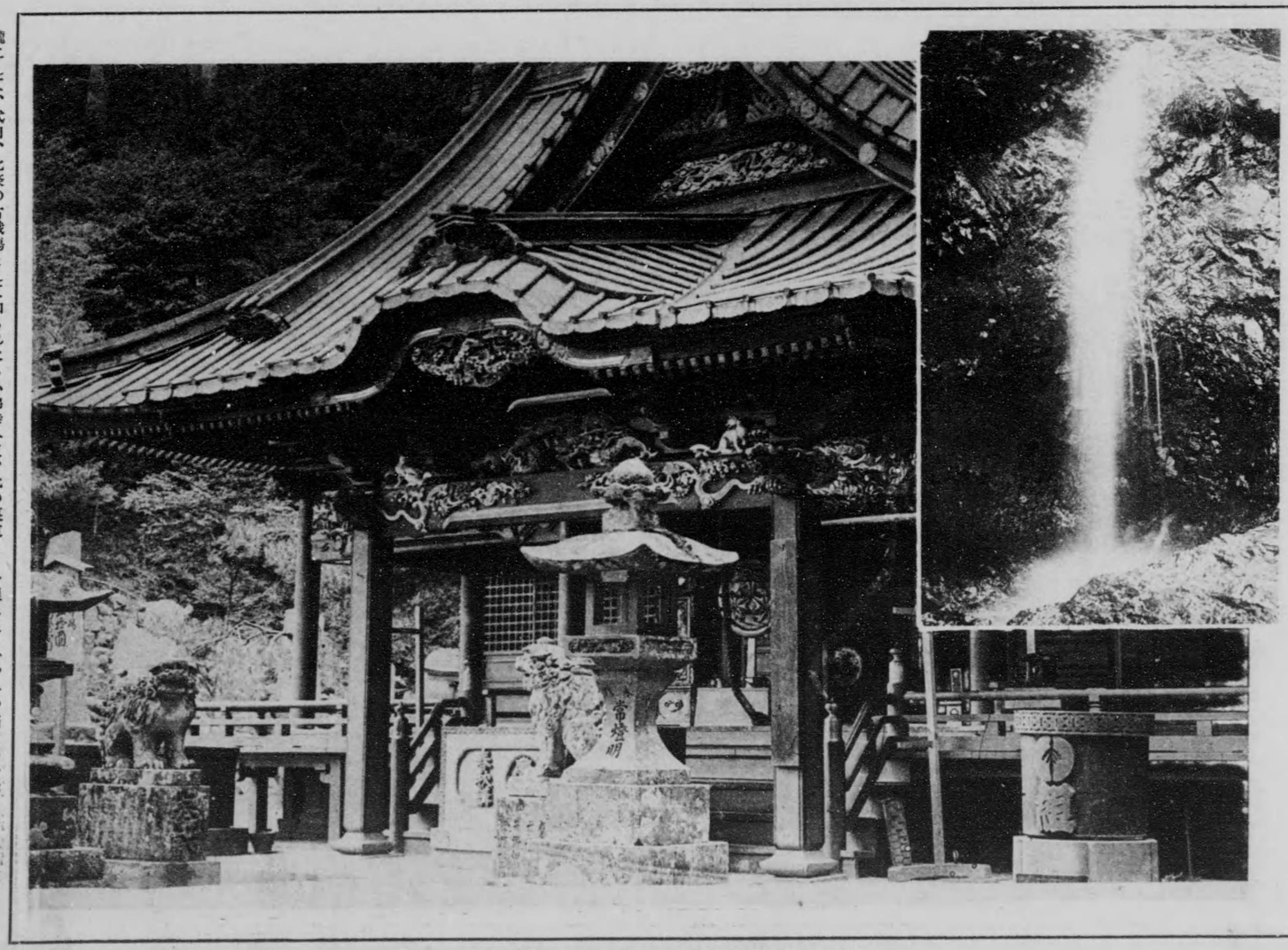


岡は王子なる瀧の川の流れに沿へる無數の楓樹が、今を盛りと紅葉して、實に東京市北郊の名所として、滿都の士女に慰安を與ふる地域の一部を示したるもの、小岡は旗亭扇屋附近の光景なり、又此地は飛鳥山の眺望を控へ、權現と稲荷神社の繁昌の外、春は花、夏は滝、冬は雪見の勝區として、不淨なる市内の空氣を離れ、常に浩然の氣を養ふ樂園なり。

Takinogawa, Tokyo.

中央東線八王子の西方直立三百丈の靈峰あり、之を高雄山と云ふ、所謂多摩横山の一つなり、淺川驛より一里、山麓高雄橋に至れば、松杉天に朝して、已に深山の趣あり、藥王院は行基の開基に係り、飯縄權現は俊源の勸請する處、大岡は則ち飯縄權現にして、堂宇宏壯、金壁燦爛たり、西丘見晴臺は、四顧十二州に及び、芙蓉掌上に開き、相海眸中に落つ。小岡は山中の蛇

高雄山飯縄權現



The Takaosan Gongen (Shrine), Musashi.

中央東線八王子の西方直立二百丈の靈峰あり、之を高雄山と云ふ、所謂多摩横山の一つなり、淺川驛より一里、山麓高雄橋に至れば、松杉天に朝して、已に深山の趣あり、藥王院は行基の開基に係り、飯縄權現は俊源の勸請する處、大圖は則ち飯縄權現にして、堂宇宏壯、金壁燦爛たり、西丘見晴臺は、四顧十二州に及び、芙蓉掌上に開き、相海眸中に落つ。小圖は山中の蛇滝にして、武田、北條の古戰場として知られたる小佛峠へは、此の裏道より一里に足らず。今や滿山錦を織り成し風光掬すべし。

外、春は花、夏は滝、冬は雪見の勝區として、不淨なる市内の空氣を離れ、常に浩然の氣を養ふ樂園なり。

大磯鴫立澤

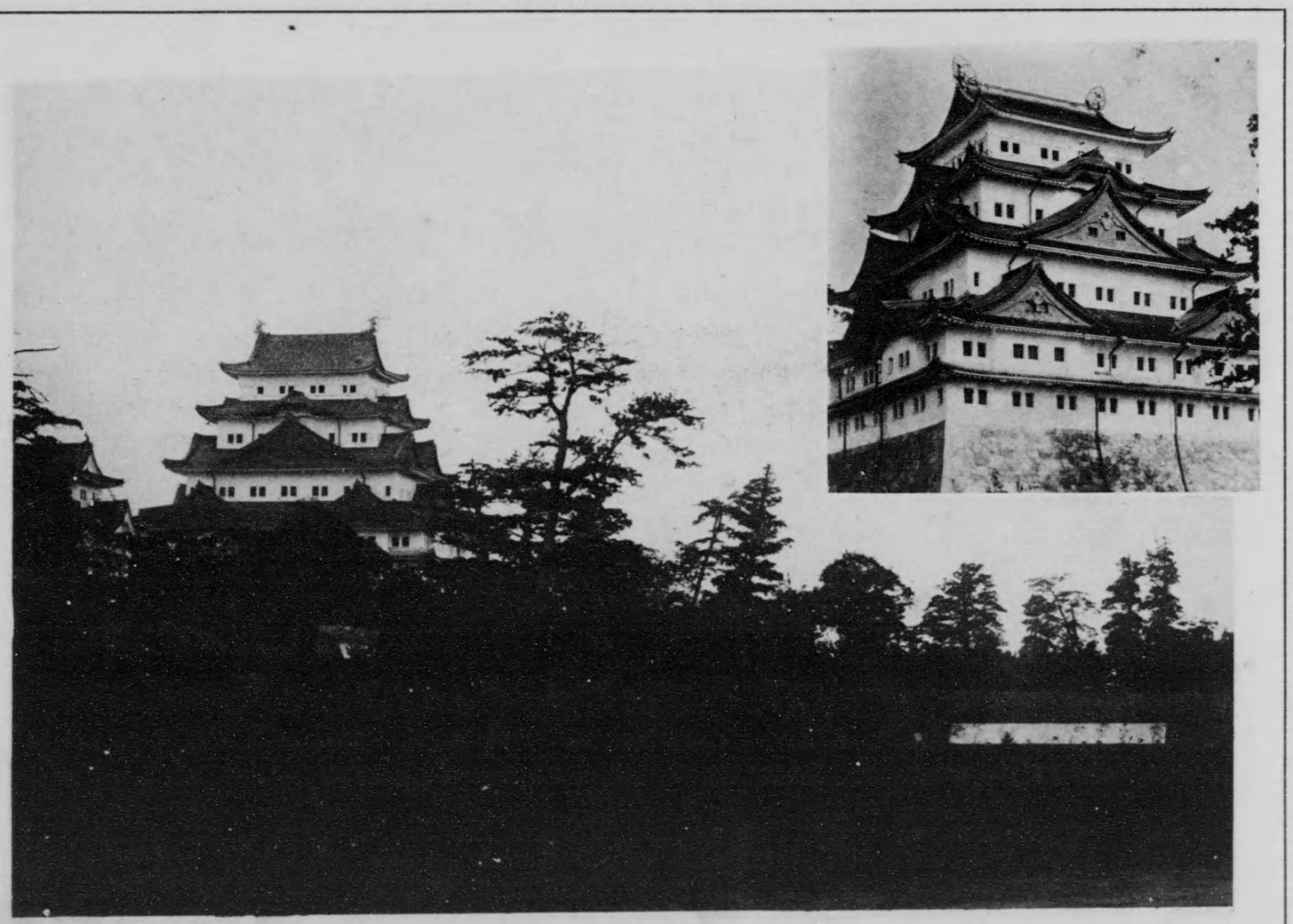
東海道線大磯驛より西南約四丁の處、西行法師が『心なき身にも哀れを知られけり、鴫立澤の秋の夕暮』と詠みたる古蹟にして、地は一堆の丘狀を爲し、老松蟠屈、南に相模灘の風光を望みて秀麗なり、丘上に西行堂ありて西行法師の像を安置す、傍に鴫立庵あり、圖は則ち夫れにして、寛文年間小田原の俳士祟雪の建立に係る、後伊勢の隱士三千風此庵に閑居して鴫立の碑を設く、庵に西行眞筆の色紙、竹杖、西行の古木像、古今諸名家の詩歌等を藏して名あり。

The famous historic remain Shigitatsusawa, Ōiso Sagami.

市街の北方に在り、金の鯱鉾を以て其名天下に聞ゆ、城は大永年間今川氏親の築るを創めとし、後織田氏の居城となり、天文二十三年信長清洲に移り、信光之に代りしが、其死後一旦廢城となりしを、慶長十五年德川家康更に西國大名二十家に課して築造せしめしもの則ち現存す、當時築城の名手と呼ばれし佐久間河内守政實、牧助右衛門普請奉行となり五年を費して成る、圖中五層の天主閣は加藤清正の築ける部分なり、高さ十七間六尺、最下第一層は南北十七間、東西十五間半、疊數五百三十六、

に鳴立庵あり、圖は則ち夫れにして、寛文年間小田原の俳士崇雪の建立に係る、後伊勢の隠士三千風此庵に閑居して鳴立の碑を設く、庵に西行眞筆の色紙、竹杖、西行の古木像、古今諸名家の詩歌等を藏して名あり。

名古屋城



The Castle of Nagoya, Owari.

市街の北方に在り、金の鯱鉾を以て其名天下に聞ゆ、城は大水平間今川氏親の築るを創めとし、後織田氏の居城となり、次で二十三年信長清洲に移り、信光之に代りしが、其死後一旦廢城となりしを、慶長十五年德川家康更に西國大名二十家に課して築造せしめしもの則ち現存す、當時築城の名手と呼ばれし佐久間河内守政實、牧助右衛門善請奉行となり五年を費して成る、岡中五層の天主閣は加藤清正の築ける部分なり、高さ十七間六尺、最下第一層は南北十七間、東西十五間半、疊數五百三十六、最上の第五層は、南北七間、東西六間にして尚百疊の廣さを有す、閣上一雙の鯱は鱗片悉く黄金にして、長さ九尺、之を造るに慶長小判一萬七千九百七十五枚を要したりと、城内の多くは今は陸軍省の用地に歸し、第三師團司令部及各科の兵營に充てらる、唯本丸の一部舊藩主の常住の殿舍のみ特に宮内省の保管に屬し、二十六年名古屋離宮と定められたり、結構數寄を盡し、當代建築の極致を窺ふに足る。

三井寺より琵琶湖を望む

滋賀縣大津市に在り、其位置長等山腹にして、後三條天皇の勅願に係り延久四年に創立す、本尊は如意輪觀世音菩薩にして西國三十三ヶ所札所の一なり、圖は茲に登臨して湖光山色一眸の裡に收めたる實寫にして、眺望佳絶、實に湖南唯一の勝地とす、

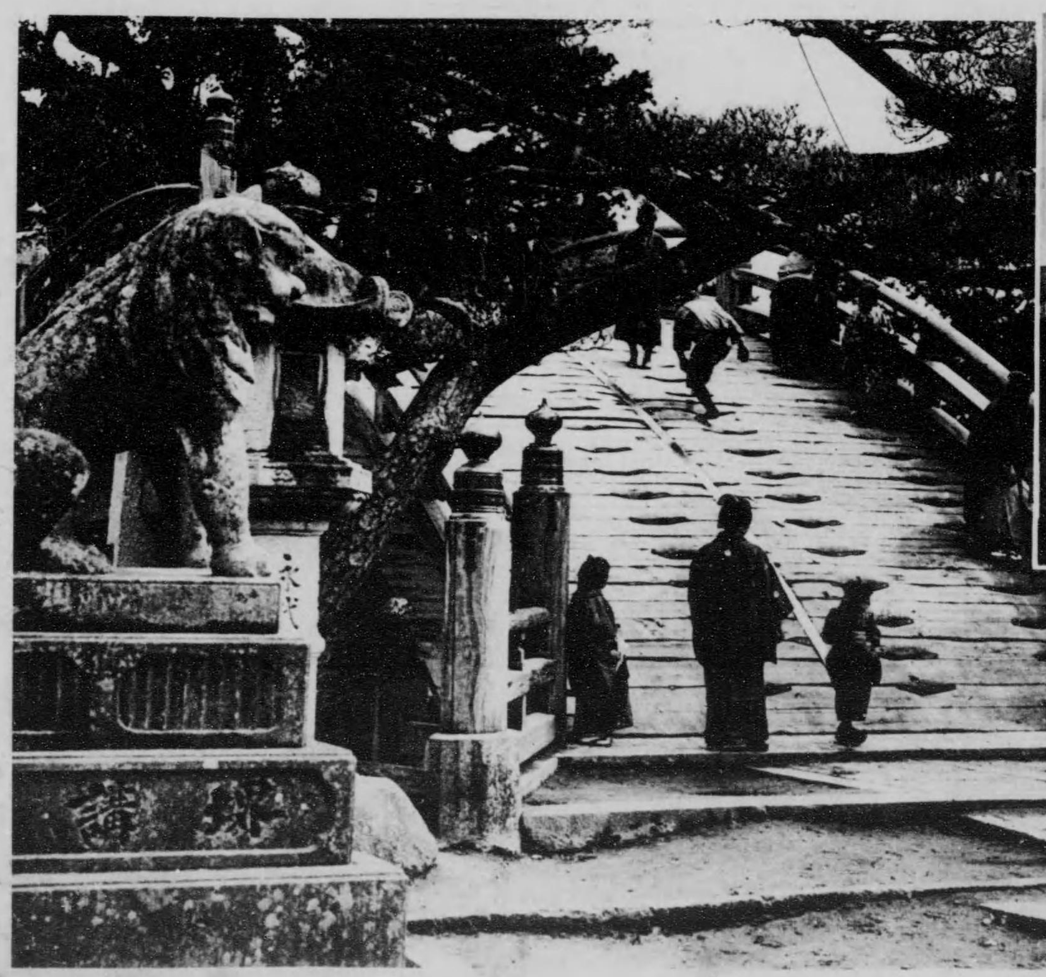
世に近江八景の一つとして、三井寺の晩鐘と數へたるは此寺にて、暮雲靉靆として湖面を彩る頃、衝き出す鐘の響、油の如く緩く流れて湖面を渡り、いづこ白波と消えて行く光景微妙なり。

A View of Lake Biwa from the Miidera (Temple), Ōmi.

大阪府下東成郡住吉公園内に在り。此に泰安せられたる官幣大社住吉神社の境内端美を入れば、直に一條の參路社前に通じ、中途泉池に半月形の一橋を見る、之ぞ圖中の反橋にして、其の製造は實に本邦古代の建築の第一期に屬すと云ふ。又圖中の高燈籠は、彼の百人一首にて有名なる「住の江の岸に寄る波よるさへや、夢の通ひ路人目よくらんにて窺はるゝ當時住の江の燈

ght-house), at
Osaka.

住吉の反橋と高燈籠



Sorehashi (Bridge) at Sumiyoshi Shrine, Osaka.

Takadoro (The old light-house), at Sumiyoshi, Osaka.

豪にして、其の建築亦古風を留めて床し。尚公園内は、閑雅幽靜、老樹巨松蓊々として、遠く紅塵を絶つ、殊に海岸は、茅渟の海の風光、淡路島の雲煙繪の如く、低徊去る能はず、蓋し大阪附近に於ける遊覽地の最たるべし。

世に近江八景の一つとして、三井寺の晩鐘と數へたるは此寺にて、暮雲靄靄として湖面を彩る頃、街さ出す鐘の響、油の如く緩く流れて湖面を渡り、いづこ白波と消えて行く光景微妙なり。

新宮川口

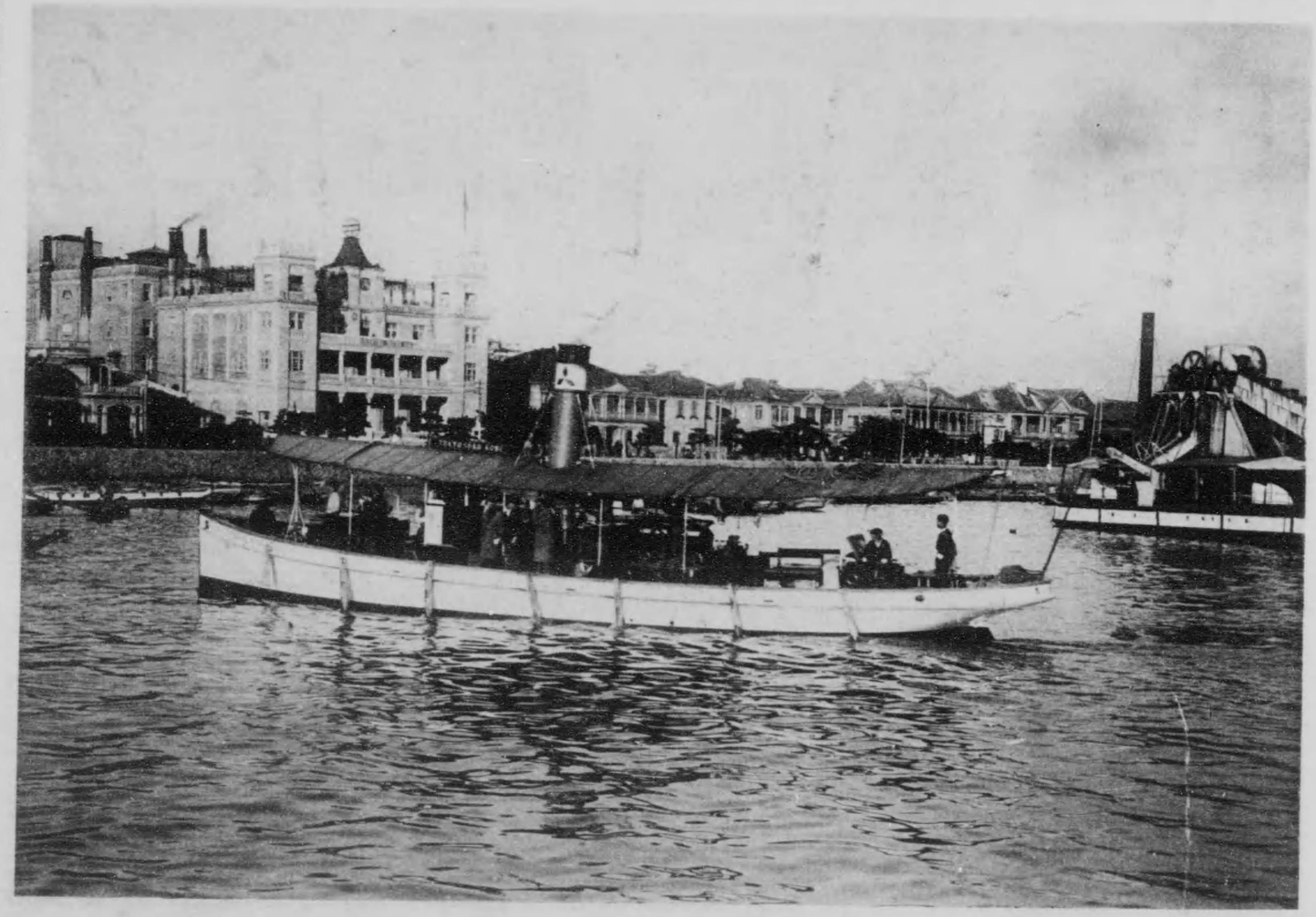
新宮川は熊野川ともいひ、源を大和國大峯に發し、郡内宮井にて瀞峽の下流たる北山川と會し、蜘蛛巻廻、新宮に至りて海に注ぐ、流程三十五里舟楫を通ず、熊野權現の一つなる熊野神社の鎮座地たる本宮村より新宮に至る川筋を九里峽と稱し、奇岩屏峙起伏し、怪石に富み、飛瀑の所々に點かるあり、其奇景瀞峽と並び稱せらる、又地方主要の物産は皆此川によりて集散す。

The mouth of the Kumano River, Kii.

川は新宮に至りて幅員頗に廣く三四町に及び對岸は三重縣に屬し新宮方面には舊新宮藩主水野氏の居城たりし丹鶴城址あり、而して川口に於ける船舶出入の壯觀をこの城址よりするを最とす。後嵯峨院の御製に「熊野川てをりに渡す杉舟のへなみに漕のぬれにけるかな」（新宮町東雲堂寫版）

關西有數の港灣にして、海外との交通貿易日に盛なり、市街の北方に諏訪山聳へ、西は須磨、一の谷、東は住吉、御影の濱等名所頗る多く、兵庫縣屬此の地に在りて、播磨、但馬、淡路の三國及び攝津國中、武庫、川邊、有馬の三郡、丹波國氷上、多

神戸港

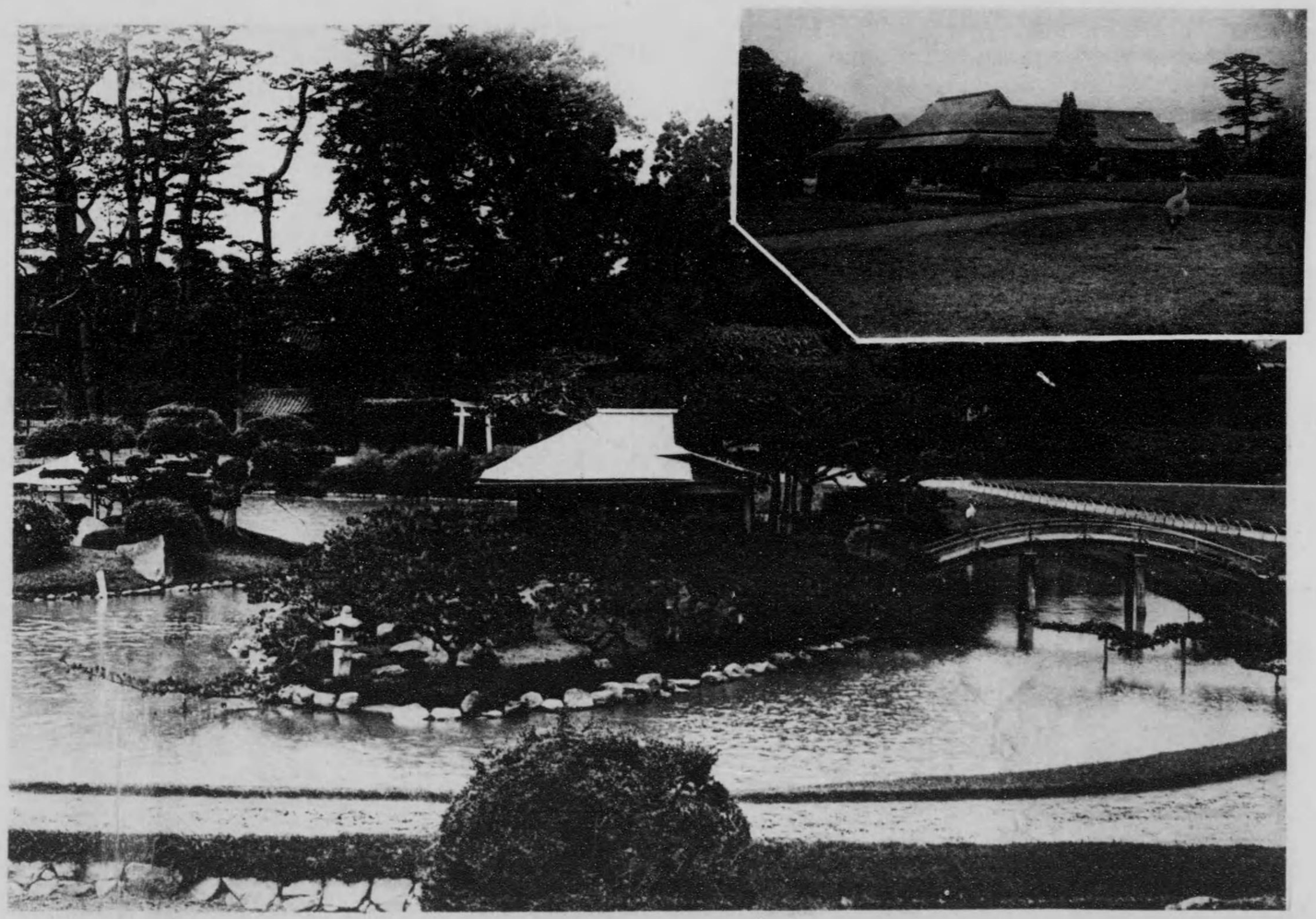


紀の二郡を管す。圖は東棧橋附近の光景にして、海陸の聯絡殷賑を呈す、市街は建築宏壮端麗にして、士風快闊、風光も共に甚だ佳なり。

開港有數に繁榮にして、海外との交通頻繁なり、市街の北方に諏訪山繁へ、西は湊川、一の谷、兵庫、御影、灘等名所頗る多く、長東鉄屋此の地に在りて、摂津、但馬、淡路の三國及び播磨國中、武庫、川邊、有馬の三郡、丹波國氷上、多川は新宮に至りて幅員頓に廣く三四町に及び對岸は三重縣に屬し新宮方面には旧新宮藩主水野氏の居城たりし丹鶴城址あり、而して川口に於ける船舶出入の壯觀をこの城址よりするを最とす。後醍醐院の御製に「熊野川せきりに渡す杉舟のへなみに袖のぬれにけるかな」（新宮町東雲堂藤版）

The port of Kobe.

岡山公園（後樂園）



Okayama Park (Korakuen,) Bijen.

Enyotei (The Reception-Hall) at Okayama Park, Bijen.

岡山市の東隅、旧岡山城の北方旭川の東岸に在り、面積三萬二千百五十四坪、泉石の布置、花木の栽植、皆其の宜しきに適ひ、日本三公園の一と稱せらる。舊池田家の別莊にして、其の初め御茶屋敷と云ひ、貞享年間藩主池田綱政の經營に係り、明治四年後樂園と改め、四民遊覧の地となれり。大園は園中の勝中の島にして、小園は延養亭の賓客なるが、亭は建坪七十七坪、昔時近國藩主及び其の使節を饗應するの用に充てたり、茲に聖駕西巡の際、玉座を設け、明治四十三年特別大演習の節駐蹕あらせらる、室は東南に面し、園内の勝を一時の視に收め、一幽の景趣眞に仙境に入るの思ひあらしむ。

土佐高知市の中央に在り、長曾我部元親、山内一豐等の居城として有名なる高知城址（舊名大高坂城）を中心として、明治五年公園と爲す。園は城樓、成臨閣附近の景を示すものにして、老樹點綴の間を拔け、成臨閣に登れば、山河の榮落、邑里の錯綜、

高知城（高知公園）

The castle of Kochi, Tosa.

土佐高知市の中央に在り、長曾我部元親、山内一豐等の居城として有名なる高知城址を中心とし、明治廿年公園と爲す。圖は城樓、成徳園附近の景を示すものにして、老樹巨木の間を抜け、成徳園に登れば、山河の美、市街の繁榮、古今滄桑の變歷々として指點すべし。

時近國藩主及び其の使節を饗應するの用に充てたり、最に聖旨四巡の際、玉座を設け、明治四十三年特別大演習の節駐蹕あらせらる、宝は東南に面し、園内の勝を一眸の視に收め、一帽の景趣眞に仙境に入るの思ひあらしむ。

萩八景　倉江の歸帆

山口縣阿武郡萩町の海濱に萩八景と稱するあり、圖は其の一景なる倉江の歸帆にして、之を市街の背景たる城址指月山上の公園附近より觀望する時は、風趣得も言ふべからず。因に萩は毛利輝元以降二百六十餘年間防長二州の本城にして、今志都岐山神社に元就以下毛利氏の靈を祀れり。

View of Kurae at Hagi, Nagato.

熊本縣飽托郡出水村に在り、熊本驛より約一里、園は世に水前寺と稱し、昔時禪刹水前寺の在りし處にして、後藤藩士細川氏の別業たりしが、今は遊園地となれり。圖は園中出水神社附近の景を示す、清冽なる泉水湧出し、假山泉石の觀蒐る及ばず、

水前寺（成趣園）

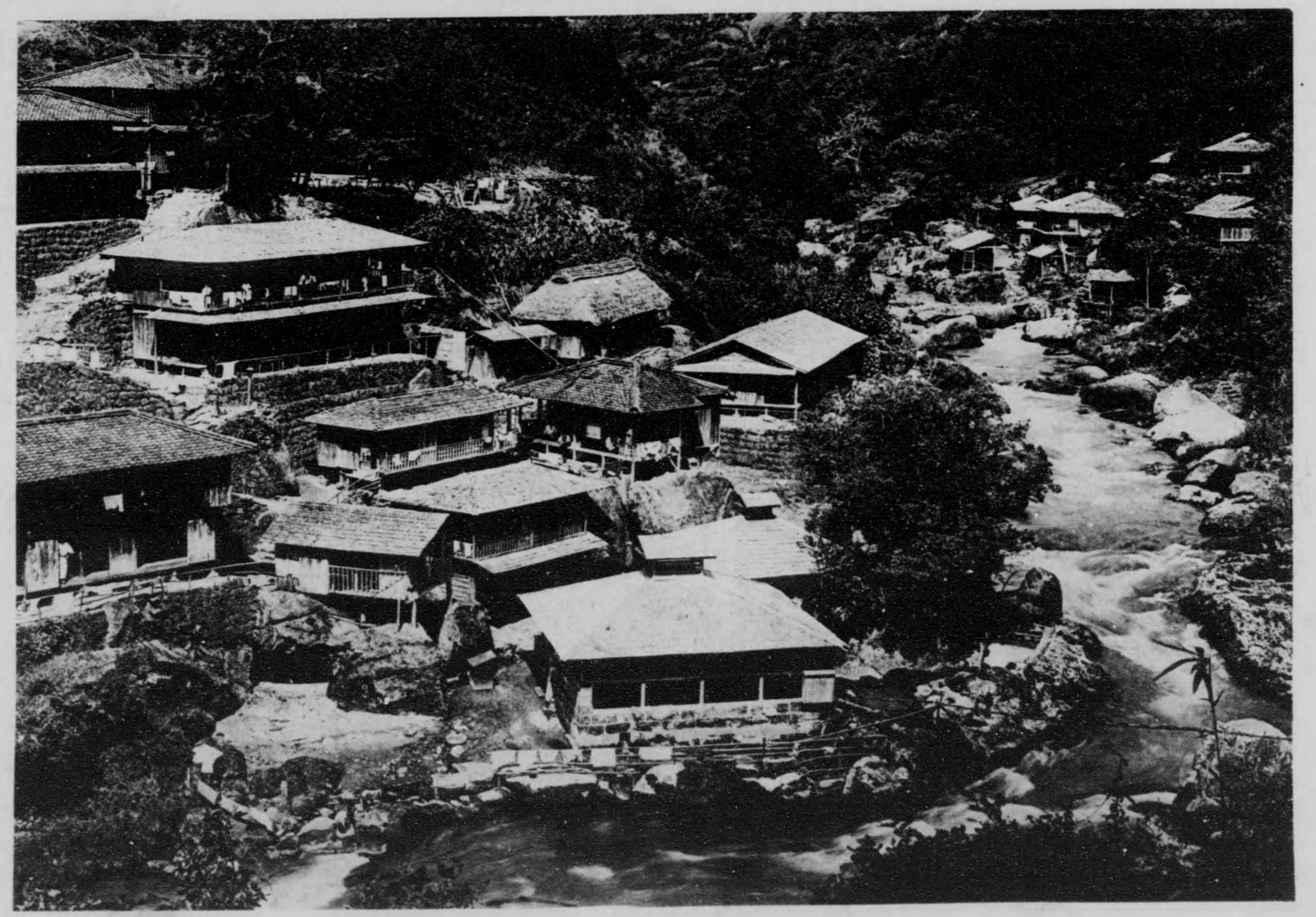
熊本縣飽托郡出水村に在り、熊本驛より約一里。園は世に水前寺と稱し、昔時細川氏の別業たりしが、今は遊園地となれり。圖は園中出水神社附近の景を示す、清洌なる泉水湧出し、假山泉石の製頗る巧みなり。

地の幽なる、境の秀なる、實に九州第一と稱せらる。因に出水神社は、藩祖の祀廟にして、縣社たり、其の東方に八丁馬場あり、往昔加藤清正が、軍馬を調練せし處なりと云ふ。

Suijenji Park (Seishuen) at Kumamoto, Higo.

社に元就以下毛利氏の靈を祀れり。

山の湯温泉



鹿兒島本線嘉例川驛より東二十町の處に在り、圖は南方山の湯温泉の一部なり、溪流を距て、後方日の出温泉を臨む、共景を示し、山の湯温泉にては、保養館等知名なり。此の附近一帶に山間の溪流に枕み、水清み、樹茂り、大氣亦爽かにして、俗塵を洗ふに足る。

Yamanoyu Hot-spring, Satsuma.

秋田市の東北丘陵、佐竹氏の舊城址を公園としたるものにて、園中最も風趣に富むは、古月池附近と爲す、圖は則ち其の一部を示したるものにて、此の他款冬園、菖蒲園、梅林、海棠園、草花園等あり。殊に款冬は秋田の特産物にて、其大なるものは

秋田千秋公園

Senshu Park at Akita, Ugo.

秋田市の東北丘陵、佐竹氏の舊城址を公園としたるものにて、園中最も風趣に富むは、古月池附近と爲す、園は則ち其の一部を示したるものにて、此の他紅冬園、菖蒲園、梅林、海棠園、草花園等あり。殊に紅冬は秋田の特産物にて、其大なるものは莖の高さ一丈、葉の廣さ直徑五尺餘に及ぶものあり、又隅櫓址は、園中最も高き處にて、市の過半を俯瞰し、近くは御物川の清流、男鹿三山の翠微、遠くは日本海の森渺たる、鳥海山頂の白雪に至る迄、海と山の形勝一眸の裡に收め、風光掬すべし。

ふに足る。

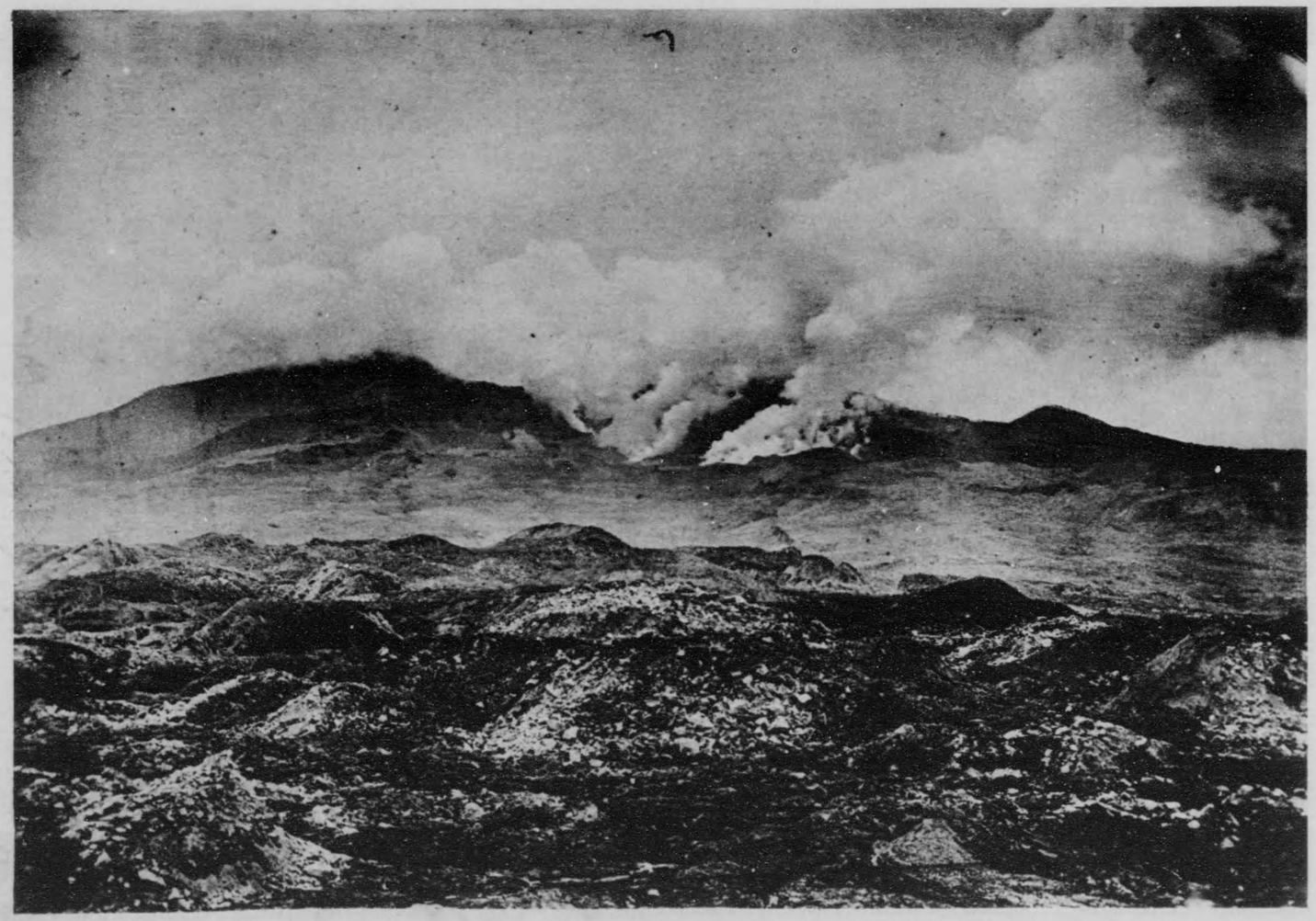
越後尼瀬油田

尼瀬は柏崎より六里、海汀に位し丘山を負ひ、北陸道の奇驛なり、昔此の地の海上に油の浮游するを見、且つ火井と稱するものありて、所謂越後七不思議の一に數へられたるが、理化學の進歩に伴ひ、之を汲み取りて精製し、遂に今日の完全なる石油を産出するに至れり、圖は日本石油株式會社所有の油田にして、明治七年の頃、米人を屈ひ、海岸丘陵の山腹に穿井機を据付け、二百尺計り掘下げたれど、不完全の爲め一時中止し、後十四五年の頃、初めて海面を埋め立てゝ手掘をなし、三四十井を穿ち漸次發達し、近年に至りて所謂ロータリー式穿井機を用ふるに及びて、始めて今日の盛大を見るに至れり。

Oil-wells at Amaze, Echigo.

岩鏡線猪苗代驛及び鈴鳥驛の何れよりも三里半、之を頂上迄の里程と爲す、猪苗代湖よりは北方二里余の曠野を引きて望む、天晴れ風靜かなるの日、其の影湖心に映じて、山光水色繪の如き感あり、此の山明治二十一年七月廿一日、猛烈なる激動を

磐梯山



Mt. Bandai, Iwaki.

岩城線猪苗代驛及び鉄道驛の何れよりも三里半、之を頂上迄の里程と爲す。猪苗代湖よりは北方二里余の郷野を隔て聳ゆ。天晴れ風靜かなるの日、其の影湖心に映じて、山光水色繪の如き感あり、此の山明治三十一年七月廿一日、猛烈なる激動を共に爆發し、小磐梯山、櫛が峰崩裂し、山陰數里の地、形狀全く變ず、爆發當時は、盛に噴煙もたれど、爾後次第に衰へて今は、僅に多少の蒸氣の噴出するを見るのみとなれり。

を掘付け、二百尺計り掘下げたれど、不完全の爲め一時中止し、後十四五年の頃、初めて湯面を堀め立てゝ手掘をなし、三四十尺を穿ち漸次發達し、近年に至りて所謂ロータリー式穿井機を用ふるに及びて、始めて今日の盛大を見るに至れり。

宗吾神社

千葉縣佐倉に在り成田驛より電車を通じて、成田山新勝寺を掛けての參詣最も便利なり、本尊木内宗吾は、其の昔一身一家の犠牲に供して、下總三百八十九ケ村の苛生を、塗炭の窮苦より、救ひ出したる偉人にして、今印旛郡公津村に、十三世の孫利左衛門なる者居れり、家寶には宗吾佩用の一刀、身長二尺赤銅作りにて、黄金の九曜星を鏤ばめたるものありと、上圖は境内宗吾の墓、下圖は戦後築造に係る假社殿の全景を示す。

Sogo shrine at Sakura. Shimosa.

東京府下北多摩郡小金井村、玉川の上水沿岸の地にて、凡そ一里中の間を小金井堤と稱す、老樹流を挾みて、美觀筆舌の盡す處にあらず、就中小金井橋附近は、最も壯觀を呈し、中央本線境驛に下車すれば、程なく橋の下流に出で、國分寺驛より

小金井の櫻

東京府下北多摩郡小金井村、玉川の上水沿岸の地にて、見そ一里中の間を小金井堤と稱す。孝穆流を挾みて、美麗箒苔の靈す處にあらず、就中小金井橋附近は、最も壯觀を呈し、中央木綿境驛に下車すれば、程なく橋の下流に出で、國分寺驛より

孫利左衛門なる者居れり、宋寶には宗吾佩用の一刀、身長二尺赤銅作りにて、黄金の九曜星を鏤ぢめたるものありと、上圖は境内宗吾の墓、下圖は祠廟後築造に係る假社殿の全景を示す。

すれば十餘町にして上流に達す、小金井一帶の櫻は、享保年間、代官川崎某が、大和吉野山及び常陸の櫻川抔より、移植したるものなりと傳へらる、青木槐園の詩に『香雲一帶望悠々。隔岸茅蔭斷又連。知是花間清洩水。流爲萬井滿城煙。』

Cherry-blossoms at Koganei, Musashi.

靜浦より牛臥を望む

The seashore at Shizuura, Suruga.

靜浦、牛臥、千本松原、曰く何、曰く何、宜なる哉、東海道名區の稱。圖は靜浦より牛臥を望むの光景にて、牛臥は沼津を距る二十町、靜浦は牛臥の東海岸に當り、風色明媚なるの點に於ては、恐らく沼津附近第一に位すべきものなり、萬松蟠く青松白沙幾十里、田子の浦一帶の勝、何ぞ夫れ愛すべきの風光多きやの形容詞は、決して無稽の語にあらず、曰く靜浦、我入道、牛臥、千本松原、曰く何、曰く何、宜なる哉、東海道名區の稱。圖は靜浦より牛臥を望むの光景にて、牛臥は沼津を距る二十町、靜浦は牛臥の東海岸に當り、風色明媚なるの點に於ては、恐らく沼津附近第一に位すべきものなり、萬松蟠く連りて、銀波瀲灩たる內浦の水と相映じ、前は伊豆の山呼べば將に應へんとし、遙かに三保の松原と相對す、彼の昭憲皇太后の愛でられし沼津御用邸は此處にあり。

長野市內、皇極帝即位二年の草創なり、本堂は元祿十二年の祝融後、寶永四年の建築に係るものにて、結構は總て平城宮の朝集殿を模したるものなりと傳へられ、我國屈指の名刹なり、明治四十一年特別保護建造物に編入さる、本尊は欽明帝の十

善光寺

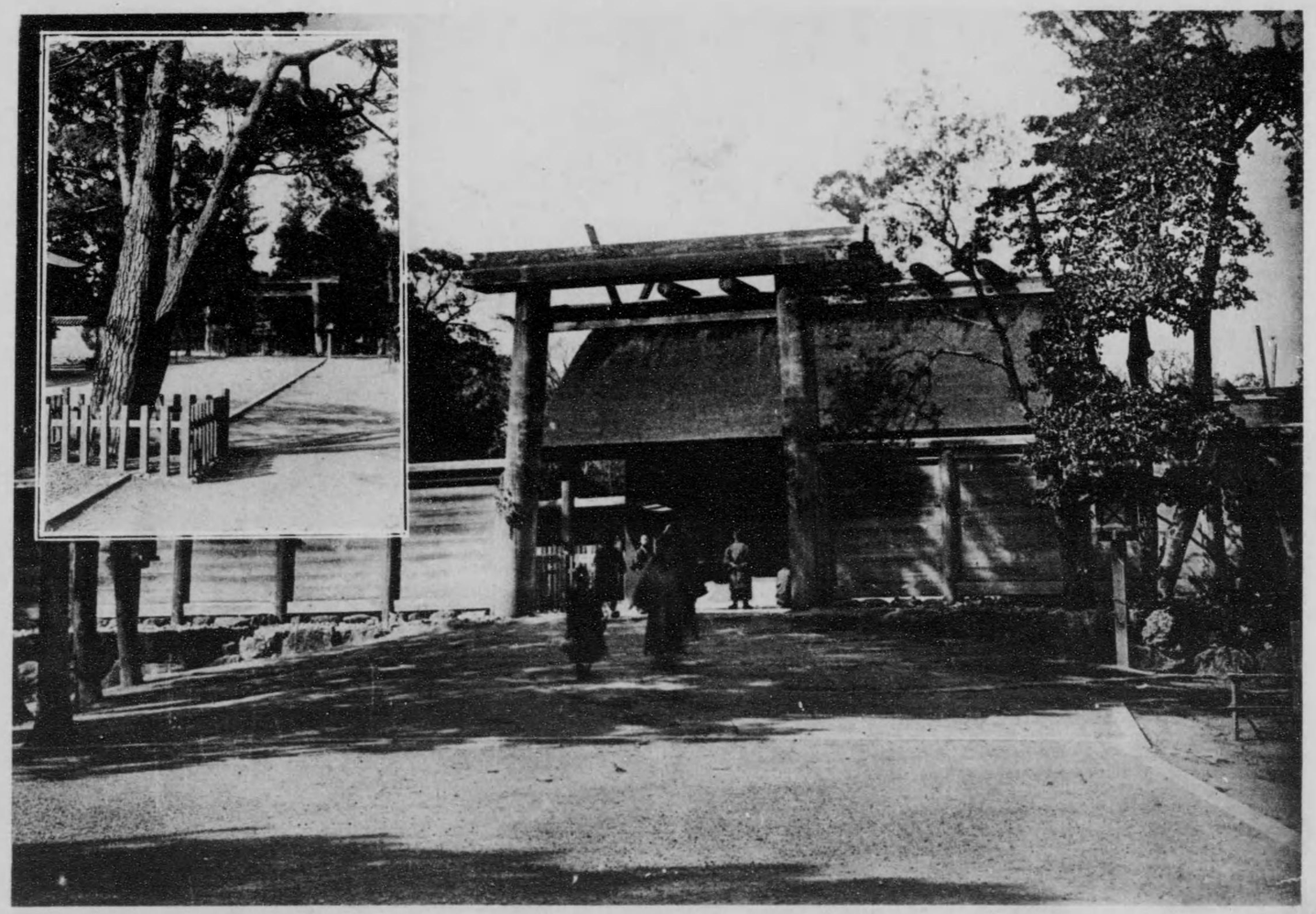
長野市内、皇極帝即位二年の草創なり、本堂は元祿十二年の祝融後、寶永四年の建築に係るものにて、結構は總て平城宮の朝堂殿を模したるものなりと傳へられ、我國屈指の名刹なり、明治四十一年特別保護建造物に編入さる、本尊は欽明帝の十三年百濟國より貢獻されたる阿彌陀佛の金像にて、別に開帳佛と稱する別立本尊あり、白雉五年勅命に依り、本尊を祕佛さして、寶龕に納めんとする際、開祖者麻續東人金銅を以て其の三體を模造したるものにて明治二十九年國寶に編入されたり。

Zenkoji (Temple), Shinano.

遠りて、銀波瀲灩たる内浦の水と相映じ、前は伊豆の山呼べば將に應へんとし、遙かに三保の松原と相對す、彼の　昭憲皇太后の愛でられし沼津御用邸は此處にあり。

熱田神宮

名古屋市南區、東海道線熱田驛より一町の地、官幣大社にして、神器の一なる草薙劍を奉安し、天照皇太神、素盞嗚尊、日本武尊、宮簀媛命、建稲種命を合祀したるものなり、大圖は社殿の一部を示したるものにて境内極めて廣く、八方に鳥居を設け、本殿の前には、渡殿、釣殿、祭文殿、神庫等あり、殊に神庫は賢所の用材を以て建築さる、小圖は神苑の一部にて、百年斧鉞を入れざる老樹翁鬱として、畫尚闇く、而も清掃一塵を留めざる靈崇高の氣自ら迫りて、神威高さを覺ゆ。



Atsuta shrine, Owari.

奈良市内、驛の東方數丁なる興福寺境内、奈良公園の一部、及び猿澤池の實景にして、池は登大路を距てゝ北側にあり、周圍百八十間餘、率川の水を湛ふ、五重塔の聳ゆる處より斜に池畔に通ずるは、有名なる五十二段の石階なり、猿澤池は、天竺

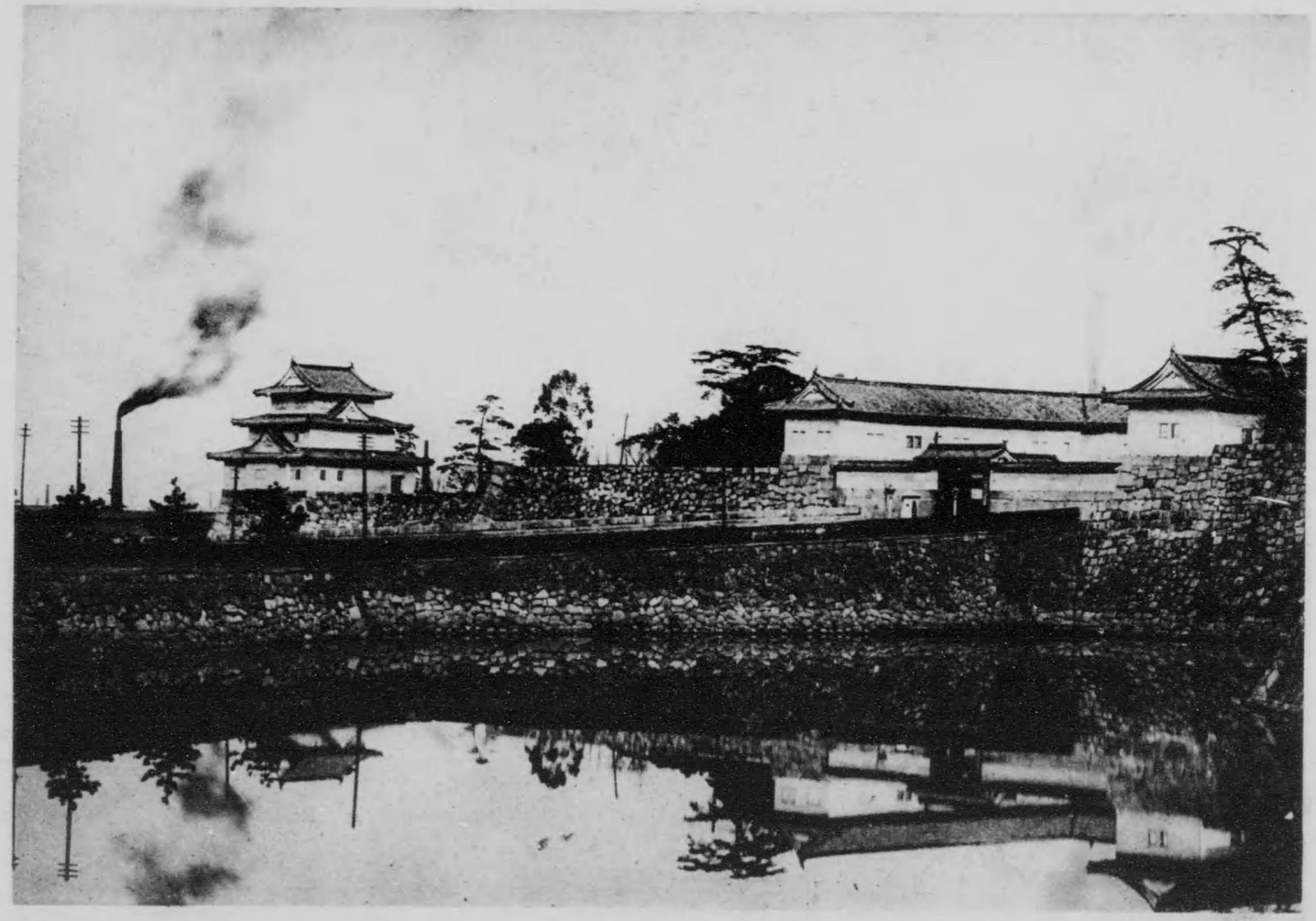
猿澤の池

Sarusawa pond at Nara Park.

奈良市内、驛と東方數丁なる興福寺境内、奈良公園の一部、及び猿澤池の面積にして、池は豆大器を担てる北側にあり、周圍百八十間餘、率川の水を湛ふ、五重塔の聳ゆる處より餘に池畔に通ずるは、有名なる五十二段の石階なり、猿澤池は、天竺の捕猿池を摸し、其の名も之に因めるものなり、此池に采女の傳説あり。大和物語云、「昔奈良の帝に仕奉りける采女あり、帝めしけるが後遂召されざりけれど限りなく心うしと思ひ、池に身を投げけり、帝は『猿澤の池もつらしなわきもこか玉もかつかは水そひなましを』とよび玉ひ、墓せさせ玉ふ。

け、本殿の側には、渡殿、釣殿、祭文殿、神庫等あり、殊に神庫は賢所の用材を以て建築さる、小圖は神苑の一部にて、百年斧鉞を入れざる老樹翁鬱として、畫荷樹く、而も清流一曲を囲めざる巖崇高の氣自ら迫りて、神威高きを覺ゆ。

大阪城



The Osakajo (castle.)

舊城地は大阪市の東部に在り、天滿の南方、玉造、生玉、地に接す、淀川を挽し、攝河平野の高所に位置す、天正十一年豐臣秀吉の築く處、一に金城或は錦城と稱し、又南面城と云ふ、廣袤一里餘、大手、京橋、青屋、玉造の四門を開く、圖は其の一門京橋口の光景を示す、高疊深堀は、往昔時の壯大を偲ばしむ、今は第四師團の本營なり、秀吉の歌に「生玉の城のいしづみあけて、たかきいさみは雲の上まで」

兵庫縣下明石町は、往時松平直致八萬石の領地にして風光極めて明媚なり、港灣南に向ひ、東西凡そ三十町、深さ六丈より十以に至る、海中に波止場を築き出して波濤を禦ぐ、近海にて漁獲する明石鯛は殊に著名なり、圖は灣内最も眺望に富める

明石海岸の朝

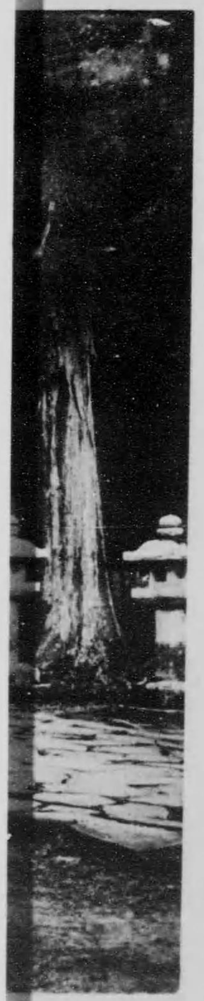
兵庫縣下明石町は、往時松平藩政の城郭にして、鳳凰山麓に位し、東西凡そ二十町に亘る。海中に波止場を築き出して波濤を禦ぐ。近海にて漁獲する明石鯛は殊に著名なり。圖は灣内最も眺望に富める地點の寫寫にして、朝暾熙々として昇る處、金波銀波を漂はし、宛ながら一幅の活畫を見ゆ。歌聖人丸の歌に『ほのぼのと明石の浦の朝きりに島かくれ行く舟をしぞおもふ』

The Seashore at Akashi, Harima.

西大寺（備前）

Saidaiji temple, Bizen.

岡山縣下の名刹四大寺、寺名にして又町名に傳ず、西大寺は山陽線白大寺驛より、數丁にて進ず、金陵山と號し、眞言宗に屬す、天平勝寶年中金岡莊松中島に建てたり、越えて寶龜八年宿安隆兒島郡福の瀬戸に於て、龍神より開角を授得し、之を空中に投じたるに、同寺域に落下す、安座問りて靈宇を此の地に移と謂、鳴寺と名つけたり、永正年中僧信岡中興し、天文七年疫鬼の災に遭ひ、同三年修造す、毎年正月二七日修法大會あり、近年此四大寺會陽再び盛にて、犀角に因めるか、寺僧神水を稱せるを投ち、深夜水垢離を取りし裸體の群衆、爭ふて之れを奪ひ當年の詳編を觀すと。



鳥取市上町にあり、菩大日谷の東照權現を稱し、德川家康を祀り、慶安二年の創建に係る、明治七年藩祖光仲及び忠眞、忠雄（光仲の父を忠雄とし、忠眞は忠雄の兄なり、家康の外孫にして、初め備前岡山城に封ぜらる）を配祀す、光仲は奥藤を謚

樗溪神社（鳥取）

Ōchidani shrine, Tottori.

鳥取市上町にあり、慶安元年池田光仲の建立に係る、明治九年郷社に列せられ、忠雄（光仲の父）の霊を祭る、因幡国の鎮守として、初め伯耆国岡山城に封ぜらるるや配祀す、光仲は興隆を図り年祝融の災に逢ひ、同三年修造す、毎年正月二七日祭法大会あり、近年此西大寺會陽再び盛にて、犀角に因めるか、寺僧神木を稱せるを投ち、深夜水垢離を取らし裸體の群衆、爭ふてこれを奪ひ當年の詳福を祝すと。

も、因幡少將と云ふ、此の社當神領五百石を賜はり、市中の鎮守として崇拝さる、圖は老松蒼鬱たる頂社の光景を示す。

土佐桂濱

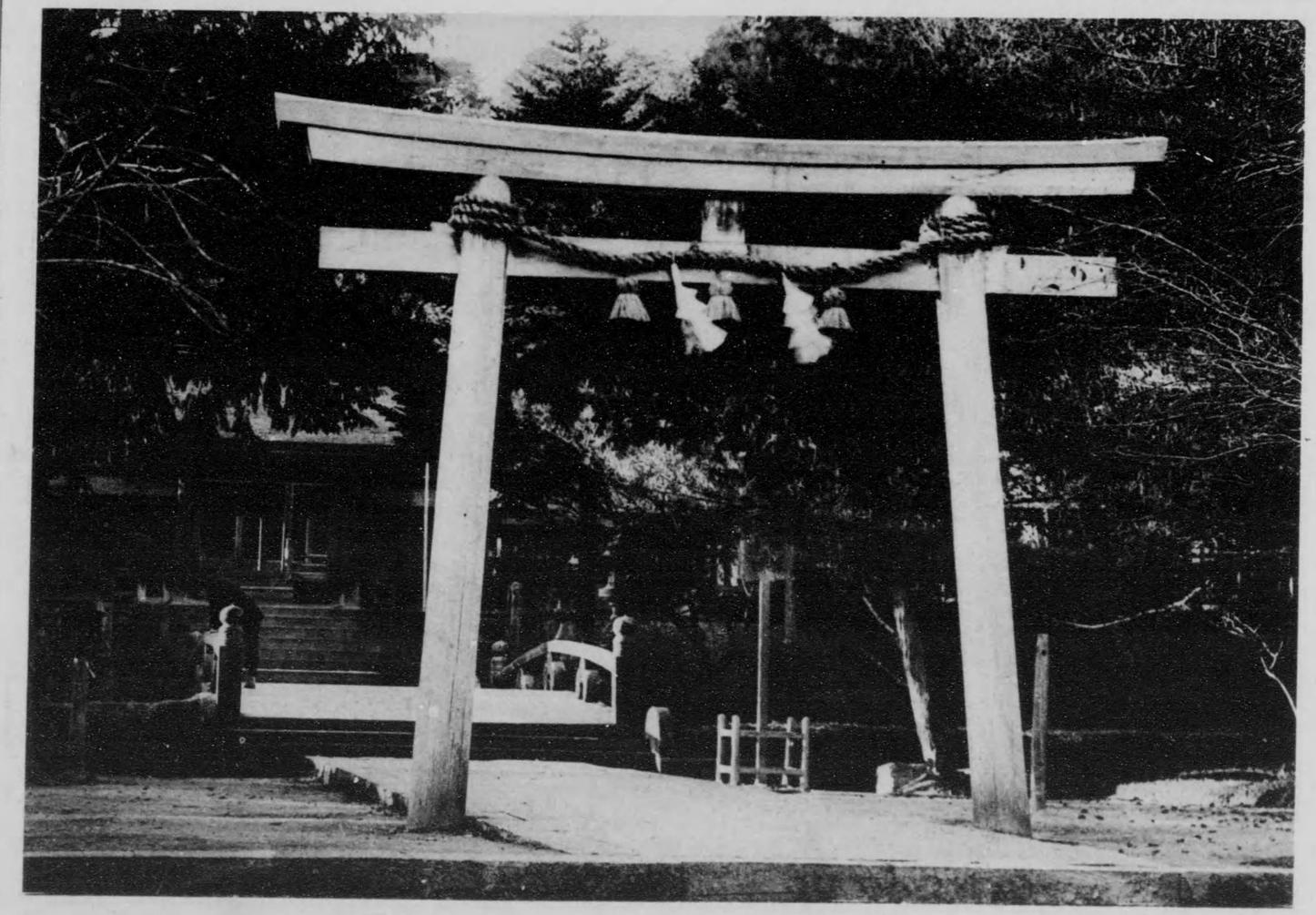
高知縣吾川郡浦戸村龍頭岬下の海濱なり、長曾我部元親の城址は此岬上にて、明治三十二年燈台を建つ、光力よく十三浬の距離に達す、前面は直に太平洋の蒼海に臨み、怒濤、碧潮奮ふる明霞の如し、又附近は危巖亂立、驚濤之れに激し、風光佳絶を極む、この濱の眞砂は悉く硅石にして、五色珊瑚數里に延る、圖中絶壁の上、二三の古松に擁はれたるは、龍王小廟にして、澎湃常に其の下に湧く　若し夫れ、中秋明月東天に懸る時、銀蛇金龍波間に躍るの壯觀あり、俚諺に曰く「みまさせ見せまし」よ、浦戸を明けて、月の名所の桂濱」

（因に初鰹揚出の桂濱は吸江泊船亭の誤りに付茲に訂正す、本版の初鰹には已に訂正とあり）

Katsura beach Tosa.

山口縣下吉敷郡山口町上宇野令に在り、贈正三位毛利元就の靈を祀る、明治二年雙璧の神號を賜ふ。同年勅使大納言岩倉具視參向御祭を奉納せられ、越えて十五年別格官幣社に列せらる。其の初め、元就の廟は安藝に在りしを、長門萩府春日神社

豐榮神社（周防山口）



Toyosaka shrine Yamaguchi, Suwo.

山口縣下吉敷郡山口町上宇野令に在り、祭神三柱を祀る、明治一年豐榮、神號を稱し、翌年新建左宮右宮共に竣工、祭典同論類を奉納せら れ、越えて十五年別格官幣社に列せらる、其の初め、元就の廟は安藝に在りしを、長門萩府春日神社に配祠され、又本殿は石見銀山の長安寺より、萩の洞春寺へ傳へしを、明治五年茲に移して本社を營建す、神域清淨にして規模結構の壯大なる、附近に其比を見ず。

澎湃常に其の下に湧く、若し夫れ、中秋明月東天に懸る時、銀蛇金龍波間に躍るの壯觀あり、理書に曰く雲入り井見せよ、月の名所の桂濱、

因に初號掲出の桂濱は吸江泊船亭の誤りに付茲に訂正す、（再版の初號には已に訂正しあり）

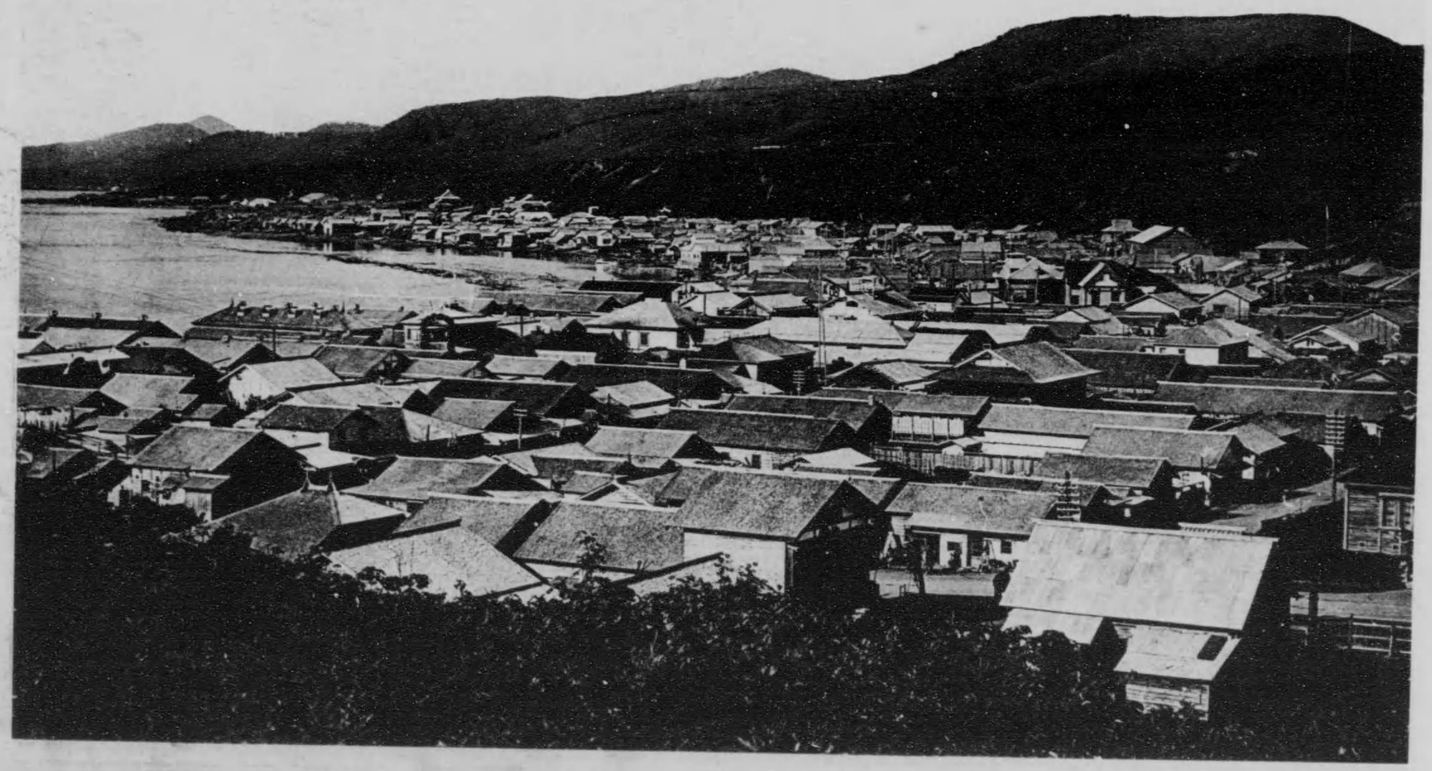
松原鹿の島

大村灣は一名綱の浦といひ、郡山環繞して潮池の狀あり、長さ二十一海里巾廣き處一海里より十三海里に及ぶ、外海即佐世保灣にして、西北に向つて港口を開く。大村町は舊人村藩の城地にして、人口一萬を越ゆ。松原村は大村より北三里、共に長崎線亘驛たり。圖は即ち此灣内大村より松原に至る間、東方多良嶽の峻峯と相對せる鹿の島の實景にして、此邊諸島嶼の明媚なる風光を示すの一端に過ぎず、此の海背より眞珠を産して名あり。

Shikanoshima (island) Matsubara, Hizen.

眞岡（マウカ）は樺太西海岸の南部に位し、原名エンルモコマプと呼び、從來、西海岸漁業の中心地として、夙に我遠洋漁民間に知られる。後方に段丘を負ひ、黑潮支派の暖水を擁して、本島唯一の不凍港たる眞岡灣を控ふ。露領時代には、戸數五十餘の一僻邑に過ぎざりしが、今は眞岡支廳を始め、區裁判所、學校、郵便局等の設あり、九百戸の小市街を成し、面目一新頗る殷賑

樺太眞岡港

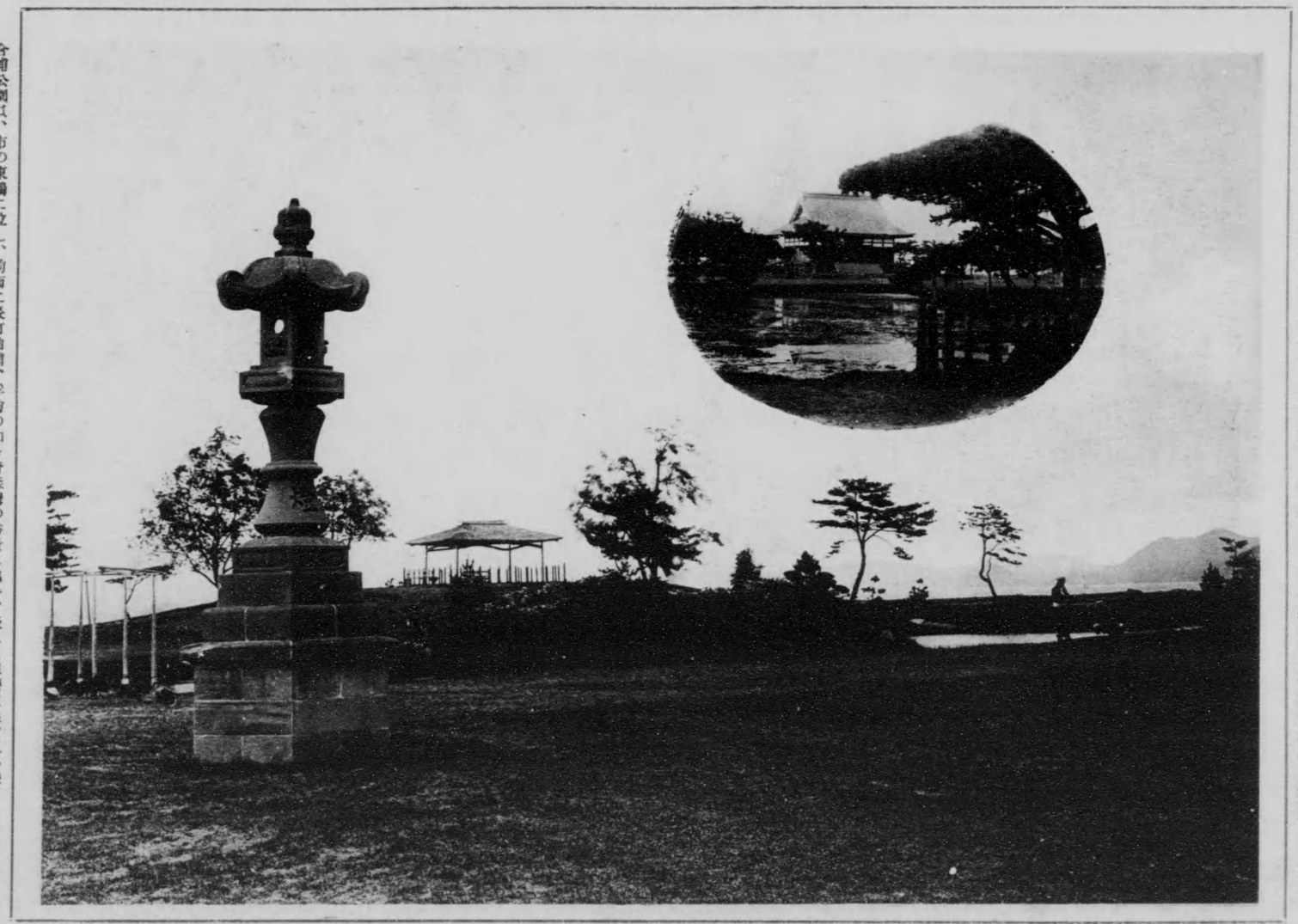


The Harbour of Mohka, Saghalien.

眞岡（マオカ）は樺太西海岸の南部に位し、原名ポロナイと呼び、從來、西海岸漁業の中心地として、夙に我遠洋漁民間に知らる。後方に段丘を負ひ、黑潮支派の暖水を控して、本島唯一の不凍港たる眞岡灣を抱ぶ。露領時代には、戸數五十餘の一漁邑に過ぎざりしが、今は眞岡支廳を始め、區裁判所、學校、郵便局等の設あり、九百戸の小市街を成し、面目一新頗る殷賑の狀を呈す。此地附近の海岸、總て階段狀をなして漁業に甚だ便利なり。且鰊の襲來極めて盛なれば、沿海數千里、漁業の盛なる全島に冠絕す。港域狹く且淺きを缺點とすれど、厳寒の候も內地と船舶の往來絕えず、殊に漁季に際しては、日として汽船の黑煙を見ざる無く、時には十餘艘の大船の集合する盛況をも呈すといふ。

崎線を驛たり。圖は即ち此灣內大村より松原に至るの間、東方を眞狩の連峯を相對せる鹿の島の實景にして、此邊諸島嶼の明媚なる風光を示すの一端に過ぎず、此の海岸より眞珠を産し、名あり。

青森合浦公園



The Awomori Park, Mutsu.

青森は元、袰澤砂洲徒に多くして、彌洲潟（イヤス）と呼ばれ、慶長の頃までは北海の一濱土に過ぎず、弘前藩政の時代に至り、稍面目を革めしも、然かも地僻陬に處り、塞陋を免れざりし所、然るに今は北海道の樞喉を扼する要港となり、津輕沿部の中心に衝り、東北、奥羽兩線の終點を占め、市街日に殷盛に趨き、人口約四萬五千、青森縣廳及歩兵第五聯隊の所在地となれり。

合浦公園は、市の東端に位し、前面に長汀曲浦、浮綉の如き青森灣の秀景に臨み、後には翠巒重疊、天を摩する八甲田の山嶺を負ひ、眺望頗る佳、以て朝北の旅愁を慰むるに足る。

岩鷲（ガンジュザン）山は盛岡より西北の間に見え、行程十四里、碧天に聳立する蟲々數千仞、遠望すれば玲瓏芙蓉峰に彷彿たり、地人呼で南部富士と稱す。西方頂上に一火口瀑あり赤澤といふ、源を火口壁の東南隅に發し、鬼城（オニガジヤウ）の絶壁下を急降し、赤倉、姥岳の間を破りて北に出づる所、兩岸相聳まり峭壁をなし、急湍奔流七瀑の稱あり。裾野は渺茫として、瀧澤、西山、田頭、

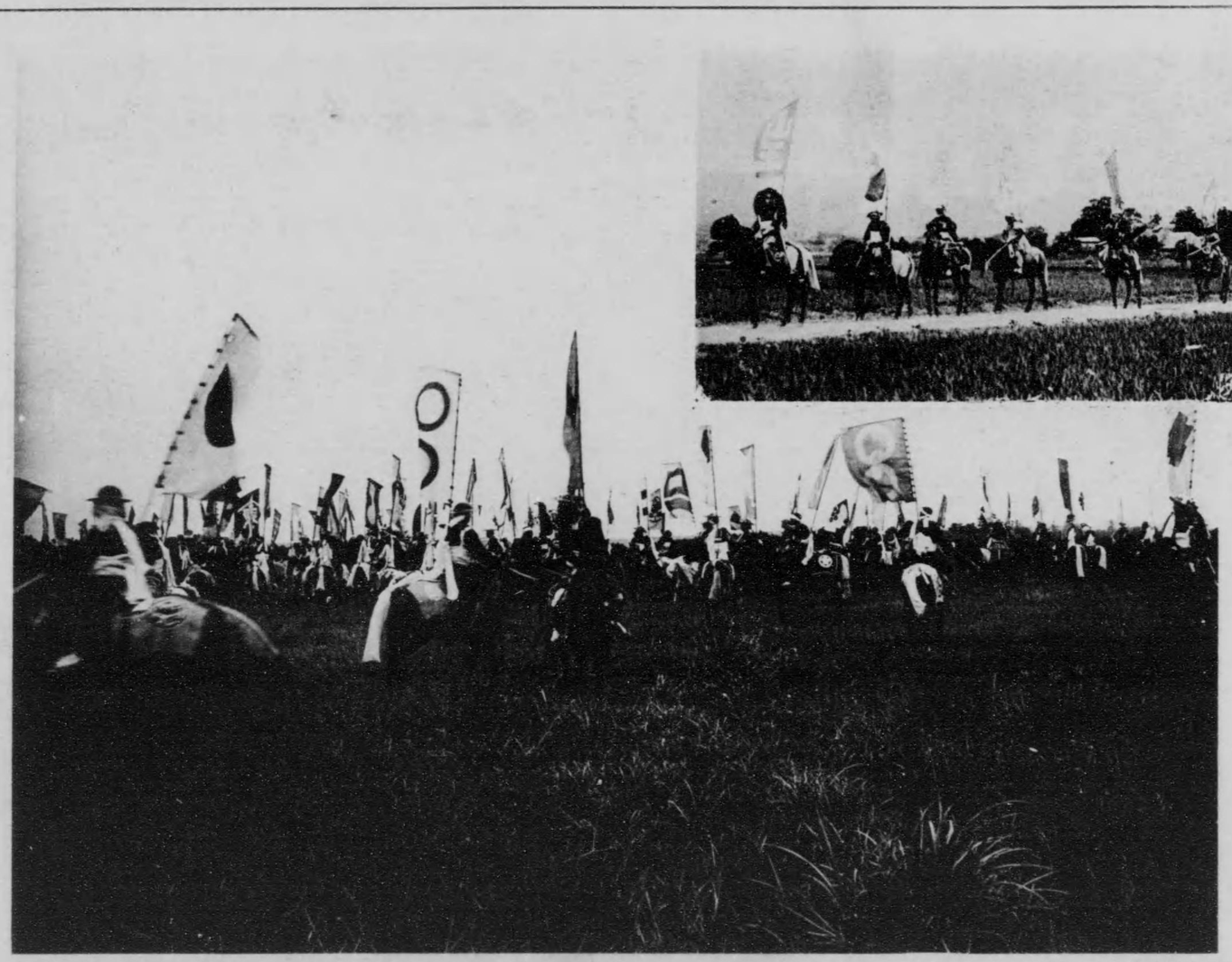
合浦公園は、市の東端に位し、前面に長汀曲浦、浮綠の如き青森灣の秀景に臨み、後には翠巒重疊、天を摩する八甲田の山嶽を負ひ、眺望頗る佳、以て朔北の旅愁を慰むるに足る。

岩手山の遠望

Mt. Iwaté, Rikuchû.

岩鷲山（カンワシヤマ）は盛岡より西北の間に見え、行程十四里、碧天に聳立する蟲々數千仞、遠望それ玲瓏芙蓉峰に彷彿たり、土人呼で南部富士と稱す。西方頂上に一火口瀑あり赤澤といふ、源を火口盤の東南隅に發し、鬼（おにび）城の絶壁下を急降し、赤倉、姥岳の間を破りて北に出づる所、兩岸相蹙まり峭壁ななし、愈洞奔流七瀑の稱あり。裾野は渺茫として、瀧澤、西山、田頭、松尾の四村に跨り、雄麥端麗壯大、思はず佇立顧望、天下また此好山ありやと嘆賞せしむ。盛岡藩の望で以て封内の鎮山となせる故なきにあらざるなり。山は貞享三年一大噴火ありしが、爾後絶えて其事なく、今火口址中の低地に岩手神社を祠れり。

相馬野馬追



相馬は舊相馬氏の領土にして、相馬六萬石と稱せしの地、今、福島縣に屬す。此の地、藩制の當時にありては、一種特殊の國風存し、三百列藩中の一異彩と稱せられたりき。相馬野馬追は即ち其一なりとす。そも野馬追の濫觴は、遠く永平の昔にあり。當時、平親王、關八州を領し、總州葛飾郡小金ヶ原牧場に野馬を放ち、年々春夏秋の三季、八州の兵を集め、野馬を追ひ所謂、馬打物の早業を練りしもの、大將を始め、諸士悉く甲冑を帶し、家々の旗指物にて是を追ふ態、花咲く春の晨に異ならず、軍伍を設け、屯をなし、備を亂し、法螺太鼓を打鳴らして驅引をなす所、自在の振舞恰も環を轉ずるが如かりしといふ。今や當年の勇士無しと雖も、旌旗甲冑騎馬鎗弓、猶舊に依り、雲雀野に乘出す甲冑の武士三千餘騎、縱横馳驅の狀は、元龜天正の世の態を活現し眞に觀者をして、今昔の感に堪へざらしむるものあり。

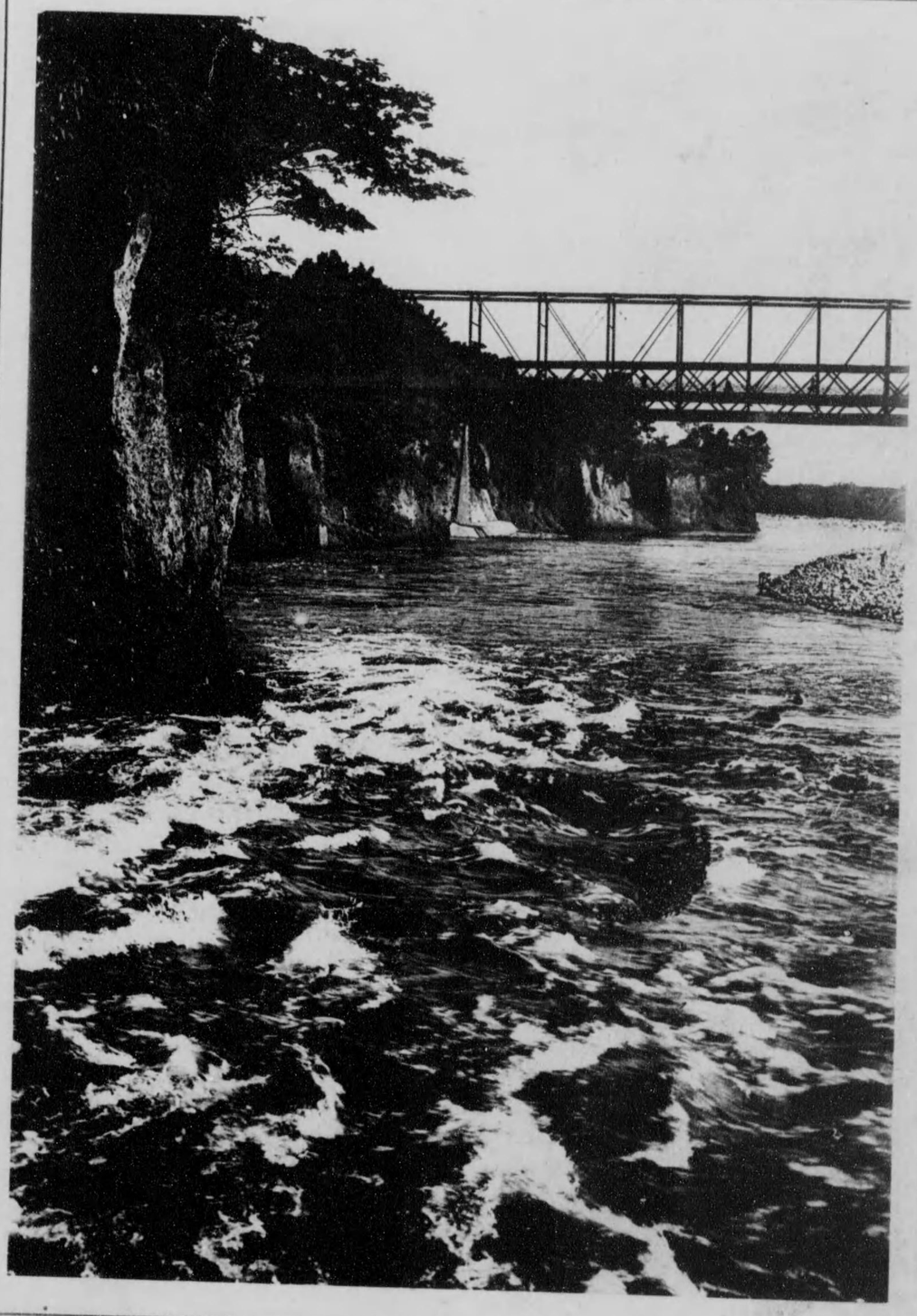
An Amphitheatral Festival in Sohma, Iwaki.

武士を、元禄天正の世の俤を活現し、眼に観者をして、今昔の感に堪へざらしむるものあり。

といふ。今や往年の勇士無しと雖も、山岳を穿ち、軍伍を設け、鼓を鳴し、鉦を打鳴らして、鬨の声を揚げ、法螺天鼓を打鳴らして、鬨の声を揚げ、鉦を鳴し、鼓を鳴し、軍伍を設け、山岳を穿ち、

利根川の奔流

利根川は上野國利根郡文殊山の溪流に其源を發し、澄澈百折千曲、巨岩蟠る所流水碎けて萬斛の雪か散し、淪漣波回叢木稠密翠壁を映じ、或は烟霞の裡に隱れ砂礫遠く帶を延べ、南下して鬼怒川及手賀沼、印旛沼、長沼、霞浦等の水を收め、銚子に至りて海に注ぐ。全長實に七十三哩、舟楫、運漕、灌漑の惠澤豐にして、阪東太郎の別稱あり、東國風光に一生命を與ふるものなり。圖は松平氏十七萬石の舊城地、前橋城趾の後を扼して、急奔白馬を踏らしむる所、若夫れ金風秋の錦を織る時に至れば、水落ちて、石瘦く其の容を現はし、觀賞最も佳なり。



The Toné River, Kohdzuké.

柿崎鷺島辨天

伊豆下田港の東側なる柿崎半島とす。聳崖岩嶼紛錯出沒して、海山の景象頗る奇幻なり。柿崎辨天は村の一端、突兀たる岩嶼の中腹巨松鬱蒼たる所に位す。一度頂上に攀れば、爪木崎の奇勝を隔てゝ、雲烟模糊の間に大島は香爐の如く、仰げば伊豆の連山蟠々白雲に摩し、俯しては崎嶇たる濱海を歴々指點すべし。風光の絶佳なるは、灼然たる靈驗と兩々相俟つて、柿崎辨天の名近縣に嘖々たり。宜なる哉、下田の地に杖を曳くものゝ齊しく稱へて、本地無双の勝地となすや。因に、安政元年三月二十七日、吉田松陰が米艦に投ぜんとして、小艇を出しゝ所は此島なりといふ。

Sagishima Bénten, Idzu.

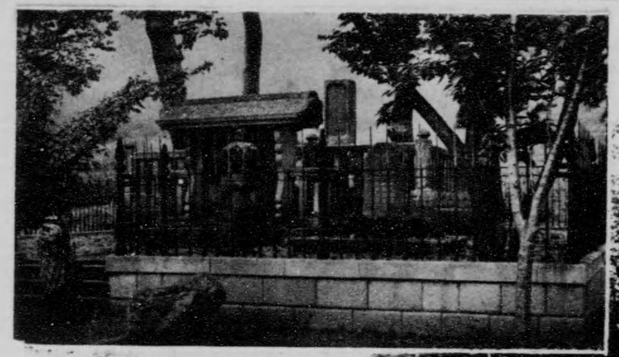
甲府の地たる四陸翠巒を繞らし、天與の要害たなし、摺鉢の底にも譬ふべく、鉢の緣に位する郡村の産物は、一度此底に集中して更に分散す、紫榮傳然にあらざるなり。市の一角鯉鶴城は、天正十三年德川家康の創設に係り、淺野長政の完成せしめたるもの、形鶴の雙翼を張るに似たるを以て此の稱あり。壁塚の喬松、舊に依つて綠を成し、坐ろに三百年の昔を想はし

天の名近縣に嘖々たり。宜なる哉、下田の地に杖を曳くものゝ齊しく稱へて、本地無双の勝地となすや。因に、安政元年三月二十七日、吉田松陰が米艦に投ぜんとして、小艇を出しゝ所は此島なりといふ。

甲府城跡

甲府の地たる四隣嶮峻を繞らし、天與の要害たなし、摺鉢の底にも譬ふべく、鉢の縁に位する郡村の背物は、一度此底に集中して更に分散す、繁榮偶然にあらざるなり。市の一角鯉鶴城は、天正十三年德川家康の創設に係り、淺野長政の完成せしめたるもの、形鶴の雄翼を張るに似たるを以て此の稱あり。蟠踞の喬松、舊に倣つて綠を成し、坐ろに三百年の昔を想ほし

武田信玄の墓

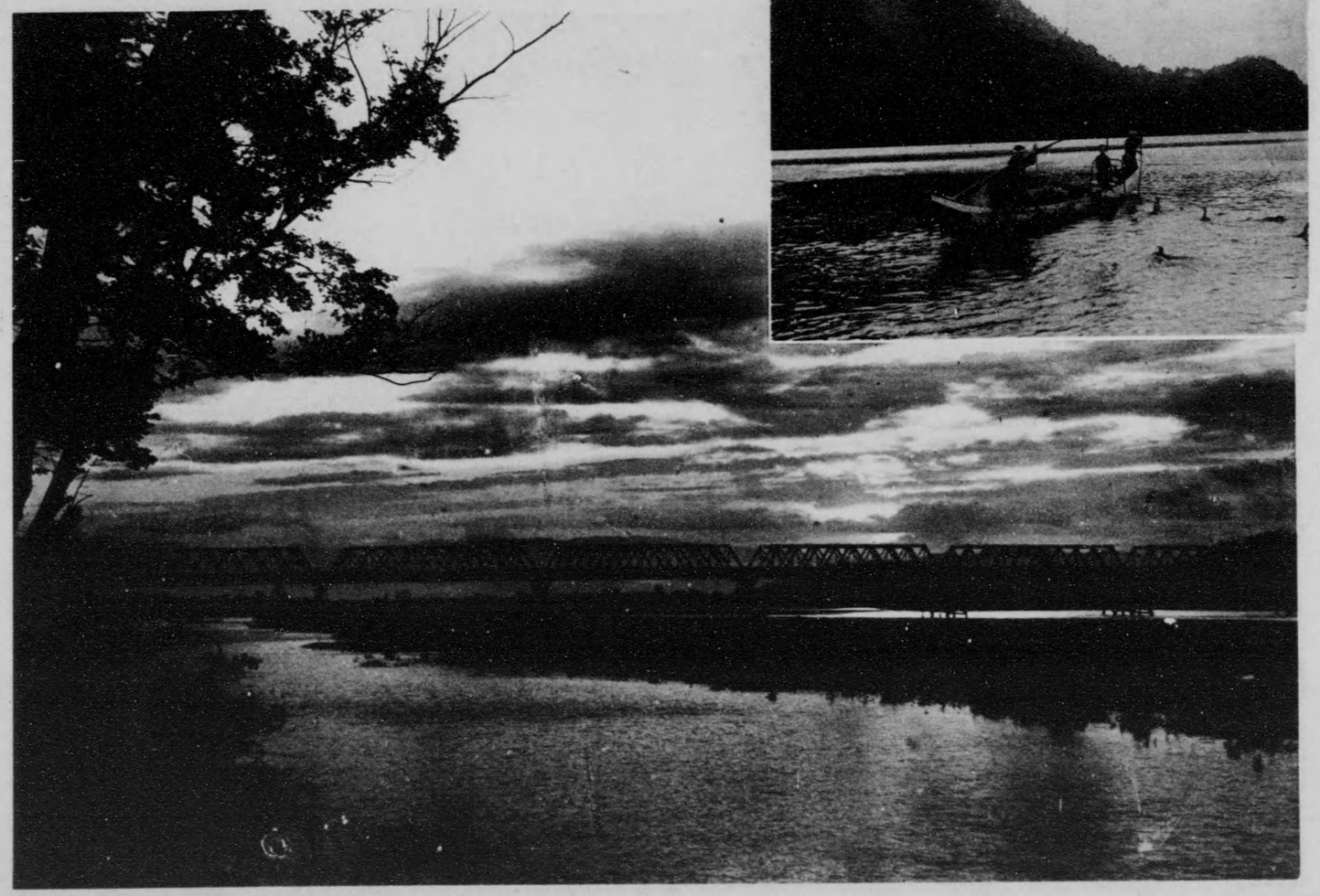


む。明治九年修築して公園となす、園内には梅林あり藤棚あり、四顧渺茫の間、荒川の清流を眺むべく、雲烟模糊の間、武田氏の古城を望むべし。岡鹿門雅の風趣眼々として盡きず。因に武田信玄の墓は、驛を距る西北約一里、元龜天正の昔、上杉謙信と奥越を爭ふて、勇名を馳せたる歴史は、皆人の知る處、靜に筇を曳いて、英魂を弔ばゞ、感慨更に深きものあらん。

The Remains of Kohfu-jô(Castle), Kai.

長良川の夕陽

鵜飼



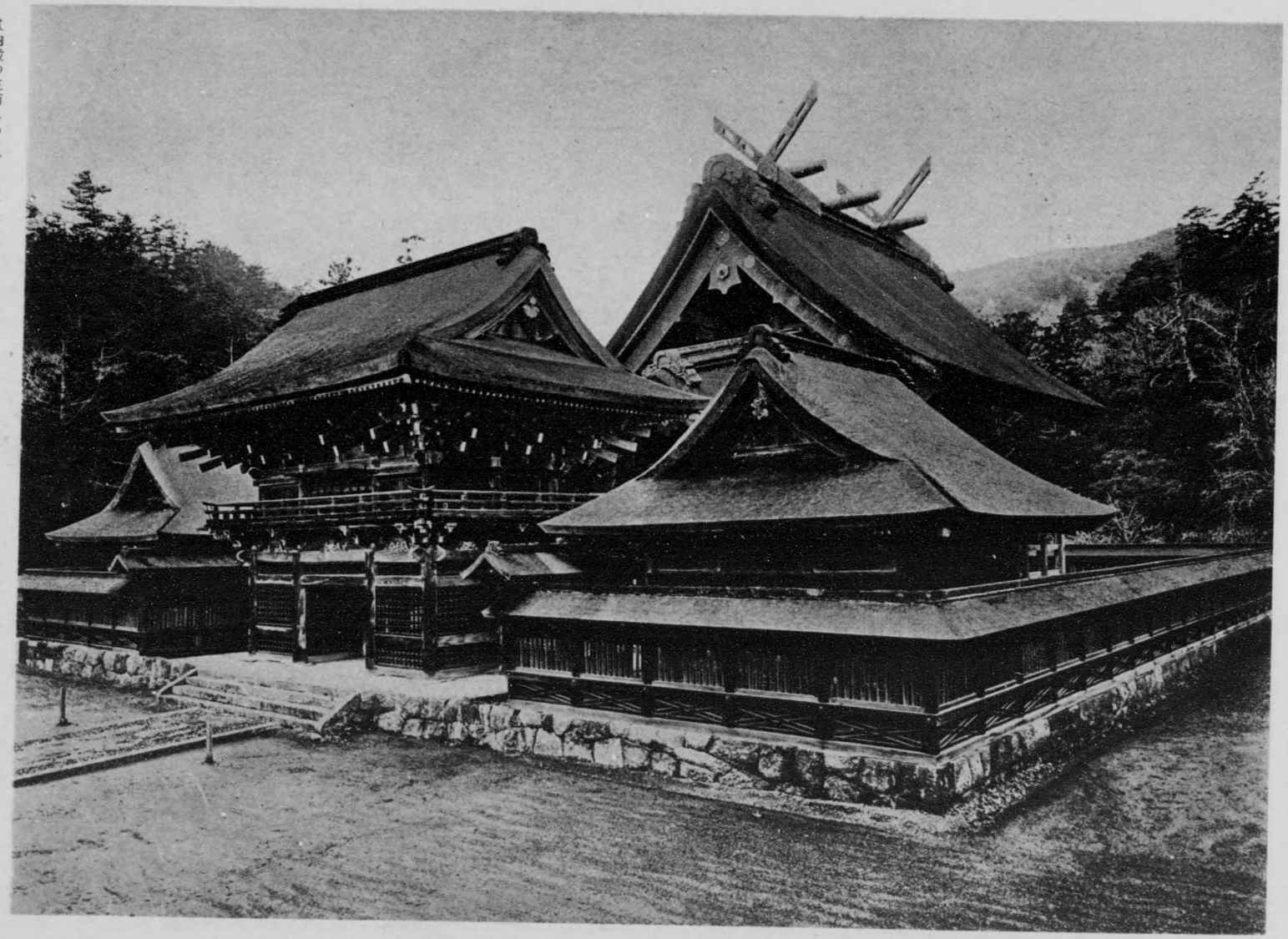
The Nagara River, Mino.

長良川は其源を白山々脈に發し、奔湍激を挽き、深谷を經ひ、紆曲縱横、沿道に風光の生命を與へ、武儀、伊津の二川を併せ、西南に趨みてやうやく低野に就く。即ち岐阜市街の西北に於て分流して、三流となり、再び合して南に轉じ、糸貫川を併せ黒俣川を過ぎ、御津村大藪に至り、南向するものは木曾川に入り、西向するものは揖斐川に注ぐ、延長約三十二里、古名鮎見川といふ。岐阜附近は、清流殊に緩にして、五月より十月迄鵜飼盛に行る。即ち小鵜は其實況を示せるもの、岐阜の鵜飼とて其名古より傳はれり。古詩に『疎疎仍滑馬蹄滑、重疊青山去路長、一把黄花半瓢酒、藍川堤上作重陽。』

出雲大社風光

見川といふ。岐阜附近は、高法師に擬にして、五月より十月迄鵜飼陰に行ふ。即ち小岡は其賞説を示せるものゝ、岐阜の鵜飼とて其名高き事傳はれり。古詩に「曉猿傷客淚、春鳥喜山長路花、一把黄花半醒酒、藍川是上採蓮場」。

出雲大社本殿及樓門



百磐大社、天日隅宮なり。大社造、向破風登御拜四方縁別高欄付、高さ八丈廣さ六間四面、遠く神代の創建に係り神威赫々比ふべくもあらず。上古の宮居は高さ三十三丈、天照大神の勅により諸神之を造營す。後、垂仁の朝に及び十六丈の制に改められ、更に齊明帝の時に至り八丈を正殿式とし、之に充たざるを假殿式と定められ、爾來の造營皆此制に據れり。すべて檜杉の素木造にして、神殿は内殿の正面にあらずして右方の奥まりたる所にありて側面に向へるなど、實に本邦最古の間取式建築なり。樓門は本殿の前面にあり。入茂屋妻破風、高さ三丈九尺、桁下蟇股に巧緻なる彫刻あり。天正年中尼子經久の建立に係る。

The Chapel and Tower Gate, Izumo Shrine.

稻佐濱

Inasa Shore.

大社を距る西六丁、杵築灣の北方一帶の沙濱なり。皇祖天神の御使、建御雷神經津主神天降りて大國主命に國土奉遷の諾否を問ひ給ひし靈蹟にして、風光亦頗る明媚なり。濱は西面にして佐比賣の翠微高く雲表に聳え、一桁の青山起伏して遠く石見の大浦鼻に連なり、北は御碕山の長脈蜿蜒半月形を描いて海中に突出する事二里、日御碕に至て盡く。其間一大灣を爲し、鮴天、鹽燒、疊、笹子諸島の景勝を浮ぶ。若し夫れ彩雲天を燒き金蛇波間に躍る夕照の豪華は、二見の朝暾と併稱せらるゝ絶景なり。白沙水碧、遠淺にして遊浴に適するを以て、夏時海水浴を開く。又、水族館の設けあり。

(一)
(二)
(三)

出雲大社

(吾邦最古最大の社、現時官幣大社祭神は福の神、縁結びの神、子寶の神として聞ゆたる大主の命)

(一)

(二)

銅印

(三)

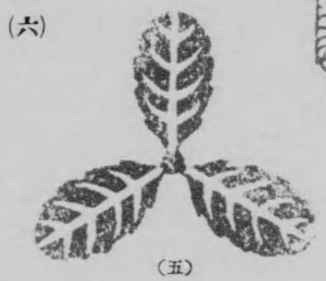
(四)

(四)
(五)
(六)

日御碕神社

(出雲大社を距る二里、素盞嗚命を祀る)

(五)



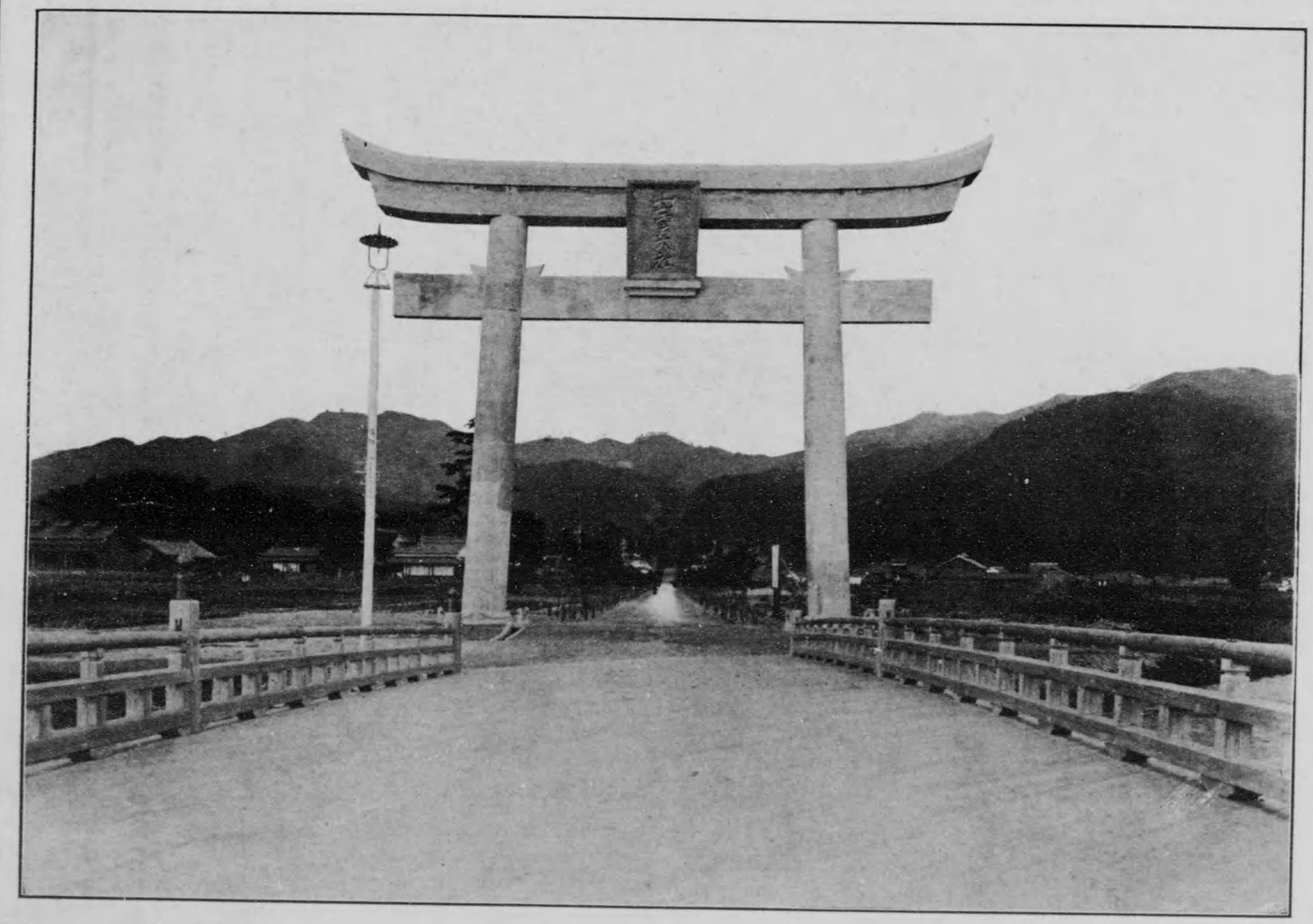
(六)

出雲大社日御碕

八雲山
出雲大社本宮
素鷲社
寶物館
文庫
大神大后神社
伊那毘比賣神社
御蔵社
鶴山
神魂御子神社
十九社
樓門
八足門
琴板
觀察樓
十九社
會所
亀山
弥山
北島國造館
千家國造館
大社教本院
社務所
出雲ノ森
命社
出雲井社
水族館
因佐神社
上宮
大廣社
下宮
稲佐
塩湯島
素鷲川
銅鳥居
清路
板橋
稲荷社
所列陳産物
所列陳産物
大鳥居
新大鳥居
赤人社
神火島
(出雲)
(出雲一尾)
杵築港
杵築町
杵築川
寺迎島
大社駅

出雲大社日御碕神社參拜案内圖

新大鳥居



Ō-Torii.

大社驛より右折して行く事數町、堀川に架せる一橋あり。宇迦橋と言ふ。唐銅擬寶珠付の欄干橋にして長さ二十五間幅六間、大正三年の新設なり。八雲山の古名を宇迦の山と曰ふに因りて此橋名と爲す。橋を渡れば即ち神門通にして、大鳥居は橋畔に巍然として聳ゆ。高さ七丈五尺、下間九間半、柱の周圍一丈八尺あり。大正四年十一月、御即位大典紀念のため小倉市小林德一郎が獨力を以て寄建せるものにして、悉く鐵筋混凝土を以て築造し、日本第一の大鳥居と稱さる。

松の馬場と祓橋

大鳥居より緩坂を降り、寒路の松原に至る處に素鷲川あり。一橋を架す。祓橋と言ふ。橋を渡れば即松の馬場にして老松一路天を蔽ひ、碧露滴々翠嵐靄々、太古髣髴として偲ぶべし。松は寛永年中、出雲の國守堀尾吉晴の夫人長松院の寄植に係る。松原の中央第二の鳥居あり。高さ二丈七尺、木製なり。兩側は神田にして、東方に神代の昔諸神大社を造營したる時、杵を納めし古蹟なりと言ふ杵那築の森あり。又、西方に千本松の遺蹟あり。

Matsu-no-Baba (Pine-grove) and Misogi Bridge.

大社正門の人口に聳え、碧銅蒼欝、古澤拘すべし。高さ一丈九尺、胴圍六尺。寛文六年、防長の國守毛利綱廣の寄進に係る。是よりさき、綱廣の祖父毛利輝元の寄附せし碧銅の鳥居西南の七口門にありしが、寛延二年顚倒せしにより、國守松平氏之を鎔して大砲二

銅　鳥　居

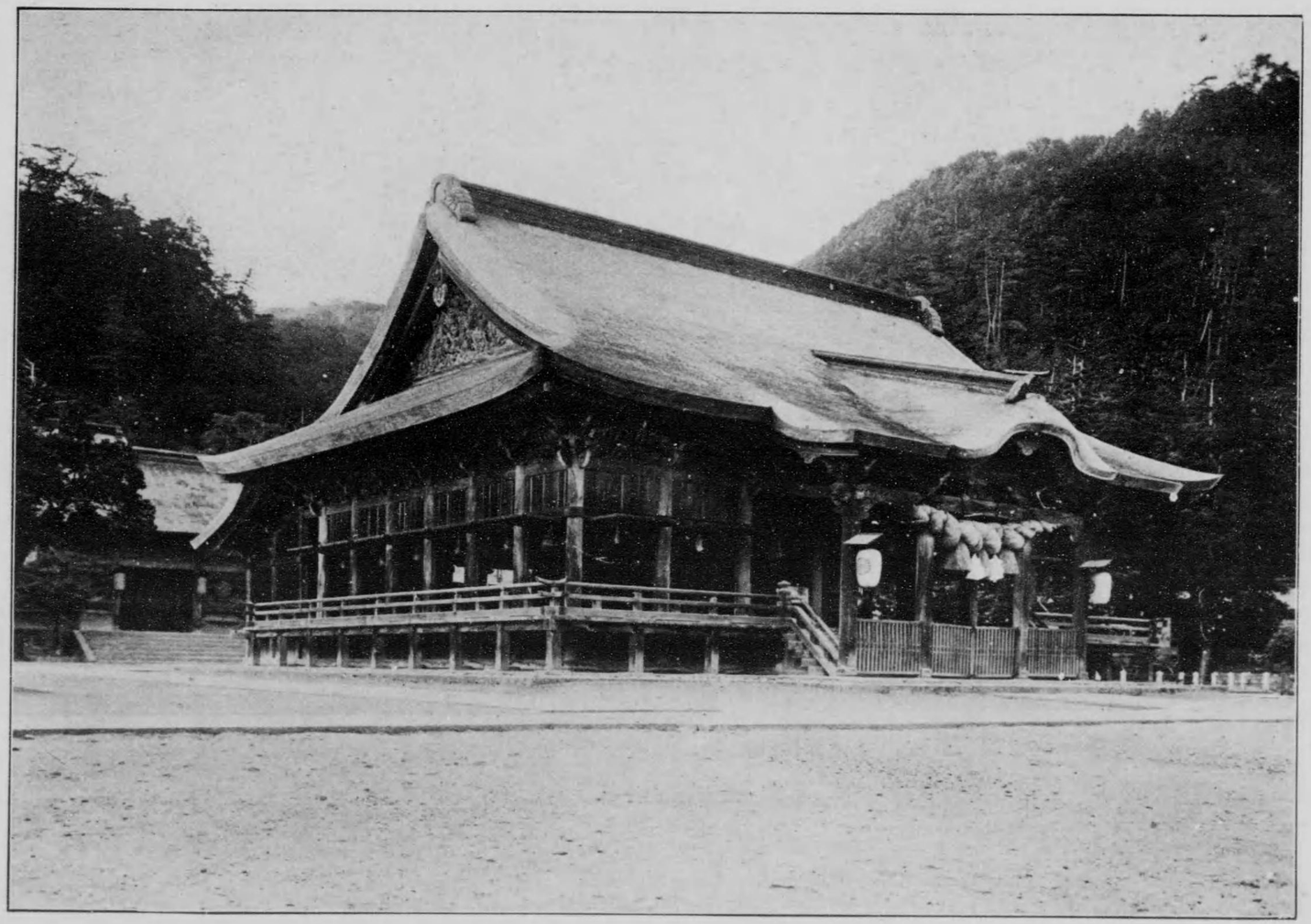
大社正門の入口に聳え、碧銅蒼鬱、古澤掬すべし。高さ一丈九尺、胴圍六尺。寛文六年、防長の國守毛利綱廣の寄進に係る。是よりさき、綱廣の祖父毛利輝元の寄附せし碧銅の鳥居西南の七口門にありしが、寛延二年顚倒せしにより、國守松平氏之を鎔して大砲二門を鑄す。稜威砲、神風と號けて今猶寶物館に藏せり。

Dō(Copper)-Torii,

の鳥居あり。高さ二丈七尺、木製なり。兩側は神田にして、東方に神代の昔諸神大社を造營したる時、杵を納めし古蹟なりと言ふ杵那築の森あり。又、西方に千本松の遺蹟あり。

四方椽剝高欄付にして、南北二面とも入口に唐戸あり。中央二間四方を仕切りて高座を設けて神樂所に充つ。天井は天蓋折揚格天井に

拜殿



The Hall of Worship.

銅鳥居の正面にあり。永正十六年、尼子經久の建立に係る。出組造入茂屋妻破風向玄關唐破風造にして桁行十間、梁行七間、地面百五坪、木材は總て杉檜の素木を用ひ、柱は悉く槻の圓木を以てす。屋根は栃板葺にして格天井、欄間等皆巧緻なる花弄鳥獸を彫れり。

玄關梁の拳先に牡丹の透彫、唐獅子、象首等を刻む。すべて名工の苦心に成れるものなり。その妻破風の飛龍は元本殿の破風なりしを、寛文七年造營の際此所に移したるものとす。

拜殿内部

Interior of the Hall of Worship.

四方椽刻高欄付にして、南北二面とも入口に唐戸あり。中央二間四方を仕切りて高座を設けて神樂所に充つ。天井は天蓋折揚格天井にして、承塵の上部四方に雲龍及び松竹梅鶴龜等を彫り、桁下蟇股には百花百鳥を刻む。孰れも名匠の作にして生姿飛動妙技神に迴れり。

玄關梁の拳先に牡丹の透彫、唐獅子、象首等を刻む。すべて名工の苦心に成れるものなり。その妻破風の飛龍は元本殿の破風なりしを、寛文七年造營の際此所に移したるものとす。

八脚門下禮拜の後、右折して行くこと數十歩、東の十九社に出づ。その左方に釜社あり。更に瑞垣に沿ふて進めば本殿の側面を見る。垣内、本殿と相並びて二社あり。本殿に近きを大神大后神社とし、一を伊能知比賣神社と言ふ。猶進めば文庫あり。此所にて壯大な

本殿背面

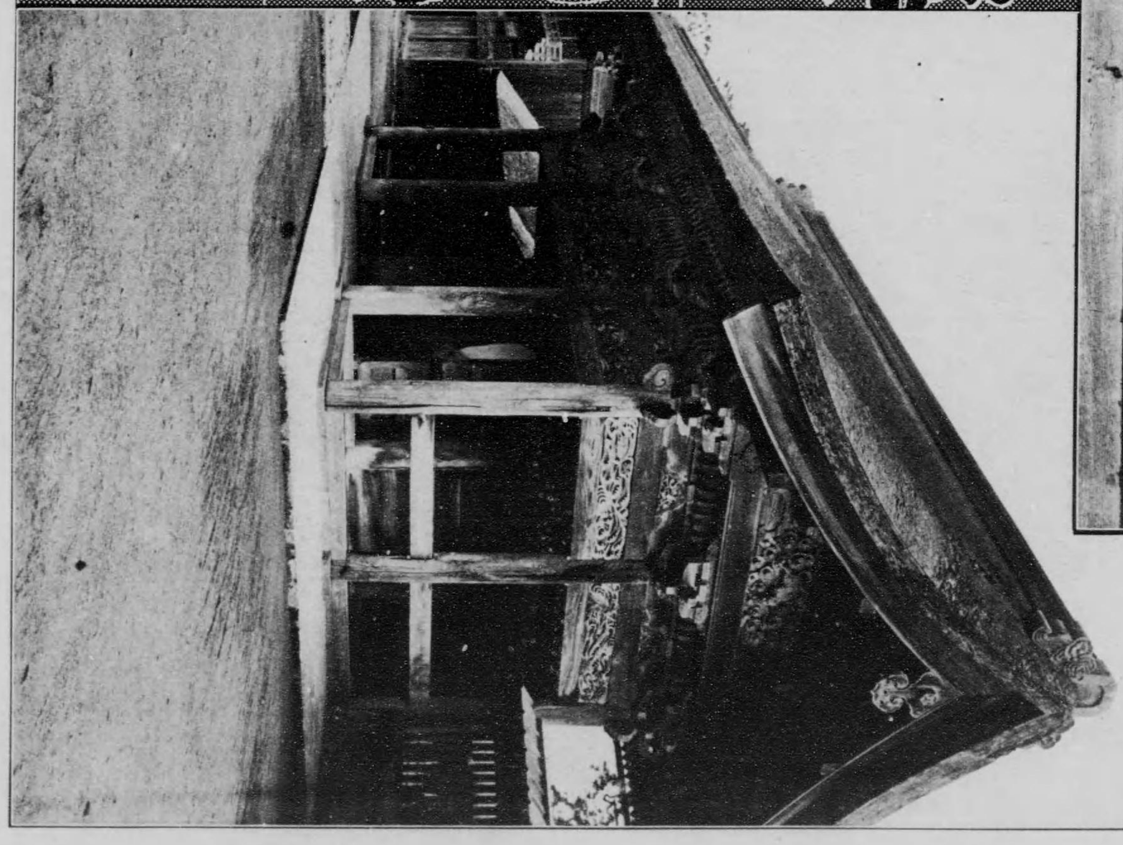
The Shrine Back.

る本殿の背面を仰ぐ。屋上の千木は長さ二丈八尺幅二尺五寸厚七寸あり。其風切穴は優に人の潜り得べしと言ふ。堅木は長さ一丈八尺周圍八尺八寸あり。屋根は檜皮葺厚さ三尺、地域百七十七坪あり。結構宏壯、神威自ら尊し。素鷲社近し。その左方寶物館あり。

足入門

る本殿の背面を仰ぐ。屋上の千木は長さ二丈八尺幅二尺五寸厚七寸あり。其風切穴は優に人の潜り得べしと言ふ。堅木は長さ一丈八尺周圍八尺八寸あり。屋根は檜皮葺厚さ三尺、地域百七十七坪あり。結構宏壯、神威自ら尊し。素鷲社近し。その左方寶物館あり。

門足八



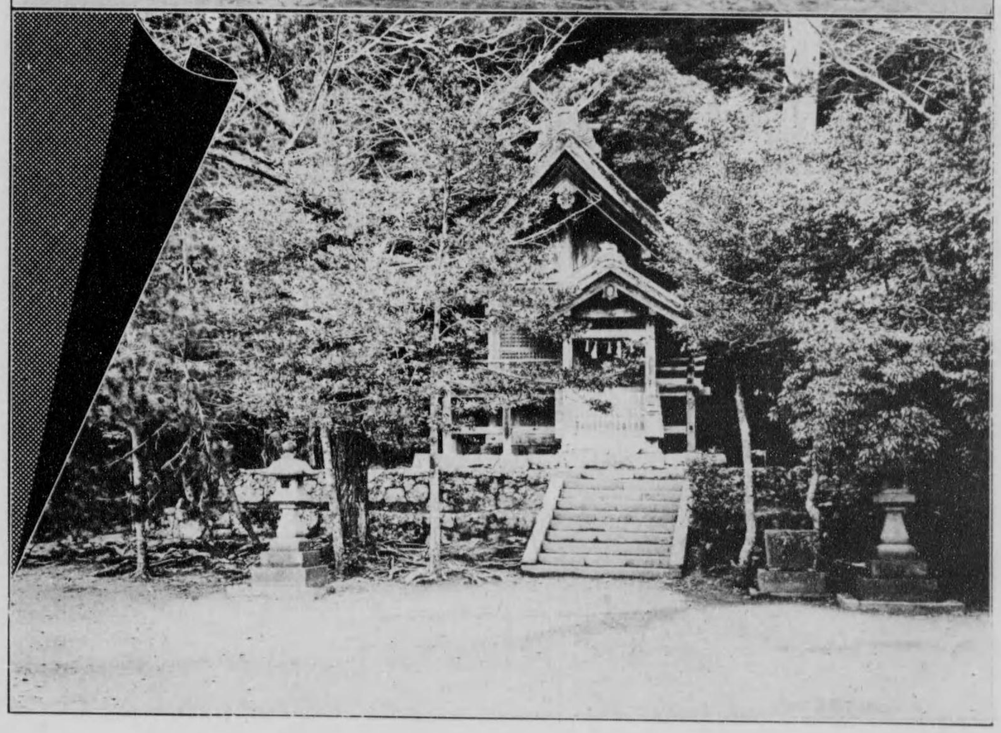
Yatsuashi-mon (Gate).

社殿の後、石階の上方、東西に廻廊を繞らせり。八足門は其中央に立つ素鐵鳳凰にて、屋根は檜皮葺、桁行五間梁行三間、鏡天井桁下は波に兎、雲に鳳凰、水鳥等の彫刻あり。

又、裏面に獅子の彫刻（圖）あり、左右狛犬の各作にて、かの日光陽明門の眼鏡と共に天下の双璧なる。

素鷲社と十九社

素鷲社は境内摂社の一にして、八雲山麓に鎮座す。素盞嗚尊を祀る。大社造、向破風登御拜四方欅刻高欄付の神殿なり。四邊老樹鬱蒼、靜寂幽邃の靈境なり。陰暦一月二十八日大祭を行ふ。此日社前に拐子市を開き、賽者爭ふて之を買む。俗に拐子祭と稱す。十九社は域内末社にして、總て三十八社あり。拜殿の東西に十九社宛相對す。陰暦十月十一日より十七日に至る間、本社に行はる、神在祭(御忌祭)に八百萬の神々が集ひ給ふ社なりと言ふ。十月を神無月と曰ひ、出雲國のみ獨り神有月と稱ふるは此由緒によりてなり。



Soga Shrine and Nineteen Shrine.

域内西北隅、荒垣に沿ひ南面して建築す。廟面對に本殿を仰ぎ、後、手廻山の神林を負ふ雲邃の境域なり。入母屋造要棚付、桁行八間半、梁行五間半、二所處にして格天井なり。階上階下に各陳列棚を設け、大神御料の衣冠束帯を始め、古文書、武器、祭器、御遷座

寶物館と其内部

域内西北隅、荒垣に沿ひ南面して建築す。前面斜に本殿を仰ぎ、後、宇迦山の神体を負ふ瑞逸の境域なり。入母屋造栗栩葺、桁行八間半梁行五間半、二階建にして格天井なり。階上階下に各陳列棚を設け、大神御料の衣冠束帯を始め、古文書、武器、祭器、御遷座調度品及び書畫等を陳列して普く參拜者に拜觀せしむ。就中、國寶豊臣秀吉佩刀（銘光忠）、螺鈿蒔繪櫛笥、紫藤琵琶、足利義教甲冑及び後醍醐天皇綸旨數通等、史料として斯學者の參考に資すべきもの頗る多し。

Anything Much Valued Mansion and Its Interior.

Soga Shrine and Nineteen Shrine.

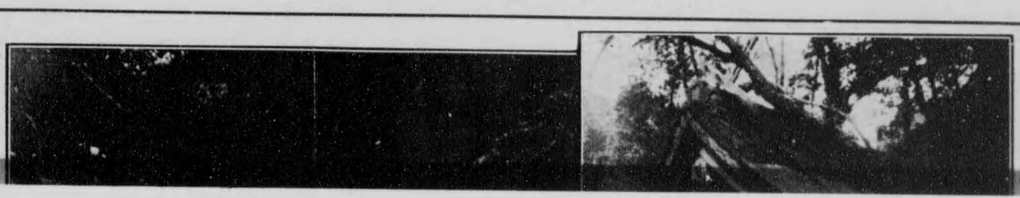
寶物

寶物中の逸品たる紫藤琵琶、櫛稻田姫神像、螺鈿蒔繪櫛笥なり。紫藤琵琶は谷風琵琶とも言ふ。元弘年中、後醍醐天皇の御寄進なり。文政十一年、光格天皇の勅命により禁中に上り、同十三年、殊勝の古器叙感最も深きの旨を以て、修覆を加へ新に袋を製し黄金二十兩を添へ御返納あらせらる。櫛稻田姫神像は荒川龜齋の苦刻せし名作にして、一度米國市俄古の博覽會に出品し、後、濱離宮に安置せられしが、明治二十七年本社に奉納さる。螺鈿蒔繪櫛笥は高倉天皇の安元元年、本社造營遷宮の節の製作に係り。我國螺鈿蒔繪の成功せる最初のものなり。現時國寶に數へらる。

Anything Much Valued.

玉泉寺瀧と三歳社

玉泉寺瀧は本社の西

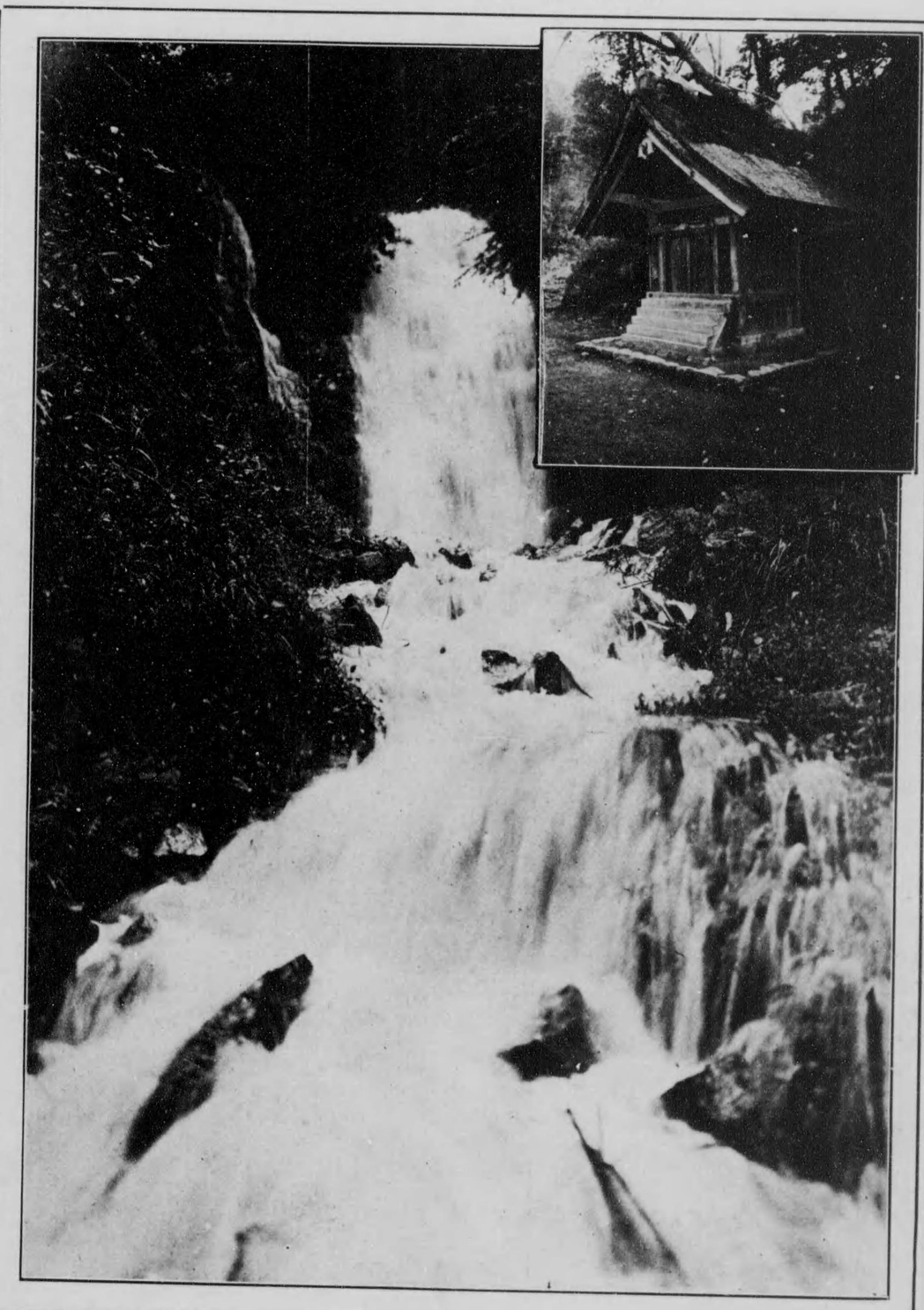


二丁にあり。境外摂社

の成功せる最初の

Anything Much Valued.

玉泉寺瀧と三歳社



玉泉寺瀧は本社の西方、字奥谷にあり。素鷲川の水源にして、八雲山の西、瀬戸風の渓谷より飛流する一小瀑に過ぎざるも、地、幽邃閑雅、夏時避暑の好適所たり。三歳社は瀧を距ること西二丁にあり。境外摂社の一にして、大穴持御子神社と曰ひ事代主神、高比賣神、御年神を祀る。毎年一月三日祭事を行ひ福柴を授與す。此日、遠近より夜を冒して參拜する者頗る多し。

Giokusenji Fall and Sansai-shrine.

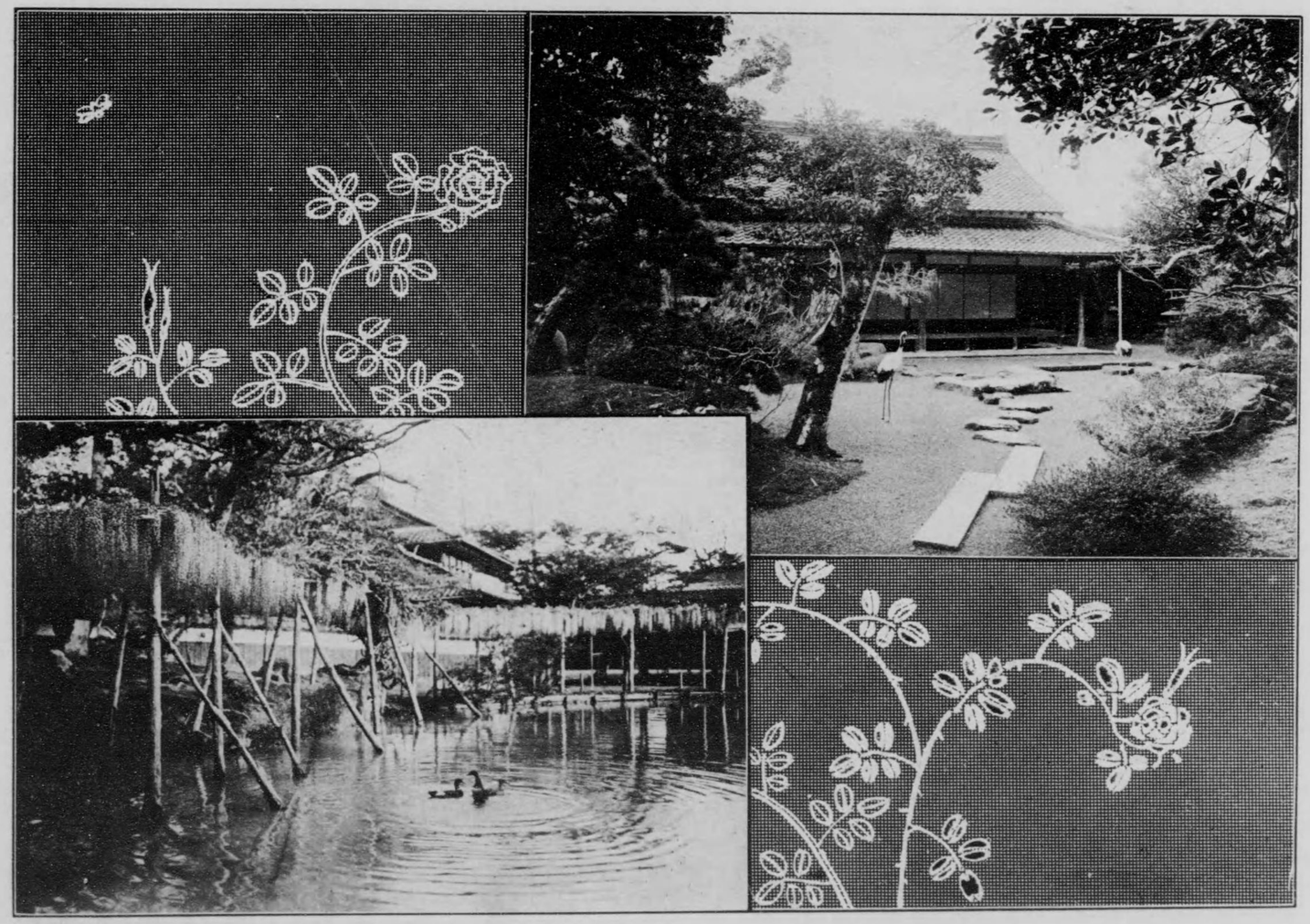
大社教本院

大社の西、素鷲川を隔てゝ鶴山の麓にあり。本祠は大國主命を主神として奉齋す。明治六年正三位千家尊福男の創設に係る。男は天穗日命の後裔八十代の出雲國造なり。本院は初め出雲大社教會と曰ひ、社務所に併置せしが明治十二年現在の地に轉じて大社教と公稱し、大に教旨の普及を圖れり。爾來今日に至るまで全國に分院教會所を開くもの數百、職役員を有する八萬、信徒を得る四百餘萬の多きに及べり。現管長は千家尊愛氏にして國造家の連枝たり。毎年春秋二回(四月、九月、共に十五日より十七日まで)教會大祭を行ふ。遠近の信徒、東西より踵を接して集り頗る繁賑を極む。

The Taisha-Kyō Head office.

出雲國造千家家は、天照大神の勅して出雲大社の祭主に任じ給ひし天穗日命の後裔なり。邸宅は大社の西、素鷲川を隔てし鶴山の麓にあり。その書院は明治四十年の新築にして、今上陛下の東宮に在せし頃、出雲大社に御參拜の折、御座所に充てられたり。本院庭

本院庭園と千家邸庭園



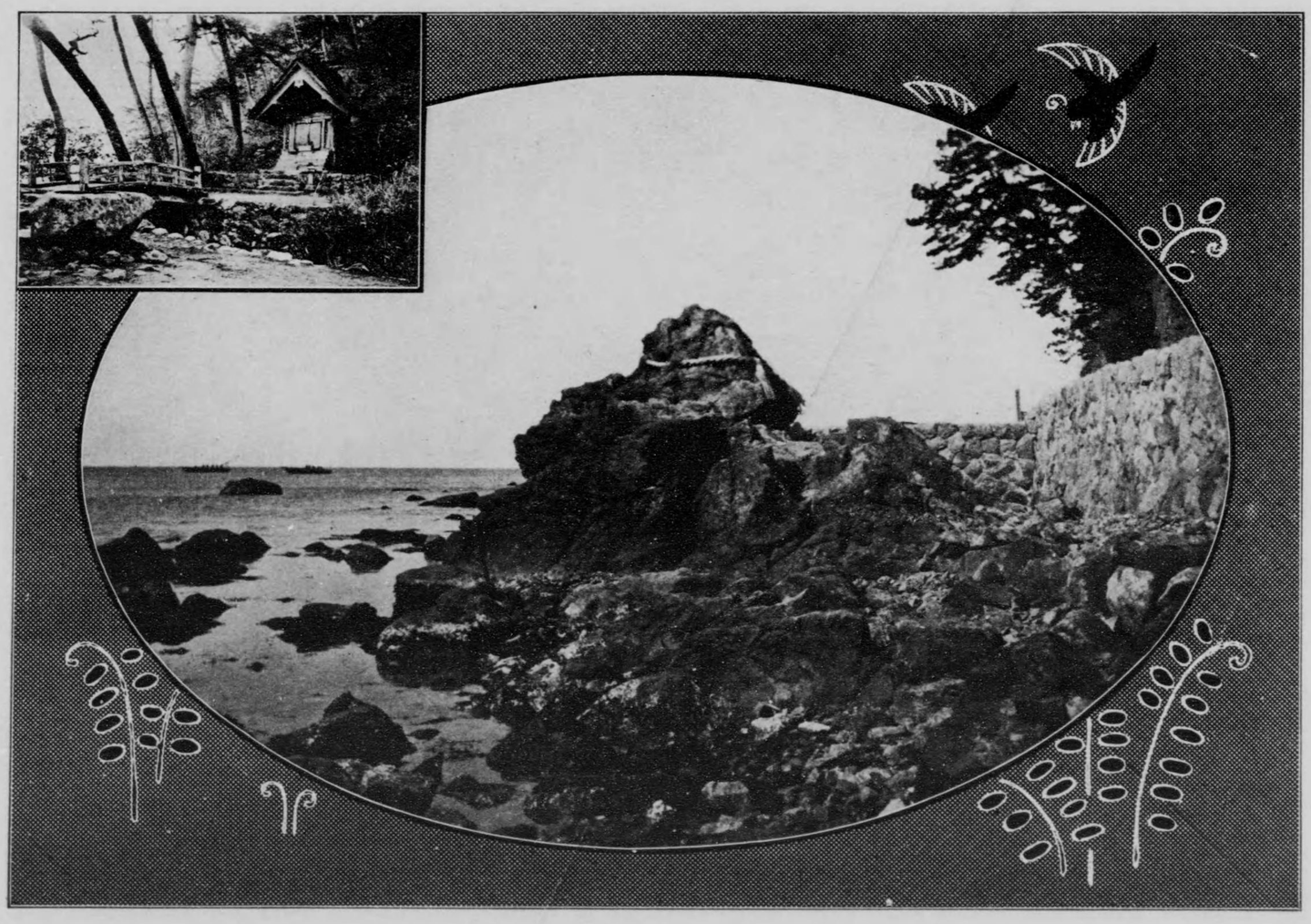
Garden of Senke Residence.

出雲國造千家家は、天照大神の勅して出雲大社の祭主に任じ給ひし天穗日命の後裔なり。邸宅は大社の西、素鷺川を隔てし鶴山の麓にあり。その書院は明治四十年の新築にして、今上陛下の東宮に在せし頃、出雲大社に御參拜の折、御座所に充てられたり。本院庭園は千家邸の一部にして林泉射石の美を以て鳴る。即ち鶴山を後に控え、素鷺の清流を引きて池となし。嘉樹を栽え苔石を配す。池水靜かにして魚鱗遊び、四邊閑雅にして翠禽鳴き、清絶幽邃、自ら仙境の趣あり。池邊藤架あり。花時、紫雲水に映じて頗る美觀を爲す。

の多きに及べり。現管長は千家尊愛氏にして國造家の連枝たり。毎年春秋二回(四月、九月、共に十五日より十七日まで)教會大祭を行ふ。遠近の信徒、東西より踵を接して集り頗る繁賑を極む。

鹽燒島と因佐神社

因佐神社は稻佐濱にあり。老松林立、幽寂頗る風致に富む。本社より八丁にして至るべし。祭神は建御雷神なり。皇祖天神の御使として經津主神と共に五十田狭の小汀に天降り、大國主神と國土奉献の大事を神議り給ひしにより此地に鎭座す。稻佐は即ち古の五十田狭の小汀なり。鹽燒島は灣内の一勝景として知らる。昔大國主神、皇祖天神の命を奉じ、國土を天孫に避りて多藝志の小濱に築かれたる宮殿に鎭り示しける時、櫛八玉神を膳夫として天の御饗を献り給ふ。此地即ち供進の料を求め給ひし舊蹟なり。毎年八月十四日夜、神幸祭を行ふは此神緣に因れるなり。



Shiotaki-jima(Isle) and Inasa Shrine.

稻佐小濱より日御崎に通ずる航路にあり。立島とも曰ひ、又、筆投島の稱あり。蓋し畫家筆を投じて茫然たりしと言ふにより。島身總て岩石、老松數幹枝を垂れて蛟影水に映じ、颯々の聲轟轟の音と相應ずるもの日夜止まず。對岸一碧を隔てゝ石見の三瓶を望み、

れたる宮殿に鎭り示しける時、櫛八玉神を膳夫として天の御饗を献り給ふ。此地即ち供進の料を求め給ひし舊蹟なり。毎年八月十四日夜、神幸祭を行ふは此神緣に因れるなり。

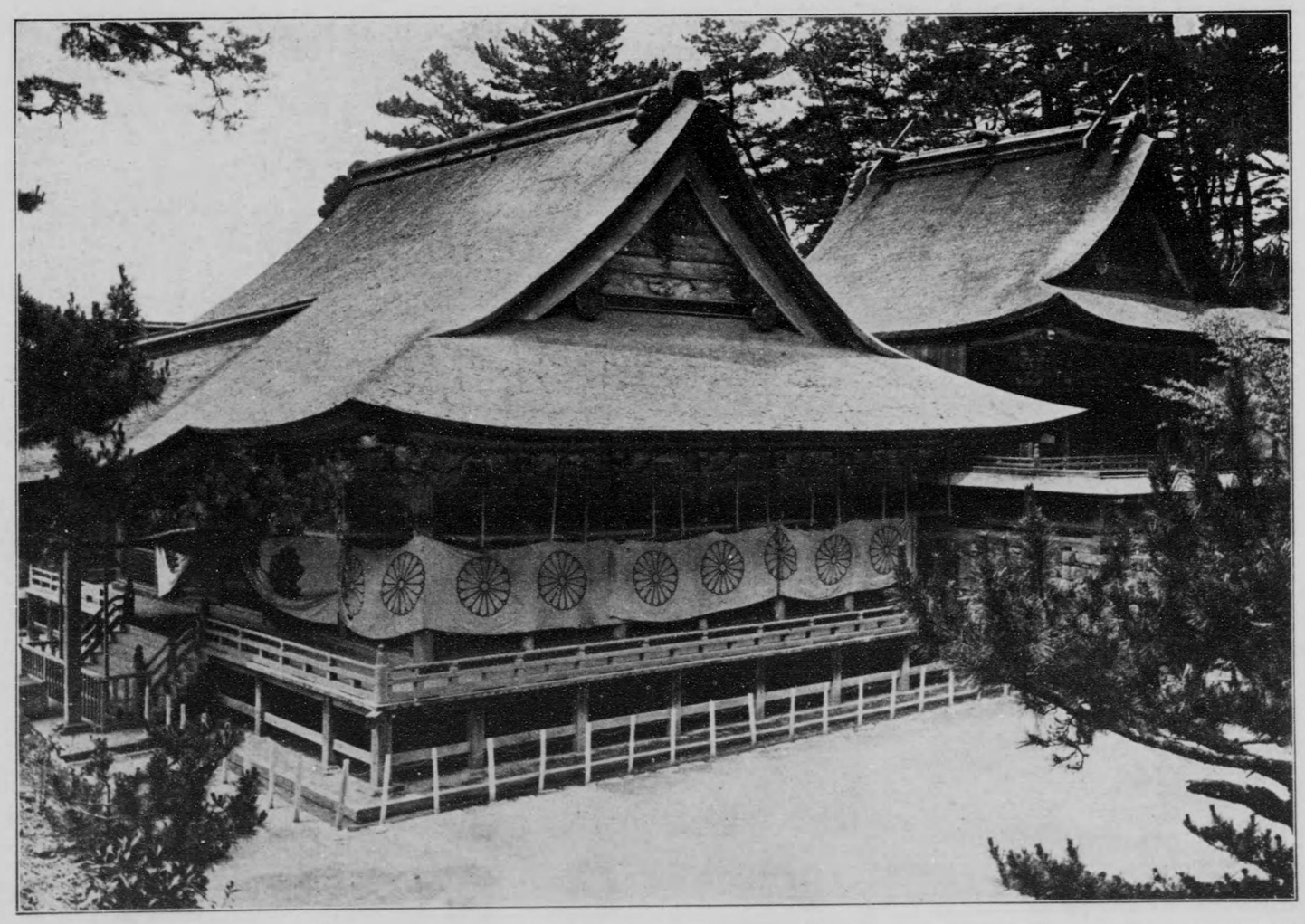
松島

Matsu-shima (Isle).

稻佐小濱より日御崎に通ずる航路にあり。立島とも曰ひ、又、筆投島の稱あり。蓋し畫家筆を投じて茫然たりしと言ふにより。島身總て岩石、老松數幹枝を垂れて鮫影水に映じ、颯々の聲韾韾の音と相應ずるもの日夜止まず。對岸一碧を隔てゝ石見の三瓶を望み、征帆悠々暮靄に入るの佳景、眞に灣内絶勝の名に背かず。その他堤島、門石島、磯岩、黑田灣小島嶼等、此航路の景勝として有名なれども、總て陸路より之を見るを便とす。

日御碕神社下宮

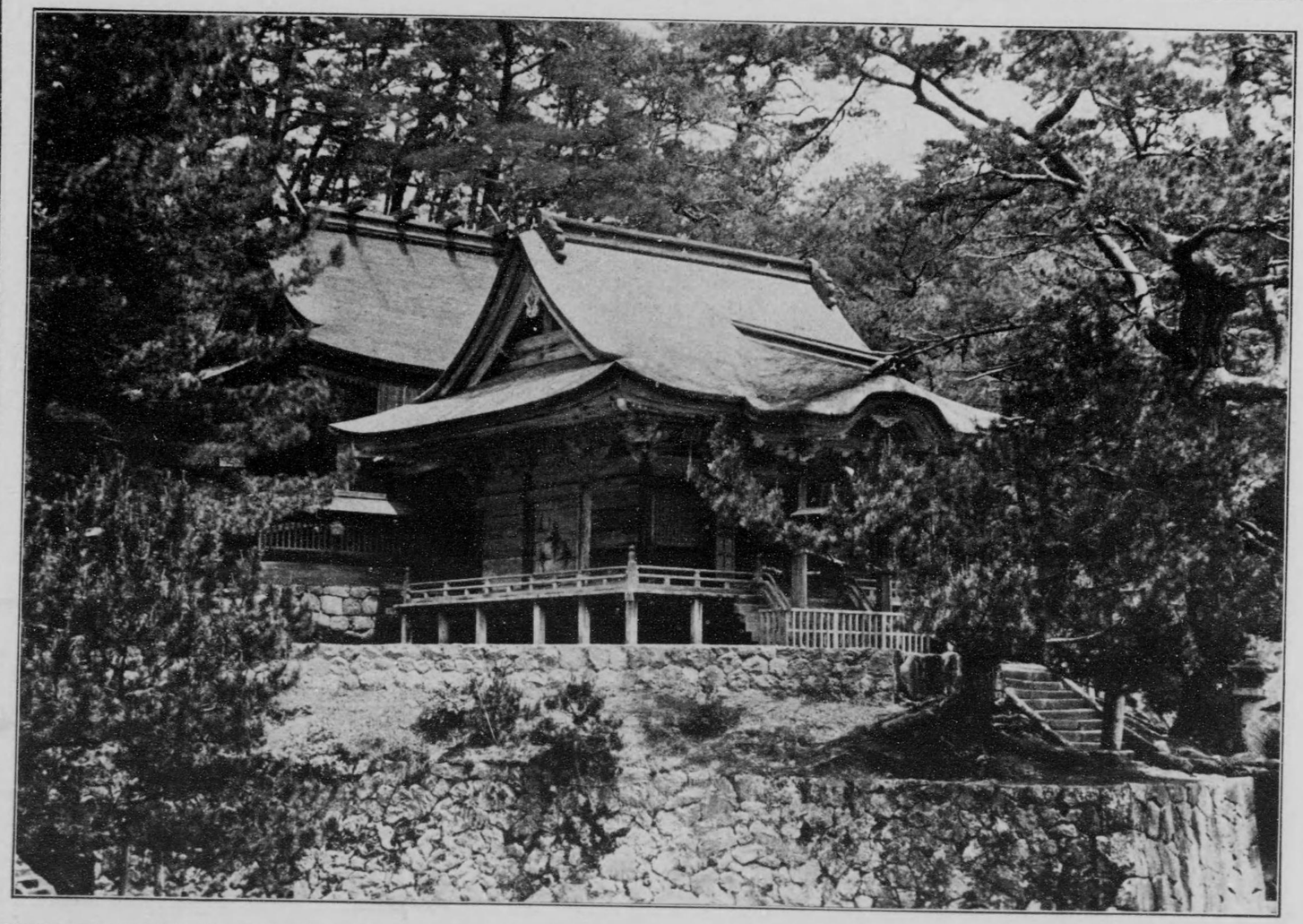
國幣小社、日御碕神社は本社二宇あり。低地にあるを下宮とし、天照大神を祀る。日鎭宮（又、日沈宮）と稱し、日沒以後の餘映を照すの地として鎭座まします。今の宮司小野男爵の遠祖、天穗根命御碕文島に出てし時、島上百枝松の邊に輝く神あり。命仰ぎ見れば天照大神なり。大神宣はく「吾は日の御神なり。此島に降臨して天下の蒼生を惠まんとす。汝速に我を祀れ。」即百枝松を神木として祀り給ふ。後、開化天皇神殿を造營す、風土記に所謂百枝魂社是なり。村上天皇の天曆二年、今の地に遷宮す。本殿五間四方高さ四丈五尺、拜殿七間半に六間半、共に建築宏壯雄麗を極む。



Shimo-no-miya, Hinomisaki Shrine.

境内高地にありて下宮と相對す。松樹扶疎社頭を蔽ひ、頗る幽絶の趣あり。本殿は二間五尺四方高さ三丈六尺、拜殿三間四面、素盞嗚尊を祀る。本社はもと隱岡に鎭座せしを、安寧天皇の十三年今の地に遷したり。初め壙、高天原にて天つ罪を作り根の國（朝鮮）に下り給ひ、曾尸茂梨に居給ひしが、埴土もて作れる舟に乘り海を航して出雲の簸川上に上り給ひ、八股の大蛇を退治して稻田姫と婚

日御碕神社上宮



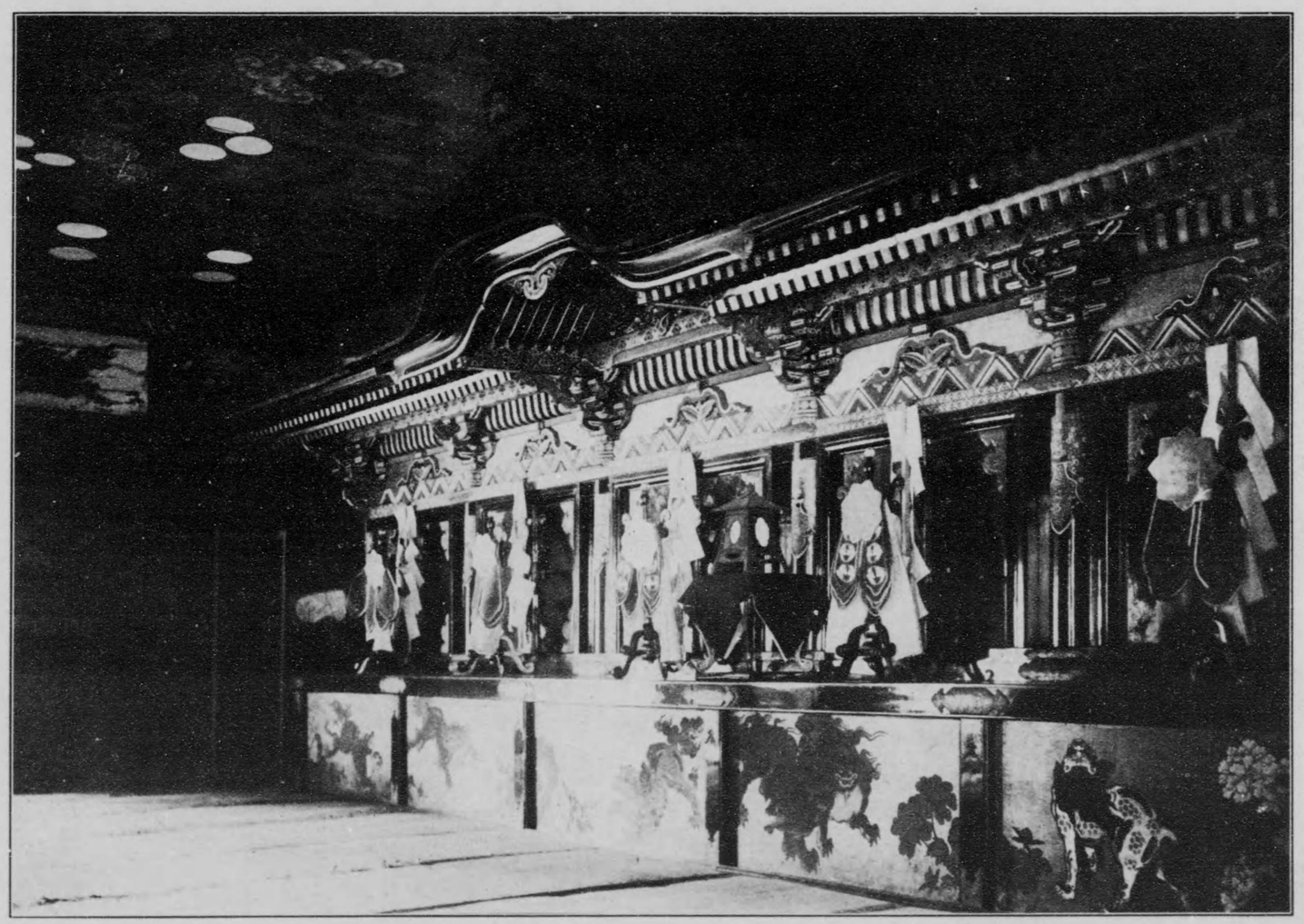
Kami-no-miya, Hinomisaki Shrine.

境内高地にありて下宮と相對す。松樹扶疎社頭を蔽ひ、頗る幽絶の趣あり。本殿は二間五尺四方高さ三丈六尺、拜殿三間四面、素盞嗚尊を祀る。本社はもと隱岡に鎭座せしを、安寧天皇の十三年今の地に遷したり。初め尊、高天原にて天の罪を作り根の國（朝鮮）に下り給ひ、曾尸茂梨に居給ひしが、埴土もて作れる舟に乘り海を航して出雲の簸川上に上り給ひ、八股の大蛇を退治して稲田姫と婚し數多の御子を生み給ふ。最後に熊成峯に上り柏葉を以て占を爲し、詔して曰く「吾神魂は此葉の止まる處に住まんと欲す。」乃ち風に拋ち給へば翻々として隱岡に止まれり。依りて天葺根命此に齋祭る。岡は今の社地の東數丁の山上にあり。

り給ふ。後、開化天皇神殿を造營す、風土記に所謂百枝魂社是なり。村上天皇の天曆二年、今の地に遷宮す。本殿五間四方高さ四丈五尺、拜殿七間半に六間半、共に建築宏壯雄麗を極む。

下宮内陣

唐破風三手先造にして神殿五座、御戸は凡て黒漆塗鍍金金具なり。鏡臺五箇を配置す。鏡臺は黒漆にして鏡の上には各種寶石の飾あり。破風下懸魚蟇股鬼板等は各種の巧麗なる彫刻にて、總て黒朱金の極彩色を施せり。蹴込は金地に彩色の牡丹に唐獅子、天井は鏡天井にして彩色の十種靈寶を描けり。左右の欄板小壁等は總金にして經が島御幸、天人舞樂、龍、鳳凰等を畫く。總て極彩式にして殿内金碧燦然、華麗言ふばかりなし。中央の燈籠は鐵製にして、光格天皇の御寄進なり。



Hall of Worship. Shimo-no-miya.

北、宇龍港に隣り、東南黒田灣と連る日御碕は、西南日本海に臨みて大小幾多の島嶼を有す。圖は其文島群鷗の光景とす。右方、遙かに見ゆるは日御碕燈臺なり。一等燈臺にして基底より燈火まで十三丈、射光力七十海里、白色廻轉四心燭なり。石造にして凡て七

文島群鷗

Flock Sea Gulls in the Fumi-jima(Isle).

北、宇龍港に隣り、東南黑田灣と連る日御碕は、西南日本海に臨みて大小幾多の島嶼を有す。圖は其文島群鷗の光景とす。右方、遙かに見ゆるは日御碕燈臺なり。一等燈臺にして基底より燈火まで十三丈、射光力七十海里、白色廻轉四心燭なり。石造にして凡て七層、海面を拔くこと二十餘丈に及ぶ。臺上、水に臨んで眸を放てば多古、須佐、鶴島等の景勝歷々として迫り、蒼波千里天に連る所隱岐の空螺、杳として洋心に點ずるを見る。蓋し又一偉觀たるを失はず。

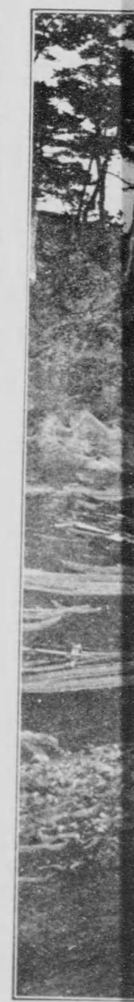
天井にして彩色の十種靈寶を描けり。左右の欽板小壁等は總金にして經が島御幸、天人舞樂、龍、鳳凰等を畫く。總て極彩式にして殿內金碧燦然、華麗言ふばかりなし。中央の燈籠は鐵製にして、光格天皇の御寄進なり。

日御碕海岸

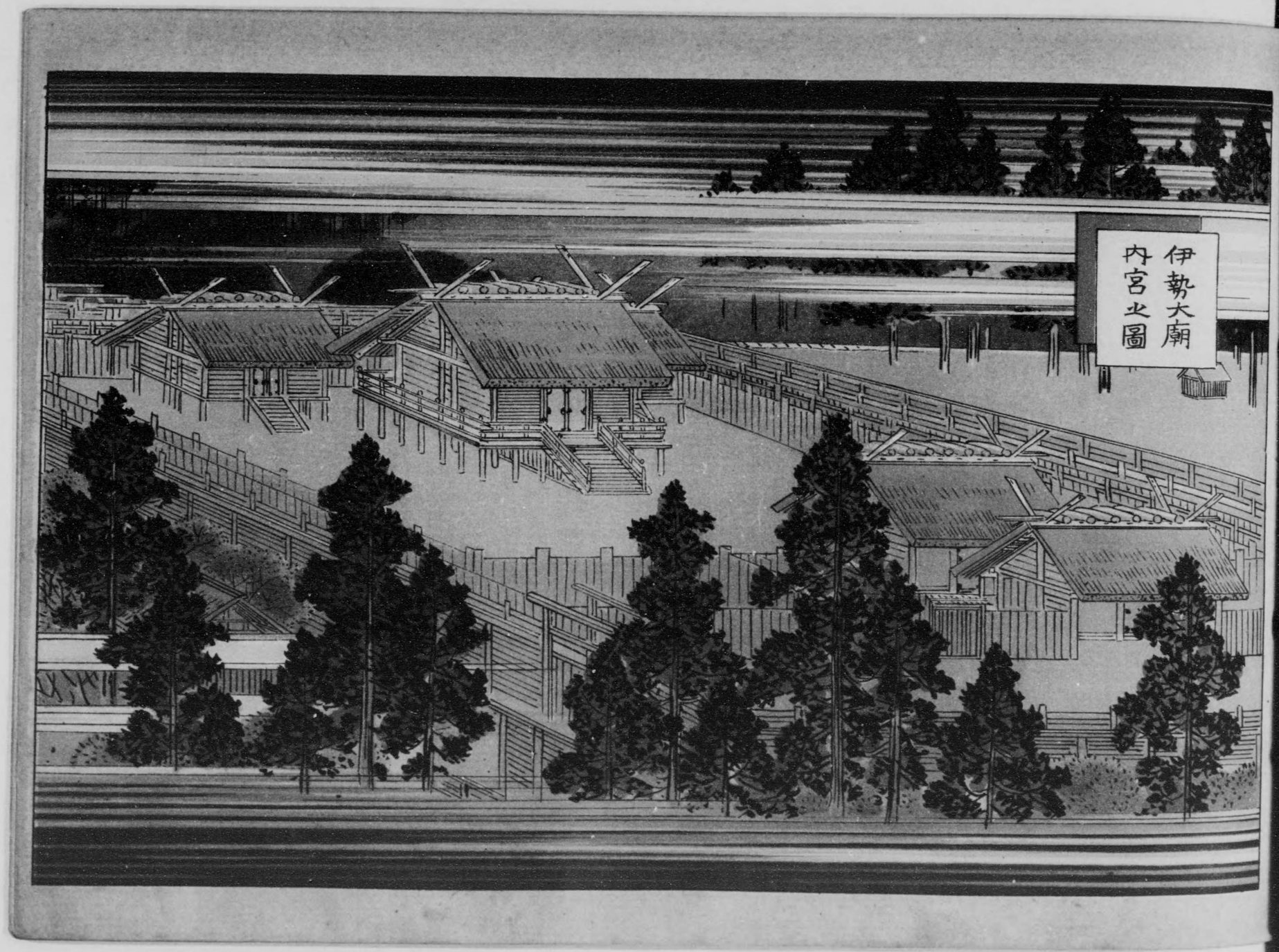
日御碕は杵築の北海岸に連れる半島的地形の總稱にして、出雲北山脈の終極なり。圖は其海岸にして遠く鞆島を煙波の間に望み、近く黑島赤島厩島文島鎧島其他無數の岩礁點々と海上に散在するを指呼し、眺望絶佳、殊に夕照の壯觀は最も世に知らる。日沈宮の鎭り給へる靈地、蓋し所以なきにあらざるなり。又、此海邊一帶和布を産す。御碕和布と言ひて名高し。成務天皇の六年正月五日の早朝、一羽の白鳥潮滴る和布を喇みて神社の柵に掛けて去る。斯くする事三度、社人之を奇とし、淨水にて洗ひ神前に奉る。爾來毎年一月七日和布刈神事を行ふ。由緒ある祭典の一なり。

Hinomisaki Seacoast.

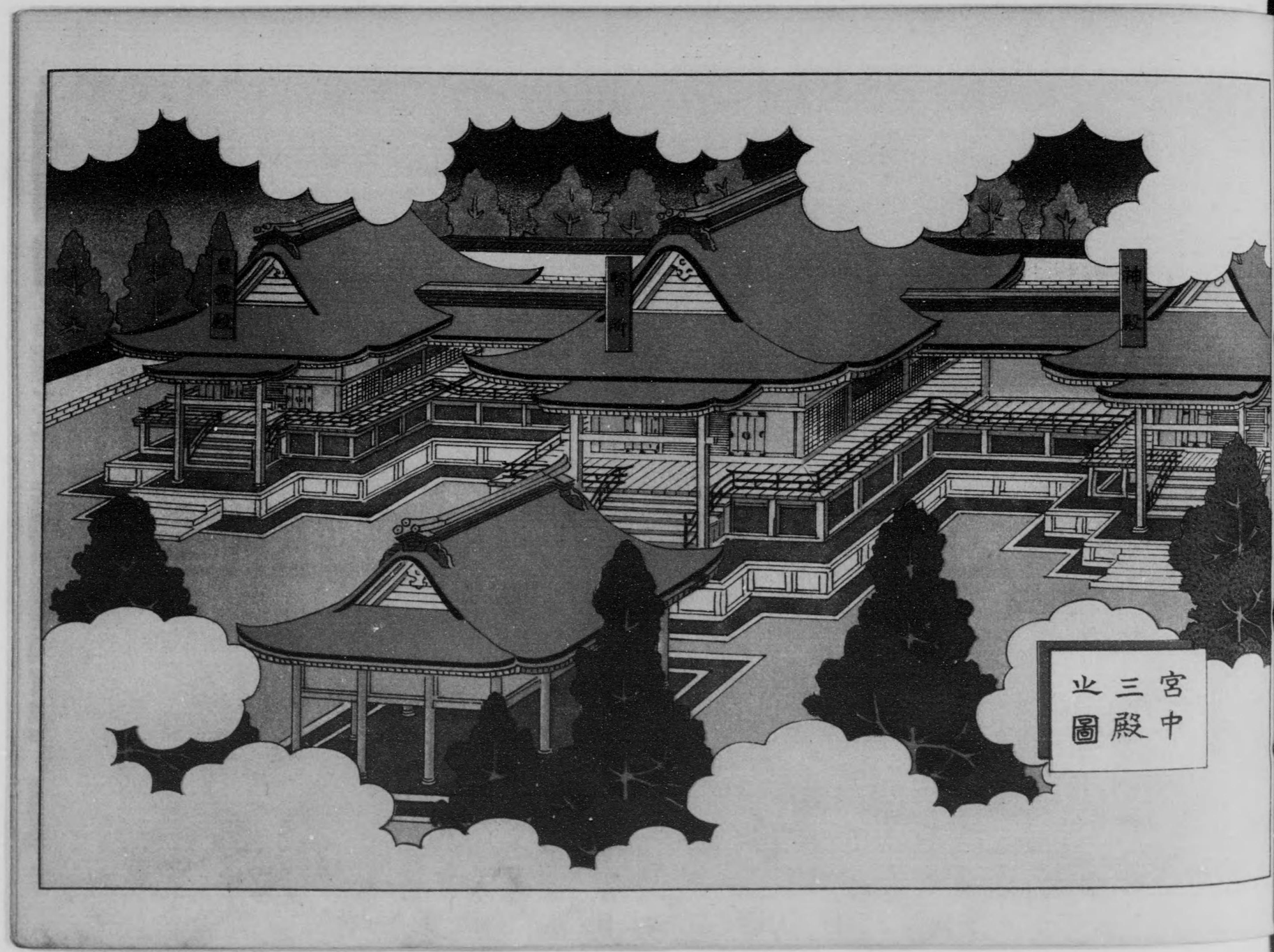
日本名勝續



朝、一羽の白鷺潮滴る和布を咥ひて神社の棚に掛けて去る。斯くする事三度、此人之を訝とし、浮水にて社の神前に赤る。爾來毎年一月七日和布刈神事を行ふ。由緒ある祭典の一なり。


伊勢大廟
内宮之圖

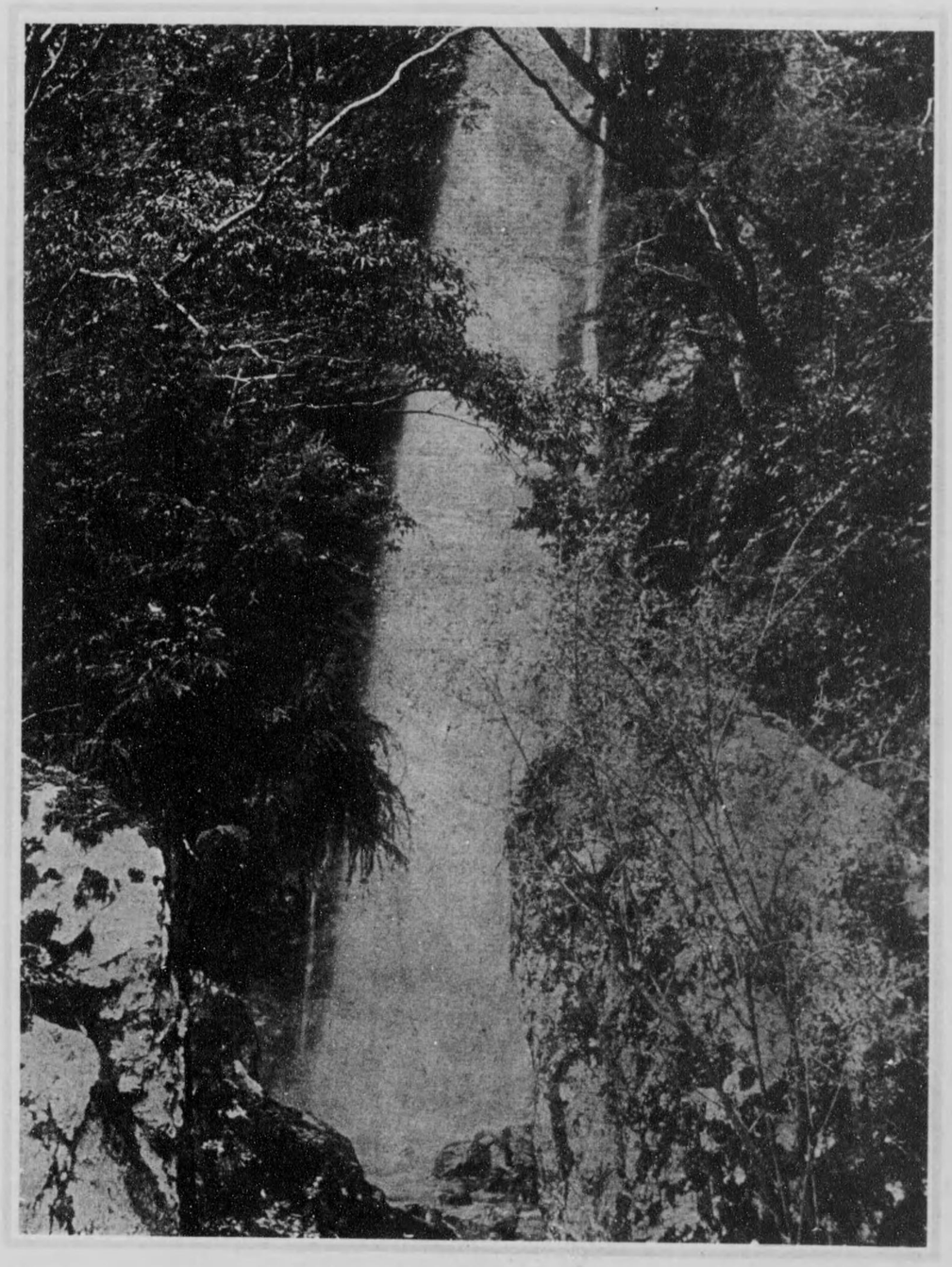
露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

養老の紅葉

岐阜縣養老郡養老村に在り、孝子源丞内の事蹟は、普く世人の知る處なり、元正天皇此地に行幸ありて、靈泉の瑞を感賞せられ、之を養老と云ふ、其二年再び行幸あり、聖武天皇天平十二年伊勢行幸の時、亦此地に臨幸し給ふ、其年國史に記するが如し、瀑布の高さ約百尺、古來著名なり、今附近八十餘町歩は、之を公園とす、園内櫻楓其他の樹木に富み、春花秋葉頗る遊賞に適し、養老神社、養老寺等其内に在り。一條兼貞の歌に『わかえつゝ見るよしもかな瀧の水老を養ふ名に流れなは』と、今や季秋に入りて紅葉重疊し、唐紅の水流るゝ態、千早ふる神代も聞かぬ勝地なり。



The Yōrō Fall at Ōgaki, Mino.

阿　漕　ヶ　浦

Sea-Side Akogi-ga-ura, Ise.

參宮線津驛より二十町を隔つる海岸にして、阿漕ヶ浦の舊事は、頗る人口に膾炙し、淨瑠璃院本に名高し、傳へ云ふ、昔此地は伊勢神宮に獻ずる御贄を漁する處にして、漁獲嚴禁の地なりしが、一漁夫平次なる者、夜に乘じて網を投じ、事露はれて刑に就くや、以後毎年其事ありし夕に當り、海上人無くして、網を投ずる聲あり、里人爲に祠を建てゝ、漁夫の幽魂を慰むと。浦上の叢林に碑一基あり、阿漕塚の三字を刻す、其下芭蕉の句に『月の夜の何を阿古木に啼く千鳥』

兵庫縣城崎郡内川村に在り、こゝに玄武洞と稱する鐵道停車場あり、主として遊覽客の便に供ふ、洞は俚俗石山と呼ぶ、全山悉く巖石より成る、其形柱の如く、堆積して山を成す、六角八角の石柱は竹を束ねたるが如くに、斜に山側に横はり、其狀恰かも描ける玉簾の絲房の風に飜へるを見るが如し、又洞の前後左右、五角乃至八角の標柱形を成せる黑き堅石の長さ數十丈な